

千八百七十七年 魯土戰史筆記第九回 明治廿一年四月廿日

前ニ論セシ如ク魯軍「ダニユーブ」川ヲ渡ルヤ先ツ其軍隊ヲ集結シ以テ土軍ノ各個ヲ各別ニ擊破スヘキナリ土國ノ本軍ハ四角要塞ノ掩護ニ依テ其内部ニ閉居セリ故ニ先ツ擊破スヘキハ「バルカン」南方「スレイマンパシヤ」ノ軍隊カ或ハ之ヲ爲スニ最も容易ナル「プレブナ」^{Balkan}「オスマンパシヤ」ノ軍隊ナリ而シテ其孰レヲ撰ムヘキヤハ魯軍ノ任意トス
魯軍若シ「プレブナ」ヲ攻撃セントセハ如此廣正面ヲ領ス可ラス魯軍ハ三方向ノ敵ニ對シテ正面シ其軍隊ヲ分離セシカ爲メ本國ヨリ増援兵ノ來着スル迄守勢ヲ取ラサル可ラサルニ至レリ

此間「メヘメーアリ」ハ土國本軍ヲ率ヒ「ジヤントラ」河孟ニ向テ魯軍ノ爲メニ最も危險ナル攻撃ヲ爲セリ而シテ魯軍ハ反テ「プレブナ」^{Mehemet Ali Jantia Plevna}第三ノ攻撃ヲ爲シテ失敗ス

此時ニ當リ土將「オスマンパシヤ」之ヲ追撃セス「メヘメーアリ」亦タ四角
要塞内ニ退去ス故ニ魯軍ハ不幸中ニ饒倖ヲ得タリ「シプカ」Schipka 峠ニ對スル土將

「スレイマンパシヤ」ノ攻撃ヲ支保シ得シモ亦大幸ト云フヘシ
之レニ因テ觀レハ魯軍ノ働作中一部ハ其當ヲ得シモノアルカ如シ然レモ是レ

魯軍ノ求メテ爲セシニ非スシテ土軍ヨリ附與セラレシモノナリ

土軍ノ失策トスヘキモノ亦タ多シ即チ左ノ如シ

其一 土將「スレイマンパシヤ」ハ他ニ迂迴シ得ル道路ノアルニ關セス「シプ
カ峠ヲ強攻セシモノ是レナリ」Suleiman pasha

其二 「オスマンパシヤ」ハ能ク魯軍ノ攻撃ニ對シテ常ニ利ヲ得而シテ毎ニ之
ヲ追撃セス却テ「プレブナ」内ニ駐止セリ
Osman pasha

其三 土軍總督「メヘメーアリ」ハ一致ノ合力ヲ以テ勇敢ナル攻勢ヲ取ラサリ
シ是レ最モ大ナル過失ナリ
Mehmet Ali

然レモ「メヘメーアリ」ノ過失ハ稍恕スヘキモノアリ諸將官ノ不和及ヒ本軍ノ
三分ノ一ハ埃及軍ヨリ成ルノ二事是ナリ
Mehmet Ali

埃及軍ノ怯懦ナリシハ其後三年ニ於テ英國ト戰ヒシ時ヲ以テ証スルニ足ル實
ニ英軍ハ十二三人ノ死傷ヲ爲セシニシテ埃及軍ヲ撃破スルヲ得タリ故ニ

「メヘメーアリ」カ埃及軍ヲ用ユルニ足ラスト爲セシハ不當ニ非サルナリ
Mehmet Ali

「メヘメーアリ」ノ苦慮セシハ當ニ其部下ノ不遜ナルノミナラス「コンスタン
チンツプル」ニ於テモ亦同氏ニ反對セントスルノ黨派アリシニ因レリ
Mehmet Ali

或謂フアリ埃及王ハ應ニ賞ヲ懸ケテ「メヘメーアリ」ニ反對セシメシト
opio

已ニ述フルカ如ク「メヘメーアリ」ハ九月下旬ニ於テ攻撃運動ヲ廢止セリ其理
由トスルモノ左ノ如シ
Mehmet Ali

一「メヘメーアリ」ハ魯國近衛軍團ノ已ニ戰地ニ近邇セルヲ聞知ス故ニ慢ニ攻
勢ヲ取レハ終ニ優勢ナル敵ニ出會シ其勝取得テ期ス可ラサルニ至ラン又西
Mehmet Ali

方「オスマンパシヤ」ハ「ソビヤ」ヨリ新ニ一萬二千ノ増加兵及ヒ多數ノ糧食
Osman pasha Sophia
彈藥ヲ得タリ以テ自ラ固フスルニ足ル故ニ今遽ニ之ヲ援助スルノ必要ナシ
乃チ之レカ援助ヲ爲サンカ爲メ本軍ヲ以テ決戦ヲ爲シ其運命ヲ賭セントス
ルカ如キハ無謀ノ策ナリ宜シク四角要塞内ニ退陣シ以テ其運命ヲ全フスヘ
シト

二部下ノ軍隊ハ攻撃ヲ爲スニ適セスト
同氏ノ此ニ至ル迄爲セシ作戰ノ景況ニ因テ觀レハ真ノ攻撃ヲ爲スニ非スシ
テ機動ヲ以テ敵ヲ退却セシメントセシモノ、如シ同氏ノ策果シテ此ニ出シ
ナレハ其一部ハ功ヲ奏セシモノナリ即チ魯國第十二第十三軍團ハ「メヘメ
Ali」ノ大軍處々ニ前進運動ヲ爲セシカ爲メ退却セシモノナリ
三「メヘメアリ」ハ部下ノ軍隊ノ信用セサルノミナラス季節ノ既ニ攻撃ヲ爲
Mehemet Ali
スニ適セサルヲ知ル

冬季ハ己ニ近シ酷寒ヲ「ビュルガリー」地方ニ於テ經過スルハ最モ困難ナリ
Bulgaria
且ツ今ヤ秋季大雨ノ候ナリ之レカ爲メ道路ハ變シテ殆ント沼地トナリ軍隊
ヲ運動セシム可ラス加之「ダニユーブ」川水量ヲ増加シ通過困難ナルニ至ル
Danube
之レニ次ク處ノ降雪酷寒ハ「ダニユーブ」河ヲ氷結スルカ或ハ諸橋梁ヲ毀壞
Danube
スルニ至ル

是ヲ以テ「メヘメアリ」以爲ラク冬季ハ魯軍背後ノ連絡ヲ頗ル危カラシム
Mehemet Ali
故ニ彼レ戰ヲスシテ去ラン此時季ニ至ル迄魯軍ヲ支保セハ己ニ足レリ豈ニ大
決戦ヲ爲シテ運命ヲ賭スルノ危キヲ爲スヲ要センヤト
「メヘメアリ」ノ此考案ハ戰史上ニ基クモノナリ是ヨリ先キ魯國ハ土國ニ
Mehemet Ali
對シテ四回ノ戰爭ヲ爲セリ而シテ魯軍ハ一回タモ「ダニユーブ」川ヲ超過セ
Danube
サルコナシ然レモ冬季ニ至レハ毎ニ川ヲ超エテ去レリ

魯國新聞紙其他各國ヨリ刷出スル諸種ノ文書ハ魯軍カ冬季ニ至ルモ猶オ「ビ

ブルガリア地方ニ於テ戦闘ヲ續行スヘキヲ掲ク「コンスタンチノツブル」ノ
 土廷之ヲ見ルヤ更ニ「メヘメーアリ」ニ攻勢移轉ヲ促ス然レモ「メヘメーアリ」
 ハ前件ノ理由ヲ以テ之ヲ辭ス曰ク魯軍若シ戦闘ヲ續行セントセハ彼レノ意ニ
 任セシムヘシ之レニ應對スルモノハ季節アリ秋季ノ大雨ト冬季ノ酷寒ニ際シ
 徒ニ我軍隊ヲ疲勞セシメ且ツ死地ニ陥ラシムルハ獨リ狂人之ヲ爲スヘシ予ハ
 之ヲ爲スヲ得スト
 實ニ此考慮ハ不當ニ非サルナリ
 魯軍ハ「プレブナ」ニ於テ三敗シ且ツ同所ニ土軍ノ増加兵來着セシヲ知ルヤ先
 ツ退却ノ必要ナルヤ否ヲ考慮セサルヘカラス「ダニユーブ」川水量ヲ増加シ背
 后ノ連絡危険トナルヲモ顧ミス「ビュルガリ」ニ駐止スルハ投機ノ策ナリ又
 假令退路安全ナリトスルモ此地方ニ於テ冬季戰ヲ爲サントスルハ不當ナリ
 魯軍ハ此投機ノ策ヲ採ルニ決セリ是レ國ノ榮譽ハ之ヲ爲サ、ルヲ許サ、ルナ

「プレブナ」
 西方ニ於ケル
 魯將「クリ
 ロフ」
 ノ働作

リ魯軍ハ此策ヲ實施スルニ當テ依頼スヘキモノハ唯士卒ノ性質ナリ魯軍ノ士
 卒ハ能ク酷寒ニ堪ユルノ習慣ヲ有ス且ツ其耐力ニ富ムハ他ニ比類ヲ見サル
 所ナリ士卒ノ此良性質ハ屢々司令官ノ過失ヲ補ヒシコアリ
 今ヤ魯軍ニハ本國ヨリ多數ノ増加兵來着セリ而シテ背後ノ交通ニハ鐵道アル
 ナリ昔日ニ比スレハ便ナリ此鐵道ハ軍隊ノ輸送ニハ適恰ナラサルモ糧食等
 ノ運搬ヲ大ニ容易ナラシメタリ此利ヲ益大ナラシメンカ爲メ魯軍ハ更ニ
 「ザユルザエウチ」ヨリ「シストウア」ニ至ル線ヲ増設セリ
 魯軍ハ「プレブナ」第三ノ敗後「サスマンバシヤ」ノ軍ヲ長圍シテ之ヲ孤立セシ
 メント欲ス然レモ本國ヨリ増加兵ノ來着スル迄「プレブナ」西方ノ面ハ唯騎兵
 ナリテ監視スルニ止マル即前ニ述ヘシ如ク魯國及「ルーマニ」國ノ連合騎兵五
 十中隊騎砲三十門ハ將官「クリーロフ」ノ指揮ニ屬シ九月十九日「ドルニード
 ヴブニアク」ニ集合ス然ルニ「クリーロフ」將官ハ屢々其作戰ヲ過テリ即チ左
 Doubnik Krylof Krylof

ニ述フルカ如シ

「オスマンパシヤ」ハ「プレブナ」ニ於ケル第三勝利ノ後冬季ニ至ラサル前途却
 ナ爲サントセリ然レモ「コンスタンチノツプル」ニ於ケル軍事會議ハ之ヲ許サ
 ス依テ「ソビヤ」ト「タルク」ハ「新軍隊ヲ編成ス土將「シエフケトパシヤ」之ヲ
 率ニ此新軍隊ハ多數ノ糧食ト彈藥ヲ「プレブナ」ニ携行スルノ任ヲ有ス
 魯將「クリーロフ」ハ其本營ヲ「ドルニードウブニアク」ニ置キ西方ヨリ「プレ
 ブナ」ニ對シ監視ス騎兵六中隊砲二門ヨリ成ル偵察隊ヲ「テリシユ」ニ派遣ス
 此支隊ハ九月二十日土軍ニ衝突セリ而シテ土軍騎兵ノ背後ニハ步兵縱隊アル
 ナ視ル二十一日ニ至リ更ニ騎兵十四中隊砲六門ヨリ成ル偵察隊ノ報告ニ因テ
 前報ヲ確實ナラシム

二十二日「ドルニードウブニアク」ニ向テ土軍前進スルヲ知ル又魯軍ノ背後ニ
 向テ「プレブナ」ヨリ出撃シ來ルノ報告ヲ得魯將「クリーロフ」ノ諸隊ハ「トレ
 Plevna Dorny Dohniak Krylof

ストニク」ニ退ク其後衛ハ土軍凡ソ一万二千人砲兵二中隊及ヒ多數ノ糧食彈
 藥「プレブナ」ニ入ルヲ視ル
 Plevna

「クリーロフ」ハ騎兵二旅團ヲ「トレストニク」南方ニ留メ殘餘ヲ以テ「ラホウ
 Krylof Presnik Rahova
 ア」ニ進向ス實ニ此動作ハ其理由ヲ解ス可ヲサルモノナリ

「ラホウ」ハ「ダニユーブ」河畔ニアリ土製角面堡ヲ以テ其周圍ノ防禦ヲ堅固
 Rahova Danube
 ニス

魯軍支隊ハ二十六日此角面堡ノ一ヲ砲撃ス然レモ功ヲ奏セス二十八日其退路
 ニ逼迫セリ然レモ亦功ヲ奏セス三十日ニ至リ再ヒ「トレストニク」ニ歸來ス
 Presnik

其一日前魯軍ハ「テリシユ」ヲ經テ「タルク」ハニ「向ヒ」ノ偵察支隊ヲ派遣セ
 リ其報ニ曰ク敵ハ「ルーコウイツ」近傍迄ノ土地ヲ開放セリ本道上「ルーコ
 Orkhanie Loukovo
 ウイツ」附近ノ橋梁ハ之ヲ破裂シ得タリ

十月五日四千乃至五千ノ土軍「ラドミルツ」ニ現ハル其他制外軍騎兵五千人
 Radomirza Louko

編者記ス
 第四号圖中
 「ルーコウ
 アイツ」ニ
 アリ此ニ記
 スモ「ルー
 プレブナ」
 ヨリ「ラホ
 ク」ニ
 通スル道路

上ニアルモ
ノナリ以下
之レニ倣フ
編者記ス
將官「クリ
イロフ」ノ
「ラホウア
ニ向フヤ大
佐「ルワイ
Loyis
氏ハ俄留騎
兵ノ指揮ヲ
執レリ同氏
ハ長ク勳作
シ且ツ土軍
ノ糧重ヲ多
少奪略セリ
本文ニアル
前方ニアル
シ支隊ノ如
キハ同氏自
ラ指揮スル
所ノモノナ

及砲五門モ亦タ此地方ヨリ「プレブナ」ニ向テ進行ス
「クリーロフ」ハ此時亦タ何事ヲモ爲サスシテ駐止セリ其前方ノ支隊ハ土軍ノ
進來スルニ從ヒ「ナヨウマコウイッパ」ヲ經テ退却ス
「クリーロフ」ノ勳作如此ナリシヲ以テ土軍ノ大ナル糧食ト彈藥ハ危險ナク魯
軍ノ面前ヲ通過シテ「プレブナ」ニ入ルヲ得タリ而シテ其護衛隊ハ更ニ兵站線
ノ守備ニ任ス即チ此隊ハ「ラドミルツア」「テリシユ」及ヒ「ドルニドウブニア
ク」ヲ守備シ其騎兵團ハ「トレストニク」ニ對シ東方ニアル軍隊ヲ掩護ス
此時ニ當リ魯國將官ト「トルベシ」ハ招カレテ此地ニ來着ス同氏ハ「セバスト
ポール」守禦ニ際シ其名最モ較著ナリシ人ナリ今ヤ「プレブナ」ノ攻撃ハ同氏
ノ臨場ヲ必要ト爲スニ至リシヲ以テ更タニ彼得斯堡ヨリ招カレタルナリ同氏
ハ未テ「ルーマニ」候即チ攻撃司令官ノ補助官トナル依テ候ハ同氏ニ大ナル目
由ヲ與フ同氏ハ則チ攻撃ノ順序ヲ定ム

魯將「グ
ルコ」ノ再
來及ヒ土軍
兵站路絶
ル

九月二十八日魯軍ハ「グリウイツア」附近ノ第二角面堡ヲ略取セントセシモ攻
撃ナラスシテ四百人ヲ失フ
十月八日歩兵六大隊ヲ以テ更ニ侵略ヲ試ミシモ功ヲ奏セス復タ千人ヲ失フ
魯國近衛團ハ「プレブナ」ノ戰鬥ニ參與シ得ルニ至レリ是レ土國本軍ハ四角要
塞内ニ駐止シテ勳作セサルヲ以テナリ
近衛團ハ九月下旬「シストウア」附近ニ於テ「ダニユーブ」川ノ渡過ヲ始メ十月
十八日先ツ歩兵三十二大隊騎兵二十四中隊砲百六十二門ヲ「リゼー」及ヒ「ビ
カス」(「ロウア」)ニ集合ス是レ所要ニ應ジ「シブカ」或ハ「プレブナ」ニ進向セシ
メンカ爲メナリ然ルニ今ヤ他ノ戰場ニハ殆ント勳作ヲ停止スルニ至リシヲ以
テ即チ「プレブナ」ニ向テ進行セシムルヲ得ルナリ
魯將「グールコ」再ヒ戰地ニ來リ騎兵團ノ指揮ヲ執ル而シテ魯國ヨリ來着
スル所ノ二個ノ擲彈師團ヲ其部下ニ合シ以テ「プレブナ」西方ノ地ヲ畧取セ

ントス

魯軍此企謀ヲ贊カンカ爲メニハ南方ニ對シテ警戒スルヲ要ス何トナレハ「バルカン」山諸峰ハ土軍ノ領有タレハナリ

Balkan

是迄「セルウイ」ニアリシ格薩ノ第三師團ハ南方警戒ノ任務ヲ受ケ十月六日己

Servi

ニ「トロシヤン」「ロウアツ」ノ南ニ在リ偵察隊ヲ「テテウエン」ニ派遣ス同地

Trojan

Lowetz

Televen

ハ未タ土軍ノ有スル所ナリ

魯將「グールコ」「プレブナ」西方ノ地ヲ領セント欲セハ兵站路守備ノ土軍ヲ驅

Gourko

Plevna

逐セサル可ラス「ドルニードウブニアク」「エルニードウブリマク」及ヒ「テ

Dorny Douhiak

Gorny

Douhiak

リシユ」ニアル土軍ハ凡ソ一万人ト推測セラル

Falsch

將官「グールコ」ハ正面ト右翼ニ近衛師團ヲ展開シ而シテ其右側ハ「プレブナ」

南面ヲ包圍スル魯軍ノ掩護ヲ受ク

十月二十四日「ドルニードウブニアク」ノ土軍ヲ攻撃ス之レニ使用スル兵員歩

Gorny Douhiak

兵三十二大隊砲八十門ナリ

「ドルニードウブニア」ニ向テハ同時ニ大ナル陽撃ヲ爲ス又歩兵四大隊砲兵

Dorny Douhiak

一中隊ヲ以テ「テリシユ」ノ土軍ヲ羈縻シ近衛一旅團ヲ以テ「ラドミルツア」ニ

Falsch

Radomirza

對シ監視セシム

是迄「クリーロフ」將官ノ部下ニ在テ「トレストニク」ニアリシ騎兵ヲシテ

Krylof

Trustinik

「エルニードウブニアク」ヨリ「テリシユ」ノ道路ニ向テ進マシム如此シテ魯軍

Gorny Douhiak

Falsch

ハ土軍ノ兵站路ヲ包圍セリ

又「プレブナ」西方監視ノ爲メ騎兵團ヨリ騎兵七中隊砲兵二中隊ヲ派遣ス此支

Plevna

隊ハ「ルーマニー」國歩兵五大隊砲兵一中隊ヨリ増加セラレ

Romanie

兵站路攻撃ノ間「チスマンパシヤ」ノ軍隊ヲ羈縻スル爲メ周圍ヨリ絶ヘス「プ

レブナ」ヲ砲撃ス

Osman pachas

「エルニードウブニアク」ノ土軍ハ少クモ四千入及砲四門ナリシ此支隊ハ四

Plevna

「エルニードウブニアク」ノ土軍ハ少クモ四千入及砲四門ナリシ此支隊ハ四

Gorny Douhiak

方ヨリ包撃セラレ援兵ヲ得ルヲナク苦戦ノ後終ニ武器ヲ投シテ降ル之レニ因
テ魯軍ハ負傷ナキ二千二百人ノ生擒ヲ獲タリ然レモ魯軍ハ之レカ爲メ將校百
十六人下士卒三千百九十五人ヲ失フ故ニ其負傷ノ比土軍一人ニ魯軍ノ一人半
ヲ爲ス

「テリシユ」ニ向テ爲セシ攻撃ハ撃退セラレ魯軍千人ヲ死傷ス

「*Teisich*」此日兵站路ノ土軍ヲ攻撃スル爲メ魯軍ハ總計五千三百人ヲ失ヘリ

是ヨリ後四日「*Teisich*」ノ土軍ハ周圍ヨリ六十六門ノ砲ヲ以テ三時間砲撃セ
ラレ終ニ三千人及ヒ砲三門ヲ以テ降ル

「*Radomirtza*」ラドミルツア」ノ土軍ハ「*Teisich*」ノ土軍ヲ赴援セシモ機ニ後ル

「*Dojny Douniak*」ドニードウブニアク」ノ土軍ハ魯軍ノ「*Gorny Douniak*」ニ向テスル運
動ヲ阻碍シ能ク其地ヲ保守スルヲ得シモ終ニ「*Plevna*」ニ入テ「*Osman paeha*」

シヤ」ノ軍ニ合ス又「*Teisich*」南方ニアリシ土國兵站軍隊ハ悉ク「*Orhaniato*」

「*Orhaniato*」

「*Plevna*」ノ方向ニ退却ス

如此シテ魯軍ハ十一月一日遂ニ「*Plevna*」西面ヲ閉鎖シ得ルニ至レリ故ニ

「*Plevna*」ハ全ク外地ノ交通ヲ遮斷セラル換言スレハ今ヤ「*Plevna*」ノ防禦

ハ糧食盡クルノ期ヲ以テ最後ノ日トナスノ秋ナリ

此時ニ當リ近衛第三師團及ヒ二個ノ擲弾師團ハ「*Plevna*」西方ニ來着セリ依

テ將官「*Gorko*」ハ猶南方「*Orhaniato*」ニ向テ前進セントス是レ兵站守備ノ

土軍ヲ勉テ「*Sophia*」ノ方向ニ縮縮セシメントスルニアリ

之レカ爲メ將官「*Gorko*」ハ「*Trojan*」ニアル格陸騎兵第三師團ヲ使

用スルヲ得而シテ其一部分ハ已ニ十一月一日「*Plevna*」ヲ占領セリ

又「*Gorko*」ノ南進スルニ當テ率ユル軍隊ハ近衛第一第二師團獵兵旅團及ヒ

多數ノ騎兵トス其兵員左ノ如シ
歩兵三十六大隊

「*Plevna*」
全ク孤立ス

魯將「*Gorko*」
進

騎兵五十中隊

砲百二十六門

「ブレブナ」包圍ニ使用スル軍隊ハ「ルーマニー」軍三師團管軍八師團半トス而
其攻圍線ノ長サハ七十吉米ニ達セリ即チ六乃至七吉米ニ一師團ヲ配置ス故ニ
攻圍線ノ軍隊ハ甚薄弱ナリ

其他「ブレブナ」攻圍ヲ全カラシメンニハ「ラホウア」ノ方向ヲ警戒セサル可ヲ
ス何トナレハ此地ハ未タ土軍ノ有ニシテ且ツ「ウイジン」ニ通スル道路上ニ
アレハナリ此警戒ノ爲メニハ第一軍團ノ騎兵ヲ使用ス而シテ同軍團ノ砲兵ハ
「ブレブナ」攻圍ニ使用セラル

此間土國本軍ニ大變動ヲ生セリ即チ總督「メヘメーアリ」ハ攻勢ノ取ル可ラサ
ルヲ論シ之ヲ辭セシカ爲メ土廷ハ其職ヲ免シ更ニ「スレイマンパシヤ」ニ總督
ノ任ヲ授ク己ニ述フルカ如ク同氏ハ「シプカ」時ニ於テ非常ノ激戦ヲ爲シ勇名

ヲ顯セシモ戦後ノ後軍律ニ問ハレンドセシ人ナリ

「スレイマンパシヤ」ハ「シプカ」時ニ於テ攻撃主義ヲ示セリ故ニ土廷以爲ラク
同氏ヲ以テ總督トセハ必ス四角要塞ノ本軍ヲ以テ攻勢ニ轉スルナラント

「シプカ」時ニ對スル土軍司令ノ後任ハ「レウフパシヤ」前(海軍卿)ナリ
此ニ於テ管軍以爲アク四角要塞ノ土軍ハ出撃シ來ルナルヘク又「シプカ」時

ニ在テハ巧ナル帥兵ヲ爲スヘシト依テ管軍ハ之レニ應スルカ爲メ皇太子ノ軍
ニ第十一軍團ノ第二十二師團及騎兵第十一師團ノ半ヲ増加ス又皇太子ノ軍ト

「ラデツキー」將官ノ率ユル第八軍團ノ中間ヲ連結スル爲メ更ニ第二十六師團
及七騎兵第十三師團ヲ以テ第十一軍隊ヲ編成ス己ニ知ル如ク第十一軍團ノ他

ノ一部分ハ「ダニユーブ」左岸ニ於テ「ルーナユク」ニ對陣ス
將官「ラデツキー」ノ軍團モ亦タ第二十四師團ヲ以テ増加セラル

十一月五日將官「ゴールルコ」ハ先ツ「シヤブロニツア」ヲ占ム同地ハ「ブレブ
Gouko Jaboniza Plevna

ナ」ヨリ「テリシム」ヲ經テ「サルクハニ」ニ至ル道路上「バルカン」山内ニ在リ
峰ノ最高部ニマテ路幅最モ狭ク真ニ山背ヲ爲ス又右翼ハ騎兵ヲ以テ掩護ス
九日騎兵ヲ以テ「ウラツツア」ヲ略取ス同地ニテ多クノ貯藏物品ヲ獲タリ是レ
先キニ土國新軍隊ノ「プレヅナ」ニ入ルヘキモノ「サルクハニ」ニ於テ集中セシ
際其物品ヲ貯藏セシナリ
Plevna Orkhanie

「ウラツツア」ヲ略取セシ騎兵ハ「ベルコウアツ」ニ土軍現在スルヲ報ス「ル
ナコツツ」及ヒ「ノウマナン」ニモ亦タ土軍凡一万五千人アリ「サルクハニ」ヲ
掩護スルヲ知ル
Novatchin Orkhanie

土軍ノ占領向ハ右翼「エトロポール」ヨリ左翼「ノウアナン」ニ至ル而シテ其中
央ハ「プラヴツア」ニマリ
Etropol Novatchin

將官「グール」ハ此障地即チ「エトロポール」及ヒ「プラヴツア」ヲ同時ニ攻
撃セント欲ス又右翼ニ於テハ「ウラツツア」ヨリ騎兵ヲ以テ陽撃シ「サルクハ
ニ」ニアル土軍隊備隊ヲ此方向ニ誘出セントス
Orkhanie

「グール」將官ノ戰鬪セシハ「バルカン」山中最も困難ノ處タリ
註 此道路上「バルカン」山ノ本峰ハ「サルクハニ」ノ南方道路屈曲ノ点即
チ「アラポコナク」トス此處ニハ土軍豫シメ防禦工事ヲ施ス然レモ土
軍ハ最初「エトロポール」ヨリ「プラヴツア」ニ亘ル山脈ヲ守備セリ
Arakonak Etropol Pravtza

將官「グール」ハ其左翼歩兵十二大隊騎兵十中隊砲兵三中隊ヲシテ「エトロ
ポール」ニ向ハシム歩兵二十二大隊騎兵六中隊砲兵若干中隊ハ「オシコウチ」
ヲ經テ「プラヴツア」ニ前進シ土軍ノ正面ニ在テ他ノ縱隊敵ノ左側ニ出現スル
迄敵ヲ動搖セシム
Orkhanie Oshkovo Pravtza

歩兵二大隊騎兵十中隊砲兵三中隊ヨリ成ル一縱隊ハ「シヤプロニツア」ヨリ
「ウイドラル」及ヒ「カルゲロウチ」ヲ經テ前進シ西方山背ヨリ土軍ノ左翼ヲ攻
撃セントス
Vidrar Kalugerovo

「シヤブロニツア」ヨリ「ナルクハニ」ニ至ル道路ハ「ブラウツア」ニ於テ西ニ曲折ス而シテ此点ハ山背ノ高キ凸出部ナリ此凸出部ニ土軍ハ防禦工事ヲ施セリ故ニ此陣地ハ北方ニ面シ頗ル堅固ニシテ正面及ヒ側面共ニ冒ス可ラサル地ナリ其左側ノ如キハ山岳錯雜ニシテ土軍ハ歩行ス可ラスト自信セリ

「グールユ」將官ノ右縦隊ハ非常ノ困難ヲ以テ此山間ヲ登行セリ之レカ爲メ多クハ工兵隊ヲシテ道路ヲ作ラシメ又砲兵及其彈藥ノ如キハ人力ヲ以テ運搬スルヲ要セリ勢ヒ此ノ如キヲ以テ豫定ノ期ニ到着スルヲ得スシテ一日間ヲ遅緩セリ故ニ正面ニアル縦隊ハ此日無益ニ右縦隊ノ來着ヲ待テリ然ルニ右縦隊ハ二十三日ニ至リ土軍ノ左翼ニ出テ之ヲ急襲スルヲ得タリ故ニ正面ノ縦隊ハ三十六時間ノ陽撃ヲ爲セリ

魯軍ノ右縦隊土軍ノ左側ニ出シカ爲メ土軍ハ自ヲ包圍セラル、ニ至レリ故ニ魯軍ハ僅ニ七十二人ヲ損傷セシノミニシテ此堅固ナル陣地ヲ抜クヲ得タリ依

テ魯軍ハ翌日「ナルクハニ」ニ向ヒ中途迄前進ス

魯軍ハ「エトロポール」モ亦タ容易ク略取スルヲ得タリ然レモ土軍ハ其南方

「アラブコナク」ニ退キ守ル此地ハ從來ノ防禦工事アリ且ツ土地堅ナリ魯軍ハ

「ブラウツア」及ヒ「エトロポール」ヨリ之ニ向テ展開ス

十二月三日ニ至ル間ニ魯軍ハ陣地ニ砲台ヲ築キ此日ヨリ砲火ヲ開ク土軍ハ二

三日間其陣地ヲ保守セシモ其軍隊ノ小ナリシカ爲メ終ニ事ヲ過ツニ至レリ

「グールユ」ハ其左翼「ストラケツア」ニ向テ小支隊ヲ出セリ此支隊ハ「バルカン」

山ノ南面半腹ニ占陣ス

魯軍ノ右翼騎兵團ハ土軍ノ左翼「ルーチコウ」ヲ及ヒ「ノツアチン」ノ防禦工事

ニ向テ攻撃セシモ功ヲ奏セサルノミヲラス砲二門ヲ失ヘリ然レモ二十六日ニ

於テ土軍ハ自ラ此地ヲ棄テ、去レリ是レ「ブラウツア」ノ陥リシカ爲メナリ而

シテ其退却セシ土軍ハ「オガジャ」ニ駐止シ以テ「ソホヤ」ニ通スル徒歩道ヲ扼

ス
魯國騎兵十中隊絶六門ハ「サガシヤ」ニ對シ「ルーチコウ」ヲ及ヒ「ノウアケン」ニ降ス
Ogija Loukovo Nowatchin

「ベルコウアツ」ノ土軍ニ對シ監視ノ爲メ「ウラツツア」ニ騎兵六中隊絶六門ヲ配置ス又北方ヨリ「ベルコウアツ」監視ノ爲メ「クトロウイツア」ニ兵ヲ派遣ス
Berkowatz Kullowitza

此間「アレブナ」附近ヨリ「ラホウア」ニ派遣セシ魯軍ハ同所ヲ占領ス土軍ハ「ウイゲン」ニ退ク
Plevna Rahova
Widlin
Lom Palanka (「ベルコウアツ」ヨリ北方ニ通スル道路上「マニューン」河畔ニアリ)ニ及フ

今ヤ魯將「グールユ」及ヒ「ラデツキ」ハ「バルカン」山中ニ在テ土軍ト對峙ス是ヨリ前方ニ進攻セントスルカ如キハ當時望外ノ事トナス故ニ唯「ソヒヤ」及
Gourko Radetzky Ballkan Soghia

「シプカ」ヨリ「アレブナ」ニ通スル道路ヲ遮断スルヲ以テ足レリトセサル可
Schipka Plevna
ラス

土軍ハ「オスマンパシヤ」ニ援兵ヲ送ラント欲スルモ能ハス強テ之ヲ援助セント欲スルモ唯僅ニ四角要塞ヨリ前進スルノ一策アルノミ
Osman pachas

千八百七 魯土戰史筆記第十回 明治二十一年五月四日

土國將官「メヘメアリ」ノ西方ニ向テ攻勢ニ轉セサリシ其理由ハ前回既ニ説
述セリ
Mehemet Ali

土軍以爲ラク魯軍ハ十二月下旬ニ至ラハ「多腦」河増水ノ爲メ背后ノ連絡危険
トナリ加之ナラス「ビユルカリ」國ノ地形ト天候ニ妨ケラレ遂ニ退却スルナ
ラント
Bulgaria

土軍實ニ如斯想定セシハ大ナル齟齬ナリシ
魯軍ハ地ノ利ト天ノ時ニ關セス其ノ國軍事上ノ名譽ト世界各國ノ矚目ニ係ハ
リ其作戰ヲ繼續スルヲニ決セリ

此時ニ方リ魯軍隨意ニ「多腦」河ヲ渡リ退却スルモ世人ハ目シテ實ニ敗退セシ
モノトナスナラン然ルモハ戰略上ノ敗北ヲ取リシモノトセサルヲ得ス
茲ニ於テ魯軍ハ堅氷積雪ニモ抱ハラス「多腦」南方諸點ヲ固守シ數多ノ橋梁ヲ

「多腦」河ニ架設シ作戰ヲ強行セリ

此ノ魯軍ノ處置亦一理アルナリ

魯軍ハ數回「プレブナ」攻撃ニ失敗セリ今ヤ其攻撃ノ方法ヲ一變シ遠ク「オスマン

マンパシヤ」ヲ包圍シ外糧食彈藥ノ運搬ヲ絶タンカ爲メ本國ヨリ漸々増援兵

Plevna

到着セシ増援兵ヲ使用シ遂ニ「プレブナ」市街ヲ全ク包圍スルニ至レリ

Osman

實ニ十一月初旬將官「グールコ」ノ爲メ土軍兵站路ハ全ク斷絶セラレ「プレブ

ナ」ハ「巴」ニ孤立セリ

「プレブナ」包圍ノ時ニ方リ土軍ハ屢々圍ヲ解カンヲ試シモ果タサス四角要

塞ノ土國本軍及「シブカ」峠ニアル土軍ハ此時俱ニ守勢ノ位置ニアリシ

既ニ前回ニモ述フル如ク魯軍ハ衆多ノ増援兵ヲ得シヲ以テ「プレブナ」資原

タル「ソビヤ」ニ向ヒ攻撃シ土軍ヲシテ其糧食彈藥及軍隊ヲ「プレブナ」ニ送ル

ヲ得サラシム將官「グールコ」ノ此ノ動作ハ即チ「エトロポール」「バルカン」ノ

攻撃ト稱スルモノナリ

此ノ戰ニ於テ將官「グールコ」ハ「ブラヴツア」及「エトロポール」ノ土軍ノ陣地

ヲ略取シ土軍主力ハ「バルカン」南方山脈ナル「アラブユナク」ニ退却ス

然レモ土軍ハ尚「バルカン」西部ノ山脈ヲ領有セリ

將官「グールコ」ハ「ブラヴツア」及「エトロポール」ノ陣地ニ堅固ナル防禦工事

ヲ施シ南方ニ對シテ警備セリ其左翼「スラナツア」ニ一支部隊ヲ出ス此支部隊ハ

「バルカン」山南面半腹ニ占陣セリ

又「スラナツア」ヨリ「テ、ベン」ニ通スル街道ニ一支部隊アリ此支部隊ハ第三師團

ヨリ出セシモノニシテ先キ「トロジヤン」及「テ、ベン」ヲ占領スルノ任務ヲ

有セシモノナリ今既ニ其ノ任務ヲ果セリ

「シブカ」峠ノ土軍ニ對シ其積雪ノ中ニ布陣セル有名ナル魯國將官「ラデキ」

ハ當時衆多ノ増援兵ヲ得タリ故ニ一時之ニ増加セシ軍隊ハ各其所屬軍團ニ

復歸セシム

今又該ニ第二十四師團ノ歩兵三聯隊乘着ス此ノ部隊ハ「シプカ」峠ノ頂上ニ在テ露次ス之レカ爲メ其將士疾病ニ罹リ損傷頗ル多シ

「シプカ」峠南方土軍ノ主力ハ「ケザンリツク」ニ在テ其前哨ハ魯軍前哨ト甚タ接近ス

土軍「シプカ」峠ヲ恢復セント試ミンモ毎子ニ功ヲ奏セス即チ此ノ戦鬪ハ十二月八日十一日及廿一日ニ施行セシモノナリ

「ニコラス」山前方ニ布陣セル魯軍ハ土軍ノ爲メニ撃退セラレタリ

此時ニ方リ土軍總督「スレイマンパシャ」ハ全ク守勢ヲ取ルニモアラス又地形ヲ利用スルコトヲ爲サス其主力ヲ「ルーチエツク」ニ集合シ十一月七日及ヒ十

四日ニ於テ「カヂキユーイ」ヲ突撃セシモ功ヲ奏セス因テ「カヂキユーイ」及「ソレニツク」ニ對シ各一師團ヲ殘置シテ監視センメ「スレイマンパシャ」自

ラハ半師團ヲ率ヒテ「ラスヅラド」ニ退却セリ

十二月月上旬ニ於ケル土軍ノ配置

今ヤ土軍ノ配置ハ即左ノ如シ

「ルーチエツク」ニ

壹萬人

「Roatschouk」

「カヂキユーイ」及「ソレニツク」ノ線ニ

壹万五千人

「Kadikeni」

其ノ左翼ニ接シテ

四千人

「ラスヅラド」及ヒ其附近ニ

四万五千人

「Pasgrad」

「エスキヂユーマ」及「チスマンバザール」附近ニ

壹万二千人

「Eski-Djuma」

「Osmanbazar」

其外「チエルナボダー」「コスタンツァ」ノ魯軍ニ對シ「バザルガツク」ニ土國ノ

「Pazardjik」

一軍アリ

「Fchernavoda」

又「シリストリ」要塞ニ壹万人其他土軍ハ「ワルナ」「シニュームラ」及ヒ小要塞

「Silistrie」

「チエルチユカイ」「ダニユーブ」河畔ヲ守備セリ

「Varna」

「Schoumia」

「Furnikai」

此レニ因テ觀レハ土軍ノ兵力ハ散テ微弱ナルニ非サルナリ

魯國皇太子ノ率ヒシ第十二軍團騎兵第十二師團格薩克騎兵第二聯隊ハ其右翼
ヲ「ダモヒラ」中央ヲ「トルステニツク」左翼ヲ「メナカ」ニ於テ占陣セリ
此軍團ノ右翼ニ第十三軍團(騎兵師團ヲ附加セズ)及第八騎兵師團並ニ格薩克騎兵第
三聯隊布陣ス

第十三軍團第三十二師團ノ陣地ニ第二十六師團ヲ以テ補填ス此師團ハ後ニ至
リ來着セシモノナリ故ニ第十三軍團ハ總計三師團ヲ使用スルニ至ル

第十三軍團ノ主力ハ「シナンキユーイ」ニ在テ其右翼ハ「ナエルコブナ」ニ至リ
其前兵ハ「カラ、ロム」河ノ左岸迄前進セリ

第十一軍團ハ魯軍總督ノ直令下ニ屬シ其第十一師團及第十三師團ニ騎兵部
隊ヲ附屬セシメ「ラスグランド」「エスキチユーマ」ノ土軍ニ對シ第十三軍團ノ

右翼ニ接シ「ナルノバ」ヨリ「ポプキチロ」ニ至ル街道ト「ナルノバ」ヨリ「スタ
タリヤ」ニ至ル西街道ヲ監視セリ

十月廿四日ニ於テ第十二及第十三軍團ハ「シヨウ、ン、グフリツク」「ソレニツ
ク」及「コスタンツア」「ラスグランド」ノ西方ニ偵察隊ヲ派遣セリ

此諸支隊ハ至ル所土軍ト小戦セリ
十一月二日ヨリ十六日間ニ於テ土將「スレイマンパシヤ」ハ魯軍ト遭遇シ遂
ニ翌十七日ニ於テ攻撃ヲ試ムルニ至レリ

此ニ因テ觀レハ「メヘメアリ」退却後ニヶ月ヲ經過シテ「スレイマンパシヤ」
ハ初テ攻撃勳作ヲ爲セリ

此ノ二ヶ月ノ間ニ於テ魯軍ハ實ニ衆多ノ増援兵ヲ得シナリ
「スーラヒマンパシヤ」ノ此攻撃ハ策モナク勇モナク皇太子ノ軍ニ對シテ諸處
ニ出沒シ常ニ兵分レ勞弱シ

瑞西ノ兵家「リュストー」氏嘗テ「スレイマンパシヤ」ノ動作ヲ評シ抽斗戰術ト
謂ヒシ是レ蓋シ一方ヲ進ム時ハ他ノ一方ハ作ヲ退キ其進退前後照應セサル

ノ謂ヒナラン

十七日「スレイマンパシヤ」ハ歩兵十大隊ヲ率ヒ「ルーチェク」ヨリ「ピルゴスメ」

「メカ」ニ向テ出撃セシモ魯軍第十二軍團ノ爲メ撃退セラレ

後二日ヲ間テ即十一月十九日ニ於テ其兵力壹万二千人ヲ以テ「カヂキユーイ」

ヲ襲ヒ尋ヒテ第十二軍團ノ左翼ニ對シ「メナカ」ニ侵入ス又功ヲ奏セス「シヨ」

「グ」ニ於テ「ロム」河ヲ渡リ遂ニ東方ニ退却セリ

初メ「スレイマンパシヤ」出撃ノ目的ハ「バチン」ヲ略取シ直テニ「多腦」渡過点

「シストヴ」ヲ衝カントスルニ在リ

「スレイマンパシヤ」ハ猶此目的ヲ達セントシテ十一月廿六日歩兵五十一大隊

騎兵十六中隊砲兵九中隊總計其兵力三万二千人ヲ率ヒ再ヒ「メナカ」ニ侵入シ

「トルステニツク」ヲ畧取セントセリ

「トルステニツク」ハ魯國第十二軍團固守シ土軍遂ニ其目的ヲ達セス復タ「ロ

ム

「ム」河ヲ渡リ退却ス

此日魯軍死傷七百六十人土軍千二百人ヲ亡フ

十二月四日「スレイマンパシヤ」ハ反對ノ方向即魯軍ノ右翼ニ向テ攻撃セリ魯

軍ノ右翼ハ「スラタルスカ」河ニ浴フテ東ニ正面セリ

此時ニ當リ「テシプカ」峠ノ魯軍指揮官「ラデスキー」ハ其兵力五千人ヲ以テ其

左翼ヲ「エレナ」ニ延伸シ其前哨ヲ「マリヤン」附近マテ前進セシメ第十一軍團

ノ前哨ト連絡セリ其任務ハ東方及東南方ニ對シ動作スルニアリ

此支隊ノ左翼ニ接シ第十一軍團ノ歩兵第十一師團ハ「スラタルスカ」河ニ浴ヒ

「ヂユナン」及「フレセレウチ」ノ線ヲ占領ス

此魯軍ニ對シ「スレイマンパシヤ」ハ三万人ヲ率ヒ「サスマンバザール」ヨリ

「エレナ」及「ナルノウア」ニ通スル道路ヲ進ミ攻撃ス

此ノ戰ニ於テ魯軍兵士二千人砲四門ヲ失ヒ「スタハリツア」ニ退却シ再ヒ此ノ

「ム」

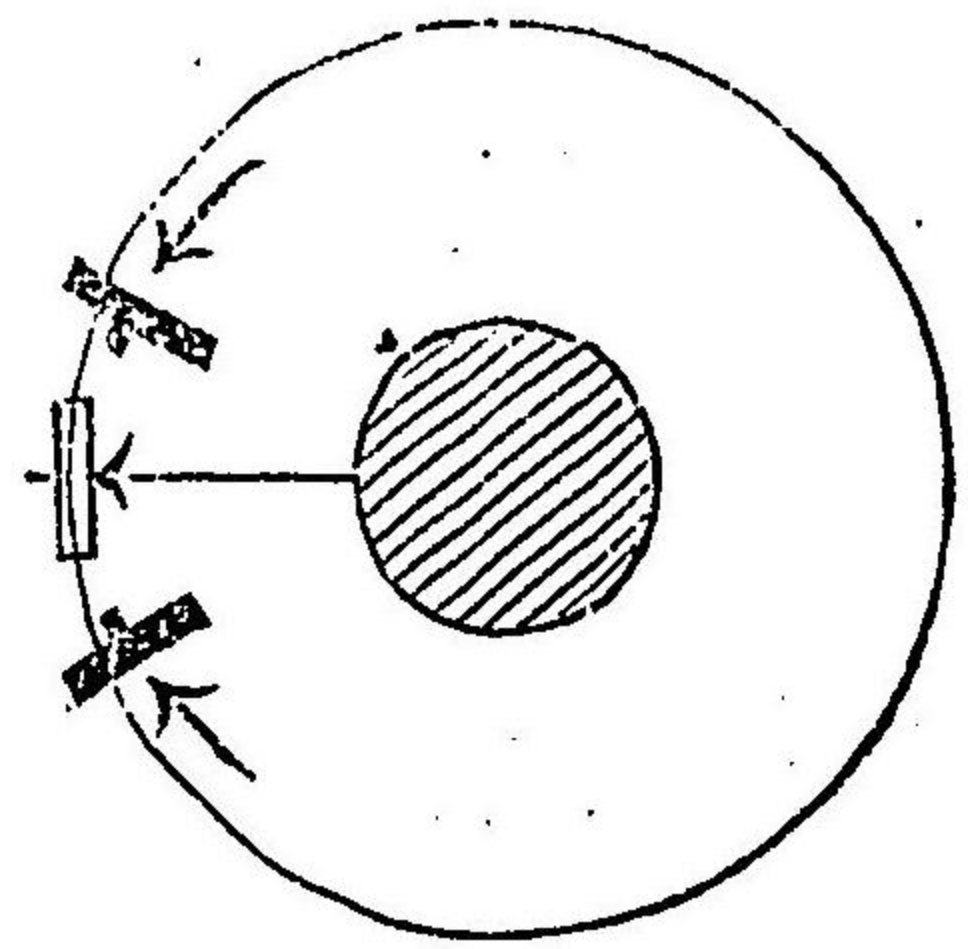
地ニ於テ土軍ノ擊破スル所トナリ遂ニ南方「マリアン」ニ退却スルニ至レリ
 土軍ハ此ノ機ニ乘シ「スラタルスカ」河地區ヨリ西方ニ魯軍ヲ追撃セス其主力
 ユ「スタ、リツア」附近ニ集合セリ
 茲ニ於テ魯軍ハ増援兵ヲ招クヲ得タリ即十二月五日右翼ノ背後ニアル第四狙
 撃旅團及第十一師團ノ一旅團ヲ「マリアン」近傍ニ招致セリ
 十二月六日午前「ナルノバ」南方ニ半師團來着シ同日正午魯軍ハ「スタ、リツ
 ア」ヲ攻撃ス
 土軍勇戦能ク拒ク然レモ終ニ東方ニ退却ス
 此ニ至リテ魯軍ハ「スラタルスカ」河孟ヲ全ク占領ズルヲ得タリ
 次テ十二月七日魯軍ハ步兵三十三大隊騎兵十八中隊半砲百四十五門ヲ以テ
 「ナスマンバザール」ニ集合スルヲ得セリ此ニ於テ東方ノ魯軍ハ危險ヲ脱シ其
 兵力土軍ト全ク足敵スルニ至レリ

「ブレブナ」

編者記ス
 此戰闘タル
 ヤ兩軍勝敗
 ノ決ラ爲レ
 レモナリ
 且ツ此戰史
 中モ有テ
 故ニ研究ス
 ハキ事頂亦
 マ少ナカラ
 ス然ルニ本
 編記スル所
 ハ稍省略ニ
 過クハ能ハ
 ナキ能ハス
 余ハ此第十
 第十一兩回
 ノ筆記ニ與
 カラス故ニ
 之レヲ此處

「ナスマンバシヤ」ハ已ニ全ク其ノ糧食彈藥ヲ用ヒ盡シ維持スヘカラサルヲ悟
 リ魯軍ノ包圍線ヲ西方ニ向テ突撃スルニ決セリ此ノ突撃ハ實ニ千八百七十七
 年十二月十日ノ事ナリ
 魯國軍及羅馬尼軍ハ「ブレブナ」ヲ堅固ニ繞圍シ漸々四面ヨリ之ヲ蹙ス
 魯軍ハ「ナスマンバシヤ」ノ突撃ヲ施行スル二三日前已ニ是ヲ偵知セリ故ニ其
 ノ突撃正面ニ對シ豫メ魯國擲彈軍隊ヲ備フ
 土國突撃隊ハ最初其正面ニ於テ魯國擲彈步兵ニ衝突シ多ク其砲臺及野堡ヲ略
 取セリ然レモ近衛兵一師團ハ突撃隊ノ左翼ニ當リ又第五師團ノ一旅團ハ其右
 翼ヨリ逆撃シ遂ニ土軍突撃其効ヲ奏セス「ナスマンバシヤ」ハ退却セサルヲ得
 サルニ至レリ
 此ノ「ブレブナ」突撃ニ在テモ嘗テ普佛戰役ニ於テ實行セシ包圍線突撃ト同現
 像ヲ呈セリ

ニ補填スル
ヲ欲セシ依
テ別冊附録
トシテ一節
落ノ戦況又
其前後ノ景
以テ記載ス
供以テ参考
ス



一方ヨリ突撃スルニ方リ此レニ對スル正面ヲ擊
退スルモ其包圍線ノ兩側面ノ部隊同時ニ其突撃
隊ニ對シ側撃ヲ施ス然ルルハ突撃隊ハ三面敵ニ
當ラサルヲ得ス

千八百七十年及七十一年ノ役佛軍「モッツ」及ヒ

「パリ」ニ於テ屢々突撃ヲ施セシモ遂ニ其ノ効ヲ

奏セス「オスマンパシヤ」ノ魯軍ニ對スル突撃ノ

景況亦之レニ異ナラザリシ

故ニ「オスマンパシヤ」ハ西方ニ向テ突撃セシモ兩側面ノ魯軍ハ突撃隊ノ空虚

ニ乘シ土軍ニ侵入シ遂ニ「プレブナ」ヲ陥ルヲ得シナリ

此ノ突撃ニ際シ「オスマンパシヤ」自ラハ負傷シ其部下將卒約五千人ヲ失フ然

レモ猶其旗下ニ將校二千百人兵卒四万人(負傷者ヲ算入セス)砲四十七門ヲ有

ス同氏ハ此ノ現兵ヲ以テ遂ニ魯國ニ降服スルニ至レリ

初メ「オスマンパシヤ」ノ「プレブナ」ニ據ルニ方テヤ其近傍更ニ防禦工事ノ設

置ナシ同氏ハ漸々其工事ヲ施シ遂ニ百四十五日間魯軍包圍線ノ中ニ在テ維持

セリ其ノ終ノ五十日間ニ於テハ糧食彈藥及兵員ノ補填ヲ絶ダレシ

「プレブナ」最後ノ戦ニハ其兵力五万人砲百門ヲ以テ魯軍ノ十一万二千人砲五

百十八門ヲ羈繫セリ此レニ因テ觀レハ魯軍ノ土軍ニ比較シ優勢ナルヤ明了ナ

リ實ニ魯軍ハ其砲煩ノ如キハ五倍強ノ多キヲ有ス然レモ「オスマンパシヤ」突

撃ニ際シテハ尚魯軍ニ二千ノ死傷アリ土軍奮闘ノ狀見ル可キナリ

魯軍「プレブナ」攻撃ニ於テ其最初ヨリ失フ處三万五千乃至四万人(患者ハ算

入セス)ヲ以テ數フ茲ニ其陣亡兵員ヲ明了ニ掲載スル能ハス然レモ「プレブ

ナ」攻撃終始ニ在テ魯軍失フ所少モ「プレブナ」防禦ノ土軍全兵力ニ當ル可シ

「プレブナ」ニ於ケル「オスマンパシヤ」ノ防禦ハ實ニ勇敢ト忍耐トヲ以テ施行

十二月十二日
十月廿二日
十月廿二日
十月廿二日
十月廿二日

セリ其勇敢耐忍ハ魯軍ノ大ニ贊嘆スル所タリ
 魯國本營ニ於テ「プレブナ」停虜ノ土軍將卒ヲ特ニ優待セシテ以テ證ス可シ
 「オスマンパシヤ」^{Plevna}「プレブナ」突撃ノ後二日即十二月十二日ニ於テ土將「スレ
 イマンパシヤ」^{Osman pacha}モ亦出撃セリ
 「スレイマンパシヤ」^{man pacha}ノ此出撃ハ「プレブナ」ノ降服ヲ知テ爲セシカ或ハ「プレ
 ブナ」ヲ援助セントノ目的ヲ以テ實行セシヤハ明了ナラス
 魯軍ノ左翼ニ對シニ二万五千乃至三万人ノ兵力ヲ以テ「ルーナユツク」ヨリ南方
 「カチキユーイ」^{Kadikieri}ヲ襲ヒ遂ニ「メチカ」^{Metelka}ニ侵入セントセリ
 茲ニ於テ「ダモジラ」^{Damogira}及「メチカ」^{Metelka}ノ線ニアル魯軍第十二軍團ノ戦況甚困難トナ
 レリ
 因テ魯軍第十三軍ノ半師團ヲ援助トシ南方ヨリ前進セシメ「ダモジラ」^{Damogira}ヨリ土
 軍ノ左側面ヲ攻撃シ同時ニ「トルステニツク」^{Trstenik}ヨリ逆撃ス土軍死傷三千人遂ニ

プレブナ
結局ノ詳

「ルーナユツク」ニ退却スルニ至レリ
 後「スレイマンパシヤ」^{Suleiman pacha}ハ其兵力ヲ「ラスグラト」^{Rasgrad}ニ集合シテ退却セリ其左翼
 「エレナ」^{Elena}附近ノ諸兵ハ「バルカン」^{Balkan}東南「カザンチ」^{Kazan}（南方大街道「バルカン」山中ニアリ）
 ヲ經テ東南ノ方向ニ退却セリ
 「スレイマンパシヤ」^{Suleiman pacha}ノ退却スルニ方リテハ己ニ「プレブナ」ハ陥落セリ茲ニ於
 テ魯土戦鬪ノ勝敗決セリ
 「プレブナ」^{Plevna}没落ノ後ニ於テ愉快ナル數多ノ戦争アリ然レモ其勝利常ニ魯軍ニ
 在リ土軍勇闘奮戦スルモ遂ニ其不幸ヲ恢復スルヲ得サリシ
 今ヤ「プレブナ」^{Plevna}最後ノ戦争ニ就キ是ヲ審判スルヲ以テ結末ト爲ス可シ
 十月下旬ヨリ十一月上旬ニ至ルノ間ニ於テ「オスマンパシヤ」^{Osman pacha}ハ其兵站路ヲ失
 ヘリ此ノ時期ハ即チ「プレブナ」^{Plevna}勝敗ノ問題トナルナリ
 冬期接近シ酷寒ノ時ニ方リ諸軍ハ常ニ露次シ加之糧食彈藥竭乏スルニ及ンテ

「プレブナ」益其危急ヲ促セリ

此レヲ救助センカ爲メ土軍ハ「ソロヤ」ヨリ兵須軍隊ヲ送致セリ

土軍ノ爲セシ此方法ハ實ニ「プレブナ」ヲ救フニ足ラサルナリ

此レカ爲メニハ土軍野戰部隊ヲ擧テ魯軍ノ包圍線ニ對シ八方ヨリ攻撃シ魯軍ノ包圍線ヲ八方ニ誘撃セハ其包圍線ハ自ラ薄弱ニ至ル可シ

此時ニ乘シテ一擧出撃セハ其目的ヲ達スルヲ得シナラン

此ノ時ニ當リ土軍ハ集合部隊ノ一隊ヲ要ス此部隊ハ直接援助トシテ包圍線ノ一點ニ向テ決戰ノ任ニ當ルモノナリ即八方ヨリ間接援助トシテ陽擊運動ノ機熟スルヲ待テ眞ノ侵撃ヲ行フモノナリ

故ニ土軍「プレブナ」ノ包圍ヲ解カンニハ間接援助ノ軍隊ノ外直接援助ノ一團隊ヲカル可カラス此部隊ノ任務ニ當ル者誰カ即「スレイマンパシヤ」其人ナリ

八月上旬「メヘマアリー」ノ土軍總督タルニ方テハ「プレブナ」未タ孤立セス故

ニ直接ノ援助ハ必用ニアラザリシナリ

此間ニ於テ土軍ノ得策トスル所ハ全カヲ以テ「ビエラ」ヨリ「シストウア」ニ向

テ突撃スルニアリ「シストウア」ハ多腦河緊要ノ渡過點ナルヲ以テ魯軍背後ノ

連絡如何ニ關係スレハナリ

「メヘマアリー」ノ畫策ハ蓋シ茲ニアリシ然レモ「シプカ」時ニ在ル「スレイマン

パシヤ」ノ其命令ニ服セザリシヲ以テ遂ニ實行スルヲ得ザリシ

「メヘマアリー」ノ總督タルノ時ニ當リテハ「スレイマンパシヤ」ハ尊ヲ「シプ

カ」時ヲ攻撃セリ此ノ際亦「プレブナ」未タ危急ニ至ラス

然ルニ「スレイマンパシヤ」ノ代テ總督タルニ及ンテハ「プレブナ」ノ形勢一

變シ戰況甚タ危殆ニ瀕シ其ノ兵站路ヲ失テ實ニ日夜直接ノ援助ヲ要スルノ時

ナリ

此ノ時ニ方リ「スレイマンパシヤ」ハ左ノ如ク處置セサルヘカラス

陽擊運動ヲ以テ魯國軍隊ヲ欺騙シ集合國隊ヲ以テ四角要塞ヨリ「エレナ」^{Elema}「スタ、リツア」ニ向テ突撃スルニ在リ其法ハ全線ニ於テ魯軍ヲ迷誤セシメ其主カヲ「シスマンバザール」ニ集合シ然ル後「エレナ」^{Elema}「スタ、リツア」ノ魯軍ヲ撃破スヘキナリ ^{Osmanbazar} ^{Stavritza}

此ノ「スタ、リツア」攻撃ノ爲メニハ「シプカ」^{Schipka}嶺南方ニアル土軍ヲ招カサルヲ得ス該軍隊ハ「バルカン」^{Balkan}山東方守備ナキ嶺ヲ踰ユルヲ良トス但シ「シプカ」ニハ其一隊ヲ殘シ同嶺ニアル魯軍ヲ羈繫スルヲ要ス ^{Schipka}

此ノ如セハ「スレイマンパシヤ」ハ四角要塞守備兵ノ外猶八万人砲二百門及ヒ制外軍騎兵數千ヲ有ス ^{Suleiman pachas}

實ニ「ルナユツク」^{Schoumla}「シニュームラ」^{Dobrudja}及「ドブルヂヤ」^{Schoumla}地方ノ警備ノ爲メ諸兵ヲ配置シテ尚其兵力五万人砲砲百五十門ヲ「シスマンバザール」ニ集合スルヲ得且

「シプカ」^{Schipka}嶺南方ニハ四万五千人ノ土軍「シプカ」^{Schipka}ヨリ「ケザンリツク」^{Kozanlik}ニ至ル線ヲ占守セリ ^{Schipla}

故ニ「スレイマンパシヤ」ハ七万乃至八万ノ兵力及百八十門乃至二百門ノ砲煩

ヲ以テ西方「ナルノバ」^{Tirnova}ニ向テ攻勢ニ轉スル「ハ容易ナリシナリ

此兵力ヲ用ヒ「シプカ」^{Tirnova}嶺ニ占陣セル魯軍第八軍團ヲ其左翼ヨリ漸々席捲シ第十一軍團ハ正面ヨリ撃破スヘシ然ラハ則チ魯軍延長ノ戰鬪線ハ撃破スルヲ得

シナラン

實ニ魯軍ハ遠隔ノ地ヨリ増援兵ヲ招カサルヲ得ス終ニ之レヲ要スル數多ノ日數ヲ利用シテ土軍此作戰ヲ計畫セハ其動作容易ナリシナラン

土軍ハ「ルーナユツク」^{Routschouk}附近ニ動作スルニ替テ「エトロポール」^{Etoropol}ニ動作セリ是レ學理上ヨリ推考スルモ其當ヲ得サル明ナリ

「スレイマンパシヤ」ノ「シプカ」^{Schipla}嶺南方ニ於テ背後ノ連絡ヲ取ルニ苦慮セシハ甚タシキ誤リナリ何ントナレハ八万人ノ兵力ヲ「ナルノバ」^{Tirnova}ニ集結セハ魯軍

「シブカ」峠ヲ棄テ自ラ退却スルニ至ルベケレバナリ
 Schipka
 若シ土軍「ナルノバ」ニ於テ敗北セハ其ノ退路ハ「バルカン」山東方ニ取ルヲ得
 Timova
 此時ニ方リ魯國ノ第十二軍團ハ「ルーナユツク」ニ於テ羈縻スルヲ得可シ
 Balkan
 歐羅巴諸國ニ於テ「スレイマンパシヤ」ハ如斯計畫スルナラント信セリ故ニ始
 Rontschouk
 ヲ魯軍本營ニ於テモ亦大ニ之ヲ苦慮セリ然ルニ土軍ノ作戰茲ニ出スシテ魯
 Suleiman pachas
 軍ハ戰畧上ノ危キヲ脱カレ遂ニ勝利ヲ得シハ實ニ僥倖ト謂フヘキノミ

千八百七 魯土戰史筆記第十一回 明治廿一年五月十一日

魯軍ハ「プレブナ」ヲ強襲スルノ不可ナルヲ悟リ策ヲ長國ニ決シ遂ニ「オスマ
 Plevna
 ンパシヤ」ヲ降伏セシメタリ
 Osman
 「プレブナ」ヲ畧取スル時ニ方テ魯軍ノカム可キハ土國ノ野戰軍ト「プレブナ」
 Plevna
 ノ出撃ト一致スルヲ防クニアリ
 此時ニ方リ魯國皇太子ハ要塞外ニアル土國野戰軍ト「ロム」河ニ相對峙ス
 Lom
 又將官「ラデツキー」ハ「バルカン」山脈「シブカ」峠ニ布陣シ將官「グールユ」ハ
 Radetzky Balkan Schipka Gourko
 「エトロポール」ハ「バルカン」ニ布陣セリ
 Etropolis Balkan
 其他騎兵ノ大隊部ハ西方ニ向ヒ「ウヂン」ニ對陣ス
 Widin
 「プレブナ」陥落ト共ニ「オスマンパシヤ」ノ軍ハ全ク殲滅シテ魯國內部ニ捕虜
 Plevna Osman pachas
 トシテ送致サレタリ
 今ヤ「プレブナ」ニ廢營セラレシ魯國衆多ノ軍隊ハ一時其任務ヲ果セルヲ以テ
 Plevna

魯軍本營ニ於テ更ニ他ニ之ヲ使用スルヲ得

羅馬尼侯ハ「Plevna プレブナ」ニ對セル魯軍及ヒ羅馬尼軍ノ指揮官タリ然レモ實際此

指揮官ハ唯表面ノミニシテ眞ノ指揮官ハ「Orine クリメ」戰役ニ於テ著名ナル魯國

將官「Totleben トトルベン」氏ナリシ

茲ニ至テ羅馬尼侯ハ歸國シ魯帝「Alexandre アレキサンドル」陛下モ亦タ腦河ヲ超エテ歸

國セリ

羅馬尼軍ノ「Plevna プレブナ」ニ在ル其兵員三万人ハ「Widin ウィジン」ニ行進スヘキノ命ヲ

受ク「Widin ウィジン」ハ土耳其古西境上ニ在リ已ニ該要塞ハ羅馬尼及「Serbie セルビ」國ヨリ

脅威シ居レリ

「Plevna プレブナ」附近ニアリシ魯軍ハ左ノ如ク配當セリ

一、近衛第三師團及第九軍團(二師團)ハ「Etropol-Balkan エトロポールバルカン」ニ赴キ將

官「Gouko グールコ」ヲ援助ス

此増援兵ハ十二月三十日迄ニ「Etropol-Balkan エトロポールバルカン」ノ麓ニ達セリ故

ニ此地ニ在ル惣兵力ハ歩兵八十三大隊、騎兵六十中隊、及ヒ砲三百門(全

近衛軍團第九軍團近衛騎兵一師團其他數多ノ騎兵殊ニ「Cozack コザック」騎兵

及ヒ「Tekoven テ、ベン」ニ在ル軍隊ノ一部分ナリ

二、第四軍團ノ第十六師團ハ「Cozack コザック」騎兵聯隊ヲ附加ス「Selvi セルウイ」ニ

至リ將官「Skobelief スコベレフ」ノ指揮ニ屬シ「Selvi セルウイ」ヨリ「Schipka シプカ」峠ノ指

揮官「Radezky ラデスキー」ヲ援助ス

三、第三獵兵旅團ハ(三大隊)「Gahrova ガブロバ」ニ至リ將官「Radezky ラデスキー」ヲ援助

ス但シ該旅團ノ第四大隊ハ「Lowaltz ロウヴァツ」ニ駐止シ「Trojan トロジヤン」軍隊ノ

司令官(第三歩兵師團長)ニ屬セシム

四、第四軍團ノ第三十師團ハ豫備トシテ「Prinova チルノバ」ニ至ラシム(第十一軍團

「Prinova スレイマンパツシヤ」ヲ爲メニ攻撃セラレ少シク退却ヲ要スルニ至タレリ

故ニ此豫備トシテ第三十師團ヲ送りシカ今ハ不用ニ屬スルヲ以テ將宜ラ

所ニ送レリ
五、第二、第三擲彈師團ハ「ガブロバト」ニ向テ行進シ魯軍總督ノ直轄下ニ
屬ス

嘗テ迷シ如ク今回ノ魯土戦争ハ「セルビ」ト土耳其ノ戦争ニ基因セルナリ

「セルビ」ハ前年土耳其軍ノ爲メニ敗ラレタリ

「ブレヅナ」陥落第三日ニ於テ「セルビ」ハ宣戦ヲ布告シ其民兵凡五万五千人ノ

出師準備ヲ命シ左ノ如ク部署セリ

三万人ハ「ピロツト」ヲ經テ「ソロヤ」ニ向テ行進ス

一万人ハ南方「ノビツザール」ニ攻勢ヲ以テ前進ス

一万五千人ハ「セルビ」國ノ西南ト西ノ國境ヲ守備ス

「セルビ」軍ノ首ナル目的ハ土耳其軍ノ左翼「ソロヤ」ヲ脅威シ其兵力ヲ西方ニ
蕩撃シ且ツ「エトロポール」「バルカン」ヨリ「ソロヤ」ニ向テ前進スル將官

「グールニコ」ノ軍隊ト「セルビ」軍ノ「ピロツト」ヨリ行進スル諸隊ト連合センカ
爲ナリ

加之「セルビ」軍ハ「ソロヤ」ニ向テ前進シ將官「グールニコ」ノ「エトロポール」

ルカン」ヲ踰ユルヲ容易ナラシメント欲ス

將官「グールニコ」ハ「トロシヤン」ヨリ「コロツ」ヲ經「エトロポール」「バルカン

ノ南溪谷ニ出テ、集合セントス

魯軍ハ土國ノ中心即「コンスタンチノール」ヨリ遠隔シテ「バルカン」山ヲ踰

ヘントス即チ魯軍ハ右翼ヨリ漸々「バルカン」山ヲ踰エ其他ノ軍隊ヲシテ山ヲ

踰ユルヲ容易ナラシメントスルナリ

將官「グールニコ」ノ南進シテ「ピリボボリ」ニ達シ隘路ヲ開クヤ時將官「カルツ

チフ」モ亦續行セントス

而シテ「マンドリノツプル」ニ達スルニ及ンテハ「ナルノバ」ヨリ來ル將官

「セルビ」國
ノ出師準備
及「ブレヅ
ナ」陥落後
魯軍西方ニ
於ケル作戰
計畫

「ラデズキ」ノ軍隊ト合セントス
Radetzky

故ニ若シ土國ノ軍隊「ソロヤ」ニ集合セントセハ魯國將官「ラデズキ」ノ爲メ
Radetzky

ニ其背後ノ連絡(「コンスタンチノッ」ヲ斷絶サル、ノ恐レアリ
Sophia

土軍「ソロヤ」ニ集合セス、其東方ニ集合セハ西方ヨリ行進スル「セルビ」軍ト
Serbie

「プレブナ」ヨリ來ル魯軍ハ「ソロヤ」ニ集合スルヲ得ヘシ
Plevna

此作戰ノ方法ハ魯軍ノ兵力土軍ヨリ優勢ナラサルモ容易ニ施行シ得可シ況ヤ
Sophia

目今魯軍ノ優勢ナルニ於テオヤ

土軍ハ初メ作戦計畫ナカリシナリ故ニ土軍ノ大部ハ多腦南方四角要塞ニ又一
Constantinople

部ノ兵力ハ「コンスタンチノッブル」ニ在リタリ
Constantinople

土軍本營ハ十二月中旬ニ於テ四万人ノ兵力ヲ「バルカン」南方へ送ルノ訓令ヲ
Balkan

發セリ茲ニ於テ中央ト右翼ノ諸兵ヲ「ラズグラド」ニ集合シ該地ヨリ鐵道ヲ以
Rasgrad

テ「ワルナ」ニ送り此地ニ於テ船ニ搭載シ次テ「コンスタンチノッブル」ニ
Constantinople

送レリ

是レニ反シテ「エレナ」スタ、リツア」ニ在リシ土軍ハ徒歩陸行シテ「スリブ
Sivno

」ニ至レリ此行軍タルヤ天候ノ爲メ甚々困難ヲ極ム而シテ
Elena

將官「グルーコ」ノ「エトロポール」ナルカン」ヲ出ツルヤ土軍四万人ハ「タル
Gourko

ル」ザルジツク」ニ鐵道ヲ以テ集合セリ(「コロホノリ」ノ西ニ在リ)
Etropol

土軍ノ此集合ハ時機已ニ晚シ何トナレハ「グルーコ」ハ己ニ全ク「バルカン」山
Philippoli

ヲ越ヘン時ナリシテ以テナリ
Gourko

故該土軍ハ「ソロヤ」ニ通スル峠ヲ警戒スルノ機ヲ失セシノミナラス將官「ラ
Sophia

デズキ」ノ「シプカ」峠ヲ出テ前進スルニ方リ實際「コンスタンチノッブル」
Radetzky

ニ對シ背後ノ連絡ヲ絶タレシナリ
Schipka

土軍ノ此運動宜シキヲ得サリシカ爲メ益々困難ヲ増加セリ
Constantinople

魯軍此作戰ヲ始ムルニ當テ土軍ノ配置ハ如何ナリシヤヲ左ニ述ヘン

將官「グルーニコ」ノ率ユル「エトロポール」「バルカン」ノ軍ニ對シ土將「シマキ
Gouliko Etopol Balkan
「アラブコナク」ハ「バルカ」ノ諸脈相集ル所ナリ」北方
Trachta Arabkonak

ノ野堡ニ布陣ス
既ニ前回ニモ述シ如ク土軍ハ北方山脈「アラウツア」ニ於テ魯軍ニ抗抵セリ魯
Prawiza

軍ハ左翼ヨリ陽撃セシヲ以テ土軍ハ南方山脈ニ退キ再ヒ是ヲ防禦セリ
土軍「アラブコナク」北方陣地ハ堅固ナル良陣地ナリ故ニ將官「グルーニコ」ハ増
Arabkonak

加兵ヲ得サレハ攻撃スル能ハサルヲ以テ只之ヲ監視セリ
Gouliko

「シマキイルバシヤ」ハ其右翼警戒ノ爲メ「スラチツア」ニ十五大隊ヲ配置
Chakir Pacha Slatiza
セリ

魯軍ハ此土軍ニ接近セシム敢テ攻撃セス只之ヲ監視スル耳

「アラブコナク」ニ在ル「シマキイルバシヤ」ハ「ルナコボ」ヨリ「チガシヤ」ニ
Arabkonak Chakir Pacha Lounikovo Ognya
通スル峠ニ一支隊ヲ派遣セリ其兵力ハ歩兵六大隊ナリ

又「ソロヤ」ニ十二大隊ヲ置キ守備セシム
Sophia

註 土國一大隊ハ其兵員五百人トス

故ニ將官「シマキイルバシヤ」ノ兵力ハ總計三万五千人トス然レ共殊ニ傷ムヘ
Chakir Pacha
キハ砲兵及騎兵ノ欠乏ニ在リ

土國ノ弱點ハ「ソロヤ」ニ在リ故ニ魯軍ハ此弱點ニ向ヒ行進セルナリ
Sophia

魯軍ノ「バルカン」山ヲ經過セシハ十二月中旬ヨリ一月初旬ニ涉レリ此兩月間
Balkan

ハ歐羅巴土耳其ニ於テ其寒氣ノ度最高點ニ達セリ

將官「グルーニコ」ハ堅固ナル「アラブコナク」陣地ニ向テ正面ヨリ陽撃シ側面ヨ
Gouliko Arabkonak
リ警戒ヲ施行セリ

十二月二十五日將官「グルーニコ」ハ前進ヲ始ム然レモ砲兵ノ過半数ハ携行スル
Gouliko

ヲ得ス此レ山間ヲ通過スルニ障礙トナルヲ以テナリ

將官「グルーニコ」ハ右迂回縱隊ヲ編成セリ其兵力左ノ如シ
Gouliko

魯將「グルーニコ」ハ山ノ經過動作

歩兵二十一大隊
騎兵十六中隊
砲四十四門

此縱隊通過ノ爲メ工兵隊ヲ前方ニ進マシメ専ラ山間ニ道路ヲ開設セシメタ
リ
工兵隊ノ新ニ開設セシ道路ハ「ナユーリヤク」ヨリ「エレスニツア」ニ至ル是レ
「エレスニツア」ヨリ「タスキッセン」ヲ經テ「アラブコナク」ノ土軍ノ陣地ノ左
側ニ出テンカ爲メナリ
「Elesniza」
「Tashtessen」
「Arabkonak」
魯軍ノ右迂回縱隊ノ南進スルニ當リ「ソヒヤ」ノ土軍ニ對シ其右翼ヲ警戒スル
爲メ右側支隊ヲ編成ス其兵力左ノ如シ
「Sophia」
歩兵五大隊
騎兵六中隊

砲 八門

此右側支隊ハ山嶺ノ最高点「ウーマルガツ」ヲ經テ南方ニ下リ本縱隊東方ニ
轉進スルニ際シ「ソヒヤ」ニ向テ警戒ス
「Oumargatz」
又「ソヒヤ」ノ西方山脈ニアル土軍ニ對シ魯軍一支隊ヲ編成ス其任務ハ土軍ヲ
「Sophia」
「オガシヤル」ナエボ「ノ方向ニ羈縻スルニ在リ其兵力左ノ如シ
「Ogaja」
「Loutkovo」
歩兵五大隊
騎兵八中隊
砲 三十門
將官「グーレコ」ハ又「エトロポール」ヨリ道ナキ山ヲ踰エ南方「ミルコボ」ニ出
「Gourko」
「Etropol」
テ西ニ轉進シ土軍ノ右側ヲ脅威セン爲メ左迂回縱隊ヲ編成ス其兵員左ノ如
「Mirkovo」
シ
歩兵五大隊

騎兵四中隊

砲 十二門

此左迂回縱隊ノ左側ヲ掩護センカ爲メ左側支隊ヲ編成ス其兵力左ノ如シ

歩兵五大隊半

騎兵二中隊

砲 二門

此左側支隊ノ任務ハ「スラナツア」ニ向テ陽撃ヲ爲スニアリ

土軍陣地ノ正面ニ對シ魯軍ハ左ノ兵力ヲ置ケリ

歩兵二十六大隊

騎兵二中隊

砲 五十二門

此ノ諸隊ハ在來ノ陣地ニ在テ歩砲射撃ヲ以テ土軍ヲ羈繫シ諸迂回縱隊ノ作戰

運動ヲ容易ニスルニ在リ

十二月中ハ土軍「アラブコナク」前方山間ニ於テ露營ヲナセリ之レカ爲メ患者頗ル多シ

Arubkonak

魯軍ハ十二月二十五日濃霧ニ乘シ前進運動ヲ始ム

右迂回縱隊ハ工兵ノ開設道路ヲ取リテ行進スルニ頗ル困難ヲ極ム此ノ徒歩道ハ多クハ堅氷ヲ段形ニ鑿開セシモノナリ行進ノ初メハ天氣稍晴頭ナリシモ四日ヲ歴廿八日山ノ降路ニ及ヒシ時大ナル降雪アリ此ノ大雪ハ二十九日ノ夜ニ及ヘリ

砲煩ハ各門繩ヲ以テ挽行スルニ兵卒六十人ヲ要ス就中困難ナリシ滑ナル氷上ヲ大砲ヲ下スニアリ挽馬ハ注意シテロヲ取ルモ轉倒スルヲ屢々ナリ此ノ如キ堆雪中ニ於テ屢徹夜露次セリ

魯軍如斯困難中ニ在ルモ土軍ハ逆撃ヲ爲サリシ故ニ魯軍ノ前衛ハ敵ノ支障ナ

ク南溪谷ニ達スルヲ得タリ

十二月二十六日前衛歩兵ハ「チユーリアク」ニ達シ此ニ駐止シ背後諸隊閉進ヲ

掩護シ翌廿七日前衛歩兵ハ「エレスニツア」ニ至リ其一部隊ハ東方ニ轉進シ

「ニエムソウチ」ニ行進ス

Nyegoso

己ニ峠ヲ越エシ格薩克騎兵聯隊ハ「ソロヤ」ニ通スル街道ヲ行進ス二十八日前

衛歩兵ハ悉ク「ニエムソウチ」ニ集合シ東方「タスキツセン」ニ對シ監視セリ

Nyegoso

三十日ニ至リ右迂回縱隊ノ后尾「エレスニツア」ニ達ス

Elesniza

右迂回縱隊「バルカン」山ヲ踰ルニ六日間ヲ費セリ

Balkan

右迂回縱隊ノ「エレスニツア」ニ達スル一日前即二十九日ニ於テ右側支隊モ亦

外「エレスニツア」ニ來着ス而シテ此ノ支隊ハ「ウーマルガツツ」ノ山ヲ登リテ來

リシナリ其砲兵ノ一部ハ「ウーマルガツツ」ニ到着ス此砲煩ハ樹木ヲ伐リ樞ヲ

Oumargatz

作テ運糧ニ供セリ

右側支隊南方ニ下ルニ一ノ徒歩道ヲモ發見セサリシヲ以テ「チユーリアク」ニ

Tchouriak

於テ本縱隊ニ合セサルヲ得カリシ

此諸軍隊ノ南方ニ下リ集合スルニ至ル迄格薩克騎兵聯隊ハ「ソロヤ」ニ對シ監

Sophia

視セリ

此騎兵聯隊ハ土軍ノ運送車二輛ヲ奪略シ且「ブーガロヴ」ハ敵ノ守備スルヲテ

Bougatov

偵知セリ

近衛騎兵二旅團ハ十二月卅日「タスキスセン」ニ達シ直ニ同高地ヲ偵察セリ此

Taskissen

地ハ嘗テ土軍ノ占領セン所ナリ

土軍ハ魯軍ノ迂回兵ニ對シテハ一モ爲スヲナク殆ント了解シ得サル如ク守勢

ヲ固持セリ魯軍ノ諸縱隊困難ヲ冒シテ山ニ登リ遂ニ南下シテ集合スルヲ全ク

袖手傍觀セリ

魯軍ノ迂回兵ニ對シ土軍ノ爲セシハ只一師團ヲ「タスキスセン」ノ方向ニ送

Taskissen

リ「アラブユナク」ノ陣地ヲ掩護セシノ事アルノミ
 將官「*Arabkonak*」ハ右迂回縱隊ヲ自ラ率ヒ三十一日ニ於テ優勢ノ兵カヲ以テ
 「マルコセウチ」*Gourko*「タスキスセン」ニ到着ス
 同時ニ歩兵五大隊砲兵二中隊ヲ「ソヒヤ」ニ向ワシム又騎兵聯隊ヲ南方「*Malkecevo*」*Taskissen*
 「ニカン」ニ前進セシム
 廿八日以來「タスキスセン」*nikan*「マルコセウチ」ニハ魯軍一師團ノ兵力集合セリ
 將官「*Taskissen*」ハ土軍ノ「アラブユナク」陣地ニ對シ猛烈ニ歩砲ノ射撃ヲナシ
 上將「*Gourko*」*Arabkonak*「シマキールパシヤ」ヲシテ魯軍ノ本攻撃ハ北方ヨリ爲スモノト迷惑セシ
 メントス
 「シマキールパシヤ」ハ此佯撃ヲ悟リ「タスキスセン」*Chakir Pacha*「マルコセウチ」ヨリ逆撃
 ヲ施行セリ
 此ヨリ先キ騎兵二旅團「*Smovsko*」ニ前進ス其目的ハ土軍ノ背後「*Petricho*」
 「*Smovsko*」ニ前進ス其目的ハ土軍ノ背後「*Petricho*」

「*Smovsko*」ノ連絡ヲ絶ツニアリ
 然ルニ道路非常ニ惡ク騎兵ノ行進最モ困難ナルカ爲メ該騎兵旅團ハ遂ニ「*Smovsko*」
 「モブスコ」ニ達スルヲ得ス
 茲ニ至リ土軍指揮官ハ状況ノ危険ナルヲ察知シ「*Petricho*」ニ退却ヲ命
 セリ
 將官「*Gourko*」ノ歩兵十四大隊「*Malkecevo*」及「*D. Komartza*」ニ前
 進スルニ方リ土軍ノ之ニ抗戦スルモナシ只「*Mirkovo*」ニ退却スル土軍ノ後
 衛ヲ見ルノミ
 如斯シテ「*Chakir pacha*」ハ魯軍ノ追撃ヲ免レ退却セリ殊ニ魯軍左迂回縱
 隊ノ來着セサルヲ以テ一層其ノ退却ヲ容易ニセリ
 已ニ述ル如ク魯軍左迂回縱隊ハ「*Etopol*」*Ralkan*「エトロポール」*Ralkan*ノ道ナキ處ヲ行退
 シ二十七日ニ於テ絶頂ニ達シ廿八日及廿九日ニハ大雪ニ際會シ加フルニ寒風

凛烈タリ其軍隊ノ五十三人ハ凍死シ殆ント八百人ハ寒氣ノ爲メ手足關節ノ運動ヲ失エリ此ノ縱隊ハ「エトロポール」ニ遷り更ニ「スラナツマ」ニ行進ス土軍亦抵抗セズ

卅一日此前提ハ「スラナツマ」ヨリ西方「タケロベツ」ニ達ス

此間ニ於テ「シマキールパシヤ」ハ魯軍ノ包圍ヲ免レ遂ニ夜行軍ヲ以テ「ペトリシエボ」ニ達シ「タノルパサルナツラ」ニ集合スル「スレイマンパシヤ」ノ

軍隊ニ合セシナリ

魯軍「バルカン」南方ニ下ル時ニ方テ「シマキールパシヤ」ハ砲八門ヲ放棄シテ退却セリ

「スラナツマ」ニ駐在セル土軍ノ一部ハ南方ニ一部ハ東方ニ退却セリ

二十八日將官「ゾールニコ」ハ「ルーナコウチ」ヲガシヤ」ノ土軍退却スルノ報ヲ得依テ「ルーナコウチ」ノ軍隊ヲ南方ニ招ケリ

「ゾールニコ」
「ソビヤ」
攻撃

茲ニ於テ魯軍ハ首ナル目的ヲ達シ得タリ

一月二日魯軍歩兵十二大隊砲若干ヲ以テ「ゴルニブーガロウ」ニ向テ攻撃ヲ施行セリ

此ノ地ハ土軍「ソビヤ」掩護ノ爲メ支隊ヲ置キシ所ナリ

土軍支隊ハ魯軍攻撃隊ノ爲ニ巧ニ射撃サレ遂ニ退却ス此ノ戦ニ於テ魯軍ハ僅カニ二百五十人ノ死傷アリシモ土軍ハ負傷八百人死亡千六百人ニ及ヘリ

一月二日夕「ゾールニコ」將官ハ「ゴルニブーガロウ」ニ増援兵ヲ送レリ

二日午前「ゾールニコ」將官ハ自ラ近衛師團及狙撃旅團ヲ率ヒ「ソビヤ」ニ向ヒ其北方及東方ヨリ攻撃セントス

「ソビヤ」ニ在ル土軍ノ守備兵ハ魯軍ニ對シ強キ抵抗ヲ爲スヲナク降伏セリ土軍ハ四日ニ於テ「キエスタンデル」ノ方向ニ行進スルヲ得タリ

「ゾールニコ」將官ハ「ベルコバツ」監視ノ爲メ出セシ騎兵ヲ招ケリ此騎兵ハ行進

魯將「ク
ロフ」ノ「バ
ルカン」山
經過動作

中ナル「セルビ」軍隊ト連絡セリ

Serbie

將官「グールニコ」ノ「バルカン」山ヲ踰ヘシ後將官「カルツチフ」モ又「バルカン」

Gourko

Balkan

Karlsuf

Balkan

ヲ踰エタリ其右翼「テヘベン」ヲ經テ「グールニコ」ノ方ニ來レリ

Teheven

Gourko

「カルツチフ」將官ハ其左翼ヲ以テ「トロシヤン」ニ布陣シ歩兵二大隊ハ「ロバツ

Karlsuf

Trojan

Lovatz

ツ」監視ノ爲メニ駐ム將官ノ旗下ノ兵力左ノ如シ

歩兵十五大隊

騎兵十中隊

砲 八門

此諸隊ハ「バルカン」山上最高點ニアリ又此地ハ僅カニ徒歩道ヲ有スル耳

Balkan

「カルツチフ」將官ハ其軍隊ヲ三梯團ニ區分シ「コロビ」ニ向テ發進セリ「コ

Karlsuf

Kolibi

リビ」ハ「トロシヤン」南方六吉米突ニアリ

Kolibi

Trojan

一月四日ヨリ六日ニ於テ砲煩ハ分解シテ橋ニ乘載セシメ馱牛ヲ徵發シテ之ヲ

牽カシム但シ砲一門ニ馱牛四十八頭ヲ要セリ此時寒氣烈シク列氏零點下二十
二度ヲ表セリ

進軍ノ爲メ徒歩道ノ雪ヲ掃ヒ道ヲ探リ木ヲ伐リ石ヲ除キ道路ヲ開通ス

山嶺土軍ノ守備セシ角面堡在リ魯軍ノ先頭隊之ヨリ射撃ヲ受ケ敗北ス六日ノ

夜ニ至ルマテ此角面堡ニ對シ後方諸隊ノ來着ヲ待テリ

此間ニ於テ魯軍ハ「シプユウチ」ノ方向ニ迂回運動ヲ試ミシモ遂ニ其効ヲ奏

Sipkovo

セス

魯軍ノ土軍角面堡ニ對スル間將校二名兵卒六十人凍死ス

八日ニ於テ魯軍ハ東方ヨリ角面堡ヲ迂回スルヲ得タリ茲ニ於テ土軍ハ「テツ

Te

ケ」コルナレ」ノ方向ニ退却ス魯軍ハ格薩克騎兵ヲ放テ是ヲ追躡ス

Ke

Kornare

土軍「コルナレ」ニ於テ「カルロバ」ヨリ増援兵ヲ得依テ魯軍ト會戦セシモ土軍

Ke

Kornare

Karlova

Karlova

Balkan

敗走其一部ハ「カルロバ」ニ他ノ一部ハ南方小「バルカン」ノ方向ニ退却セリ

「カルツチフ」將官ハ三師團ヲ「カルロバ」ニ集合シ東方「ラデスキー」ト「連絡セ
ントセリ」
Karlsol Karlowa Radetzky

魯將「カルツチフ」ハ又南方ニ格薩克騎兵ヲ派遣セリ

土軍ノ「タ、ル」^{Tatar-Pazariik}「バザルゲツク」ニ集合スルノ遅緩セシハ既ニ述シ如シ土軍
如斯西方ニ軍隊ヲ集合セシモノハ魯將「ラデスキー」ノ「バルカン」山ヲ踰ルヲ

防禦シ得ルト考定セシニ因レリ
Radetzky Balkan

「ブレブナ」
ノ概況

千八百七十七年 魯土戰史筆記第十二回 明治廿一年五月十八日

「ブレブナ」^{Plevna}陥落後魯軍ハ更ニ「バルカン」山ヲ踰越シ勉ムルニ至レリ

魯軍ハ先キニ一回「バルカン」山ヲ踰越セリ即チ魯將「グルルコ」ノ東「ルーメ
リ」ニ向テ侵入ヲ企テシ時はナリ此動作ハ實ニ剛毅ノモノト謂フヘシ然レモ

其寡少ノ兵員ヲ以テ能ク其目的ヲ達シ得サルヲ悟リ終ニ「バルカン」山ヲ踰ヘ
テ北方ニ退却セリ而シテ本國ヨリ漸次來着スル軍隊ハ皆ナ「ブレブナ」攻撃ニ

使用セラル、ヲ以テ未タ「ルーメリ」侵入ノ目的ヲ助成スルノ違アラズ然ルニ
今ヤ土將「オスマンパシヤ」ハ囚虜トナリシヲ以テ魯軍ハ再ヒ前ノ企謀ヲ實行

セントスルニ至レリ
Osman Pasha Roumelie

此時ニ當リ魯軍ハ前回ノ侵入ニ比スレハ左ノ利ヲ有ス

第一「初メ「グルルコ」ノ侵入ヲ試ミシ時は比スレハ多クノ兵員ヲ使用スル
ヲ得」
Gourko

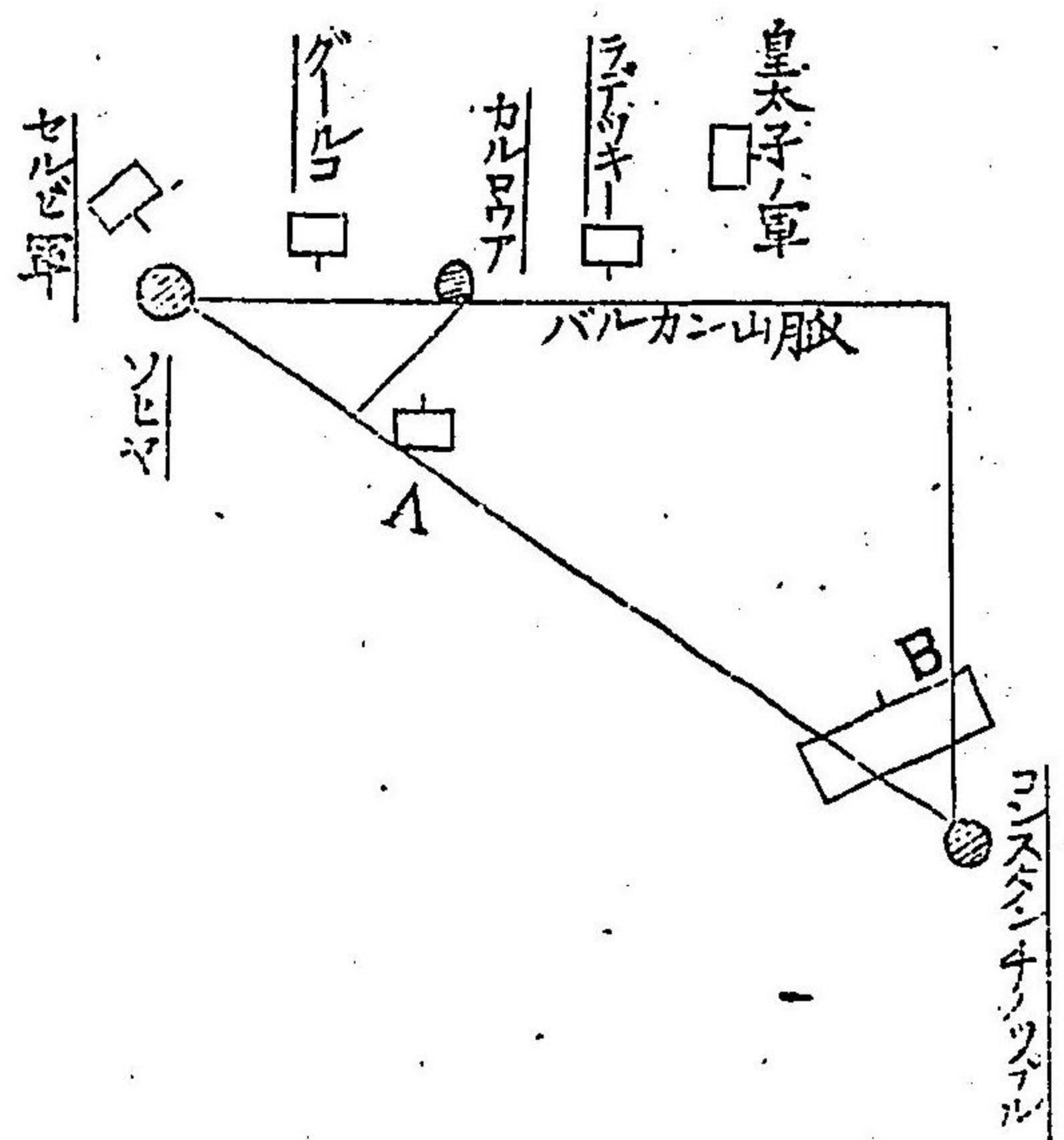
第二 魯軍ノ爲メ最モ妨害ヲ爲ス土軍ヲ已ニ除去セリ
第三 四角要塞内ノ土軍ハ既ニ刷シキ出撃ヲ爲サ、ルニ至レリ(是レヨリ
先キ數回ノ出撃ヲ試ミシモ魯軍ハ常ニ之ヲ撃退セリ)

今ヤ魯軍ハ頗ル優勢ノ兵力ヲ以テ「バルカン」山ヲ踰エントス加之此目的ノ實
行ヲ容易ナラシムルニ「セルビ」軍ノ援助アリ

此前進ニ際シ魯軍ハ至當ノ計畫ヲ爲セリ之ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、「バルカン」山ヲ踰ユルニ最モ右翼ヨリ強行ス
- 二、此地方ニ在テハ之ヲ要スレハ「セルビ」軍ト協力シテ働作スルヲ得
- 三、土軍若シ此地方ニ兵力ヲ集合セント欲セハ「コンスタンチノツプル」ニ
通スル大道ヲ開放スルニ至ルノ不利アリ

「バルカン」山南方戦地ノ形状ハ左圖ノ如ク三角形ヲ爲ス
土軍若シ其兵力ヲAニ集合セハ魯軍ハ「シブカ」ヲ踰エテ前進スヘシ然ルキハ



テ「バルカン」山ヲ踰ユルヲ至當ナリトナスナリ
土軍若シB点ニ集合セントスルカ魯軍ハ猶ホ右翼ヨリ踰山ヲ強行スルヲ良ト

魯軍ノ「コンスタンチノツプル」ニ達
スルハ土軍ニ比スレハ疾シ即チ魯軍

ハ其企謀ヲ果シ得ルニ至ラン

故ニ魯軍ハ土軍ノ集合ハA点ニ非サ

ルヲ察知スルヲ得ヘシ然ラハ魯軍ハ

其右翼ヲ以テ「バルカン」山ヲ踰ユル

ハ至當ノ處置ト云フノ外評スヘキモ

ノナシ

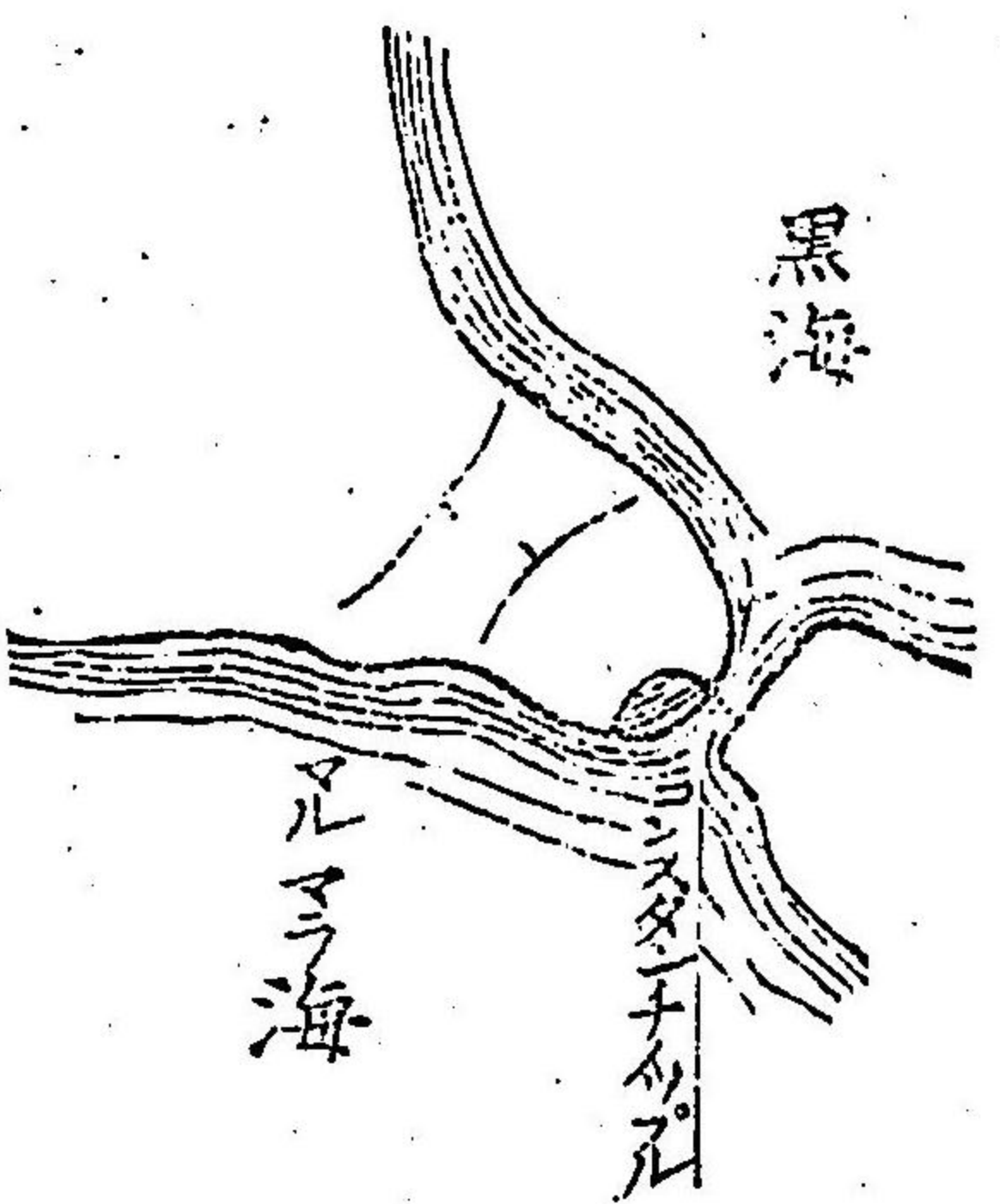
「セルビ」軍モ亦「ソビヤ」近傍ニ向テ

進ムヲ要ス即チ土軍ヨリ遠キ地ニ於

「プレブナ」ノ概況

ス是レ此地方ハ土軍ノ兵力僅少ナル可ケレハナリ
 故ニ土軍ノ情況ヲ察シ地形ニ就テ判断セハ魯軍ノ計畫ハ正當ニシテ且ツ軍簡
 ナリト云フヘシ
 更ニ暇ヲ土軍ニ移サン
 「プレブナ」ノ土軍存在スル間ハ魯軍ハ之レニ廢棄セラルト雖モ「プレブナ」
 Plevna 陥落ノ後ハ魯軍大兵ヲ率ヒテ「エトロポールバルカン」ヲ踰エントスルヤ必セ
 Etropol Balkan リ此時ニ當リ土軍慢ニ優勢ナル魯軍ヲ扼止セントスルハ無謀ニシテ全ク無益
 ナルヲ考ヘサル可カラス
 然ラハ「プレブナ」陥落後土軍ノ採ルヘキ善策如何曰ク實際土軍ノ爲セル働作
 Plevna ハ好結果ヲ得ヘキモニ非ラス殊ニ「バルカン」山ニ因テ魯軍ヲ防禦セントセ
 Balkan シハ尖當ナリ土軍ハ退テ「コンスタンチノツプル」附近ニ兵力ヲ集合シ以テ永
 Constantinople ク魯軍ニ抵抗スルヲ謀ルヲ要ス

「コンスタンチノツプル」ノ地勢ヲ熟視スレハ左圖ノ如ク海中ニ突出ス而シテ
 Constantinople 海ハ土軍ノ制スル所タリ又其附近ノ地形ハ防禦ニ便ナルモノアリ
 故ニ土軍若シ「コンスタンチノツプル」ニ退縮スルモ魯軍ハ容易ニ之ヲ畧取ス
 Constantinople ル能ハス



其他土國ノ爲メニ特別ノ利トナス所ノモ
 ノハ奥國殊ニ英國ニ於テ「コンスタンチ
 Constantinople ノツプル」ヲ魯國ノ有トナスヲ肯ンセサ
 ルニアリ故ニ土軍若シ此地ニ退テ固守セ
 ハ此戦役ハ竟ニ停止スルニ至ラン即チ英
 國ノ如キハ殊ニカメテ仲裁ヲ爲スナラン
 此場合ニ至リ土國若シ有カノ軍隊ヲ集合シ居レハ講和ノ談判上ニ於テ敗後ニ
 比スレハ大ニ差異アル結果ヲ得シナラン

若シ有力ノ軍隊アレハ英國ト同盟シテ再ヒ戰フヲ得ヘシ之レニ反シ敗后ニ在テハ一ツモ爲スヘキナシ故ニ土軍ハ退テ「Constantinople」ヲ掩護シ以テ英國ノ援ヲ待ツヘキナリ

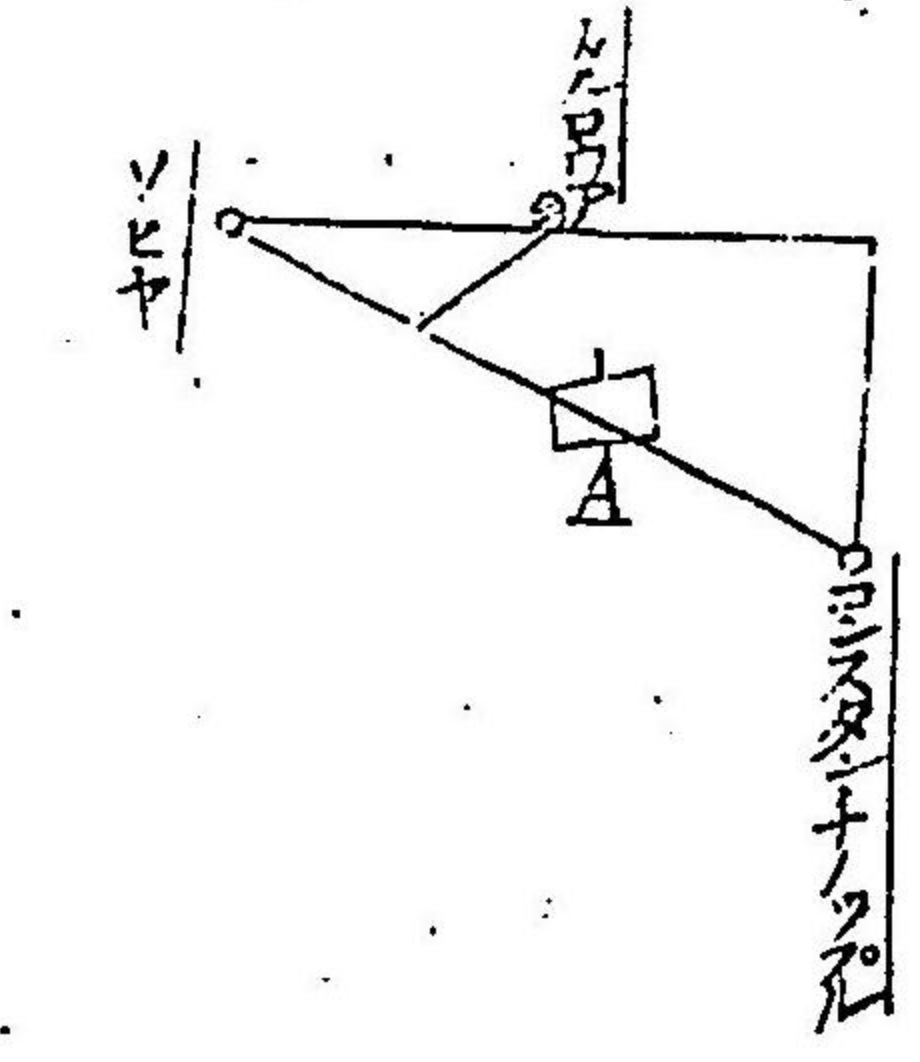
土軍若シ諸地方ノ差遣軍隊ヲ一地ニ集合セハ其數蓋シ寡少ナルニ非サルナリ然レモ土廷ハ他國ヲシテ内部ニ關涉セシムルヲ危疑セリ故ニ諸事悉ク自ラ處置セントシ爲メニ終ニ失敗スルニ至レリ

若シ土軍ニシテ「Constantinople」ニ退結スル能ワサルハ其諸兵ハ左ノ如ク使用スヘキナリ

- 一、「バルカン」ノ全山ニハ唯監視支隊ノミヲ置ク而シテ此支隊ハ何時何レノ地点ニ於テ魯軍ハ「バルカン」山ヲ踰ヘ來ルヤヲ知ルヲ以テ足レリトス
- 二、「バルカン」山南方ニ於テ一地点ヲ撰ミ此地ニ大ナル兵力ヲ集合スルヲ

要ス

魯軍若シ「バルカン」山ヲ踰シト欲セハ大軍隊ヲ一道ニ因テセスシテ必ス數所ヨリ踰ルヤ明ナリ故ニ土軍ハ優勢ナル兵力ヲ以テ



魯軍ノ各縱隊山間ヨリ頭額ヲ出スニ從ヒ各個ニ擊破スヘキナリ故ニ此地ハ守勢ノ性能ヲ以テ撰マスシテ攻勢移轉ニ便ナルヲ要ス
上圖Aノ位置ノ如キハ則チ之レニ適當スル所ノモノナリ

「エトロボール」ニアル軍隊ノ如キハ全ク之ヲ撤去スルヲ良トス
土將「スレイマンパシヤ」ノ意モ亦此ニ在リシカ如シ即チ四角要塞内ノ兵ヲ「タタール」ニザルヲ「ニ集合セントセリ然レモ其期已ニ遅レタリ
又實際ノ戰闘ヲ見レハ魯軍ノ「バルカン」山ヲ踰ユルニ際シテハ土軍ハ最モ分

離シ居レリ即チ「シヤキールパシヤ」ノ軍ハ「エトロポールバルカン」ニアリ而シテ其兵力ハ魯軍ニ對スルニ足ラス「シプカ」峠ニ對スル土軍モ亦新ニ増加セシ魯軍ヲ支ユルニ足ラサルノ兵員ナリ又「スレイマンパシヤ」部下ノ軍ハ「タールバザルデツク」ニ集中中ナリ而シテ此地ハ「エトロポール」及「シプカ」ノ支隊ヲ援助スル爲メニハ遠シ

實際魯將「グールニコ」ノ「エトロポール」「バルカン」ヲ踰エテ進ムニ當リ「シヤキールパシヤ」ノ軍ヲ援助セサリシモノハ其集合未タ成ラス且ツ戦闘ノ準備完カラサリシニ因ルナリ

準備ヲ要セスノ攻勢移轉ヲ爲スニ便ナルハ唯「コンスタンチノツプル」近傍ニ陣地ヲ占ムル場合ニアルノミ

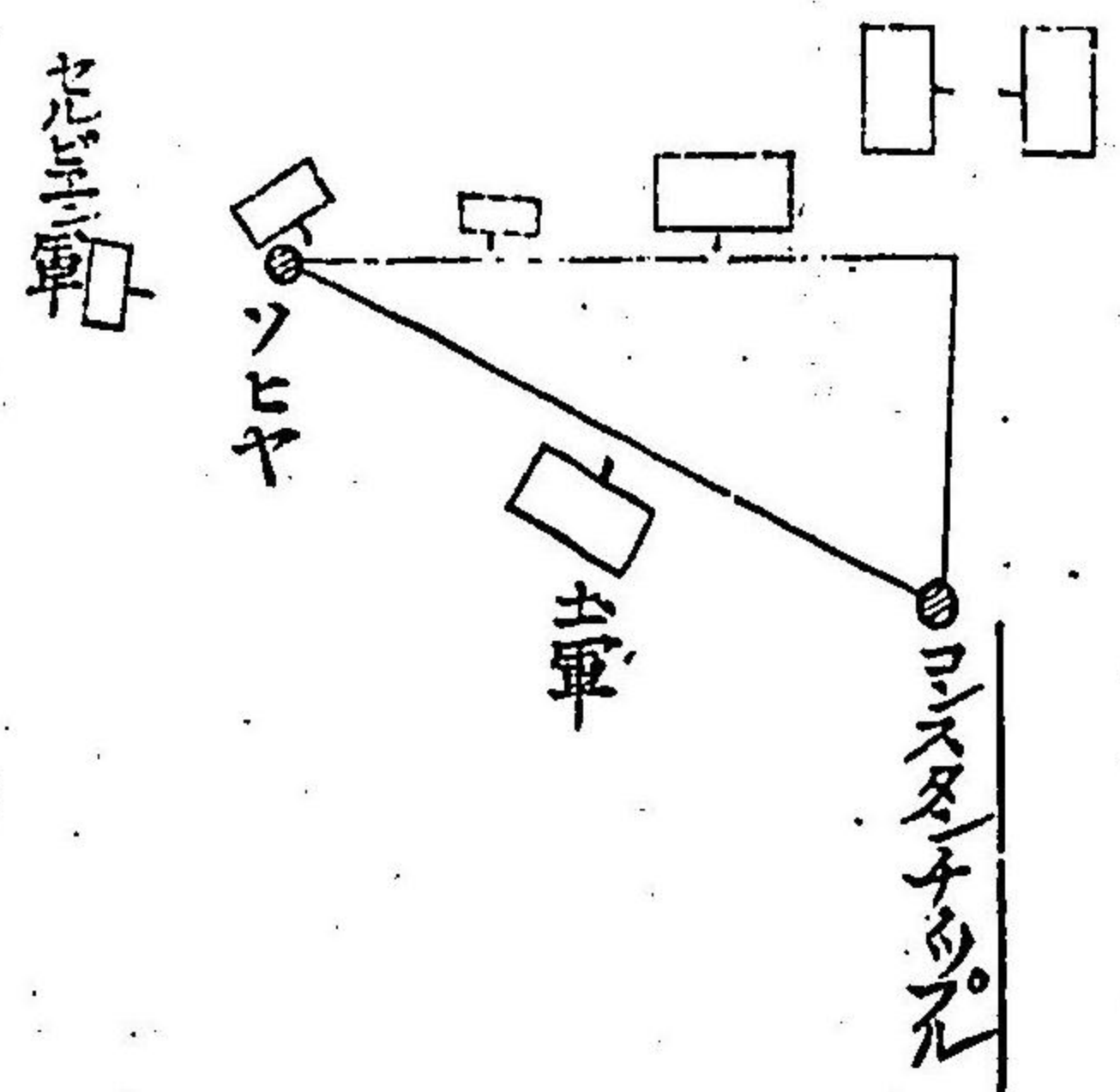
尚ホ他ニ土軍ノ爲メニ取ルハキ策ナキニ非ラス即チ其一ハ全土國ノ兵ヲ四角要塞内ニ集合シ魯軍ノ背後ヲ脅威シテ以テ「コンスタンチノツプル」ニ前進ス

ル「ナカラシムル」ニアリ然レモ是レ間接ニ「コンスタンチノツプル」ヲ掩護スルモノニシテ全ク萬一ヲ僥倖スルノ籌策ナリ他ノ一ハ魯軍ノ南進ニ對シ「バルカン」山南方ニ於テ側面陣地ヲ占領スルモノ是ナリ

地圖ニ就テ見レハ「バルカン」南方ニ於テ側面陣地ニ適スルノ地多クアルカ如シ又土軍ハ海ヲ制スルヲ以テ「スレイマンパシヤ」ノ軍ハ海路「コンスタンチノツプル」ニ至ルヲ得ルナリ

如此側面陣地ヲ占領スルモ優勢ナル魯軍ニ對シテ危キナキ能ラス唯魯軍ノ侵入ヲ多少永ク支障シ得ルノミナリシナラン

土軍ノ不幸ヲ來タセシハ「バルカン」山ノ諸点ニ因テ防禦セントセシニアリ而シテ其諸点ニ於テ



モ唯本道ノミヲ守備シ支路ノ如キハ毫モ意ニ介セサリシ故ニ魯軍ハ工兵ヲ以テ其支路ヲ修理シ常ニ迂廻シテ土軍ヲ包撃ス即チ「シヤキールバシヤ」ノ迂廻セラレシカ如シ又次ニ述フルカ如ク同方法ヲ以テ「シプカ」ノ土軍ハ捕虜トナルニ至レリ

「スレイマンパシヤ」ノ率ユル四万ノ軍隊ハ十二月中旬ヨリ運動ヲ起シ「タタールパザルナツク」ニ集合セシモ「バルカン」山防禦ノ爲メニハ一モ効用ヲ至セサリシ

其運動法左翼軍隊ハ陸路「スリヴノ」ヲ經テ「タタールパザルナツク」ニ向ヒ行進ス其他ノ軍隊ハ「ラスグラード」及海路ヲ經テ「コンスタンツプル」ニ至リ次テ「タタールパザルナツク」ニ進行ス

上將「シヤキールバシヤ」ハ「エトロポールバルカン」ヨリ辛フン「ペトリシエウチ」ニ送クヲ得タリ

魯將「ジュールコ」ハ「エトロポールバルカン」ヲ踰ユルヤ魯將「カルツチフ」モ亦

タ「トロシヤン」ヲ經テ「カルロウア」ニ前進ス

「ジュールコ」ハ「エトロポールバルカン」ヲ過クルニ當リ其首カハ先ツ「ソヒヤ」ニ

向テ進ム而シテ「シヤキールバシヤ」追撃ノ爲メニハ近衛歩兵第三師團ヲシ

テ「ペトリシエウチ」ニ向ヒシム又其師團右側接護ノ爲メ近衛騎兵二旅團ヲ

「ナエルケスキユーイ」ニ向テ進マシム以テ敵ノ左側ニ働作セシメントス

此第一ノ追撃ハ一月二日ナリ偶降雪甚シク騎兵ハ「ナエルケスキユーイ」ニ進

ム能ハスシテ「ミルコウチ」ニ達セリ

「エトロポールバルカン」ヲ踰ヘテ敵ノ右翼ニ向ヒ進ミシ軍隊モ亦積雪ノ爲

メ「ペトリシエウチ」ニ達スルヲ得ス

如此景況ナルヲ以テ近衛第三師團ハ「ペトリシエウチ」ノ東北ニ於テ獨立戰

ヲ爲スニ至レリ而シテ此師團ノ砲兵中目下使用シ得ヘキモノハ唯一中隊アル

ノミ何トナレハ道路ノ修繕成ラサル間ハ之ヲ「バルカン」ノ北方ニ殘留スルヲ
要セレテ以テナリ

「ペトリシエウチ」ノ職闘ハ頗ル激烈ニシテ魯軍ハ將官二名ヲ失ヘリ然レモ一
月三日ニ至テ同地ハ魯軍ノ有トナレリ是レ土軍ハ自ラ隨意ニ退却セシテ以テ
ナリ

四日「メツカ」峠ヲ占領シ五日ニハ「ペトリシエウチ」ノ南方「ポイブレシ」ヲ占
ム而シテ魯軍ハ此兩地ニ前哨ヲ配布ス

六日土軍十大隊「サトル」キユイ「ヨリ」メツカニ向テ逆撃シ魯軍ノ前哨ヲ退
ク然レモ土軍ハ直ニ去リシテ以テ魯軍前哨ハ再ヒ舊位ニ復セリ

魯國騎兵十二中隊ハ南方ニ正面シテ「ラユウスイツア」ニ近衛歩兵師團ハ「ダス
キツセン」ニ第九軍團ノ歩兵第五師團ハ「ドルニ」ヨマルツア」又第三十一師
團ノ歩兵三大隊ハ「スラナツア」ニマリ

第五號圖參

魯將「ジュール」ニ屬シテ「エトロゴールバルカン」ニ職闘セシ第十三師團ノ軍
隊ハ其師團長ニ歸屬ス

將官「カルツナフ」ハ「カルロウア」ニアリ「ジュール」自カラハ殘余ノ諸兵ヲ統
テ「ソロヤ」ニマリ以テ砲兵及輜重ノ背後ヨリ「タルクハニ」及「アラブコナ
ク」附近ニ來着スルヲ待ツ是レ來着後更ニ前進セント欲スルモノナリ

一月五日即チ「ジュール」ノ「ソロヤ」及「ペトリシエウチ」ヲ略取シ終ル迄ニ
魯軍ハ千人ヲ亡ヘリ然レモ其損失ハ困難ノ事業ニ比スレハ甚タ少ナキモノト
謂フヘシ

魯將「カルツナフ」ハ「カルロウア」ヨリ騎兵ヲ南方「ピリツボボリ」ニ差遣シ又
「ラデツキー」ノ軍ト連絡ノ爲メ左翼ヨリ騎兵ヲ派遣ス

魯土兩軍ハ數月間「シブカ」峠ニ於テ拮抗セリ
「ラデツキー」ノ南進スルハ増援兵ノ來着ヲ待テ爲スヘキナリ而シテ其増援兵

「ラデツキー」ノ軍隊

ハ「プレブナ」陥落ノ後來ル者ナリ然ルニ其頃ハ已ニ大雪トナリシヲ以テ其來
ル遲シ之ニ因リ「ラデツキー」ノ南進モ亦タ遲緩スルニ至レリ

魯軍ハ土軍ニ對シ數月來「シプカ」峠ノ首ナル陣地「ニコラス」山ヲ守レリ今ヤ

此陣地ハ悉ク積雪ノ覆フ所トナリ其溫度ハ列氏零點下二十度ニ低下セリ之レ

カ爲メ魯軍ノ患者頗ル多ク殊ニ第二十四師團ヲ以テ甚シトナス此師團ハ他者

ヨリ後ニ來リシニモ係ラス十二月二十五日迄ニ六千人以上ノ病死アリ十二月

二十四日ノ如キハ一聯隊中ニテ病死セシ者六百三十人ノ多キニ及ヘリ故ニ此

師團ハ止ヲ得ス後方ニ還ラシムルヲ要セリ係テ之レニ代ユルニ第四軍團ノ第

三十師團ヲ以テス「ラデツキー」ハ左ノ如キ方法ヲ以テ「バルカン」山ヲ踰ユ

第一「ニコラス」山(シプカ峠)ニハ步兵第九師團ノ三大隊及ヒ第十四師團

ヲ留メ兩翼軍隊ノ目的地ニ着スル迄陽擊運動ヲ施行ス

第二 右縱隊ハ將官「スコハレフ」第二(中將「スコハレフ」)之ヲ率ユ其兵員左

ノ如シ

步兵二十二大隊(步兵十六師團散兵旅團ノ三大隊)

騎兵七中隊

山砲二十四門

工兵二中隊

此縱隊ハ一月五日ノ夕「ソレンステルヴナ」ヲ發シ徒歩道ニ因テ峠ヲ

踰エ「ヘメドリ」ニ至リ此地ヨリ「シプカ」ノ土軍ヲ脅威スルヲ任トス

其行進里程約二十吉米ナリ

第三 左縱隊ハ將官「スワイアトボルクミルスキー」之ヲ指揮ス其兵員左ノ

如シ

步兵十四大隊(步兵第九師團ノ九大隊散兵第四旅團)

騎兵六中隊

山砲兵一中隊野砲兵二中隊
工兵一中隊

此縱隊ハ五日午前ニ「トラヴナ」ヲ發シ「シリカ」ヲ經テ「グソヴア」ニ至リ敵ノ右側背後ヨリ攻撃スルヲ任トス其行進里程「グソヴア」迄約四十六吉ギナリ

第四 歩兵第三十師團(第二十四師團ノ代)ハ左縱隊ニ隨行ス

各縱隊ノ砲ハ總テ機ヲ以テ堆雪上ヲ運搬セリ

左縱隊司令官「ミルスキー」ハ「ビュルガリー」人民二千人ト工兵隊トヲ以テ道路ヲ作ラシム然レモ砲兵ハ三中隊中唯一中隊ヲ携行スルヲ得シノミ

五日夕ニ於テ前衛ハ「シリカ」ニ六日ニハ山脈ト「ダソウア」ノ間ニ達シ七日ニハ「グソウア」西方出口ニ於テ閉進スルヲ得タリ

第三十師團ノ一旅團ハ騎兵若干ト共ニ側面掩護ノ爲メ「マグリリス」ニ差遣セラ

ル

一月八日「ケザンリク」ニ轉進ス

將官「ミルスキー」ハ首力ヲ以テ「シヤニナ」ニ進ミ同處及ヒ「ハスキューイ」ヲ略取ス次テ歩兵十三大隊ヲ南方ヨリ「シブカ」ノ土軍背面ニ對シテ展開セシム

土軍之ヲ逆撃ス然レモ「ミルスキー」撃テ之ヲ退ク

「ケザンリク」ニハ敵兵ナキヲ知ル後テ「ミルスキー」ハ將官「スコベレフ」ノ西方ヨリ乘リ合スルヲ待ツ

將官「スコベレフ」ノ前衛ハ「シブカ」西方ノ峙ヲ踰ユ之レカ爲メ屢々十度以上ノ傾斜アル徒歩道ヲ登ルヲ要ス即チ工兵隊ノ援助ヲ以テ七日夕「ヘメドリ」ニ

達スルヲ得此地ニ於テ土軍ノ歩兵ニ遭遇ス然レモ之ヲ撃退シ其夜此地ヲ略取スルヲ得タリ魯軍百五十人ヲ亡フ

「スコベレフ」ハ後尾軍隊ノ到着スル迄其運動ヲ駐止セリ故ニ九日ニ非サレハ

真ノ「シブカ」攻撃ニ參與スルヲ得ス同氏ハ八日ニ於テ「ミルスキー」ノ戦闘セ
シヲ知ラサルニ非ラス然レモ其兵力未タ悉ク集合セサルヲ以テナリ
當時來着セシ騎兵第一師團ノ三聯隊ハ將官「スコベレフ」ノ令下ニ屬ス同氏ハ
此他尚ホ歩兵十六大隊騎兵七中隊山砲六門ヲ得タリ野砲ハ總テ山上ニ殘留セ
サルヲ得ス

九日「スコベレフ」ハ部下ヲ率ヒテ「セノヴス」ニ向ヒ前進ス
此間「シブカ」ノ土軍ハ其背後ニ於テ左右ニ對シ野堡ヲ築ケリ

「ラデツキー」ハ此間峠上ニ於テ激烈ノ砲撃ヲ爲セリ

九日晝ニ於テ「ミルスキー」ハ「シブカ」村落ヲ占領シ先ツ之レニ防禦ノ作業ヲ
爲セリ

午后二時ニ至リ「スコベレフ」ハ「セノヴス」ヲ占ム

茲ニ於テ魯將「ミルスキー」ト「スコベレフ」ニ因テ袂撃セラレタル土軍司令官

「ウエイセルバシヤ」ハ一万二千人ノ兵力ヲ有シナカラ武器ヲ投シテ降ラサル
可ラサルニ至レリ此土軍ハ先キニ戦闘中砲十二門ヲ失ヒ今復タ十五門ヲ掠奪
セラル

此戦闘間「ラデツキー」ハ第十四師團ノ一旅團ヲ「ニコラス」山ニ集合シ正午ヨ

リ攻撃ヲ始メ激戦二時半ノ後此旅團ハ將校ノ半員ト下士卒千七百人ヲ亡ヘリ
然レモ之レカ爲メ土軍歩兵二十二大隊ト多クノ砲ヲ獲且ツ「ミルスキー」及ヒ

「スコベレフ」ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ

此日土軍ノ囚虜トナリタルモノハ總計三万二千人及砲百三門トス

魯軍ハ如此非常ノ勝利ヲ得シモ之レカ爲メ六千人ヲ失ヘリ

此「シブカ」戦闘ノ間第十一軍團ハ東方ニ於テ東ニ面シ陽撃ヲ爲セリ即チ「ス
タタリツア」及ヒ其南北ヨリス

一月十二日
以後ニ於ケ
ハ魯軍ノ運
動
一般圖参照

ニ送リシヲ以テ「コンスタンチノツプル」ニ至ルノ道路ニハ魯軍ノ爲メノ關門
ナキニ至レリ茲ニ於テ「プレブナ」陥落後ニ於ケル魯軍ノ第一目的即チ「バル
カン」山通過ハ全ク果スヲ得タリ
一月十二日魯軍總督皇太子「ニコラス」親王ハ「ケザンリツク」ニ達ス此ニ於テ
今迄守勢ニマリシ魯軍ハ一般ノ攻勢ヲ取テ前進ス
魯將「チンヘルマンヌ」ノ率エル第十四軍團ハ初メ「ブライラ」及「ガラツ」ニ於
テ「ダニユーブ」川ヲ渡リ「コンスタンツア」ニ進ミ以テ四角要塞ノ土軍ニ對シ守
勢ヲ取レリ今ヤ此軍隊ハ「ブルナ」ニ向テ前進ス
又「ローム」河孟ニ在テ四角要塞ノ土軍ニ對スル魯國皇太子ノ軍ハ「ルーナユ
ツク」及「シユムラ」ニ向テ前進ス豫察ニ因レハ此ニ要塞ハ攻圍ヲ施スカ或ハ
長圍スルヲ要スルモノナリ
第八軍團ノ騎兵第八師團ハ是ヨリ先キ皇太子ノ軍ニ属セリ然レモ今ヤ將官

「ラデツキー」ハ「バルカン」山ヲ越エテ南進スルヲ以テ其騎兵師團ハ歸属スル
ヲ要スルニ至レリ
「オスマンバザール」ノ土軍ニ對シテ監視セシ魯國第十一軍團ハ「スリヴノ」ヲ
經テ「ヤンボリ」ニ進ミ同所及ヒ鐵道ヲ占領シ尚ホ「カルナバド」ヲ占メ以テ北
方「バルカン」山ノ諸峠ヲ掩護ス此軍團ハ一ノ大別働隊ヲ黑海々岸「ビユルガ
ス」ニ差遣スルノ任ヲ有ス
魯國第四第八軍團ハ擲彈師團ト共ニ「アンドリノツプル」ニ向テ前進ス
「カルツナフ」ハ「カルロウア」ヨリ「ロリツホボリ」ニ向フ
「グールユ」ハ此間「タタール」ハザルナツク「ニ向テ運動ス之レカ爲メニハ第二
ノ山脈ヲ踰エサル可ラス

千八百七十七年 魯土戰史筆記第十三回 明治二十一年六月一日

歐羅巴土耳其ニ於ケル戰鬪ハ今將ニ其局ヲ結ハントス前述スル如ク魯將「ジ
ールコ」及ヒ「ラブツキー」ハ己ニ「バルカン」山ヲ踰越セリ。

戰爭ノ當初ヲ回顧スレハ土軍ハ政略上ヨリ常ニ守勢ヲ保テ魯軍ハ專ラ攻勢ヲ
取レリ

土軍守勢ヲ取ルニ當テハ堅固ニシテ他ニ比類ヲ見サル所ノ補助物ヲ有ス何ソ
ヤ即チ天然ノ障礙是ナリ

之レニ反シ魯軍ハ攻撃ヲ爲スニ當テ非常ノ困難ヲ排除セサル可ラス即チ地圖
ニ就テ見ルモ魯國西南部ナル戰場ノ方向ニハ其交通最モ不便ナルヲ知り得ヘ
シ

土軍ノ以テ補助トナスヘキ天然障礙ノ第一ハ「ダニユーブ」川ニシテ土軍ノ直
接正面ニアリ其河幅ノ廣大ナル水底ノ深キ流水ノ疾キ河岸ノ攀登ニ困難ナル

カ如キハ世界殆ント其類ナシ而シテ渡河シ得ヘキ諸点ニハ土軍豫メ要塞ヲ築設セリ加フルニ土軍ハ多クノ鋼鐵艦ヲ以テ編組スル艦隊ヲ有セリ魯軍ハ此堅固ナル障碍物ニ向テ渡河ヲ強行セサルヲ得ス
 土軍ノ頼ムヘキ第二ノ天然障碍物ハ「バルカン」山脉トス此山脉ニ於テモ踰越シ得ヘキ諸点ニハ土軍防禦ノ工作ヲ爲セリ
 然レモ魯軍ハ此困難ナル「ダニユーブ」ノ渡河及ヒ「バルカン」ノ踰山ヲ遂ニ強行スルニ至レリ實ニ是等ノ事跡ハ宜シク研究シテ軍人ノ腦裏ニ鑄銘スヘキナリ
 抑モ如何ナル天然ノ障碍物ト雖モ終始守勢ノミヲ保ツテ之ヲ死用スル時ハ決シテ其力ヲ頼ムニ足ラサルナリ障碍物ハ固ト補助物ナリ之ヲ利用シテ始メテ其價值ヲ生ス故ニ巧ニ之ヲ活用シテ攻勢移轉ヲ圖ルニ非ンハ馬ンソ能ク補助ノ用ヲ爲サンヤ

魯軍一般ノ前進運動

人アリ曰ク國土ノ交通不便ナルハ敵ノ行進ヲ障碍スルヲ以テ守勢ニ適スト是等ハ實ニ甚シキ誤見ト云フヘシ内地交通ノ不便ハ敵ノ爲メニ非ラスシテ守者ノ運命ヲ危フスルノ他ニ効用アラサルナリ夫レ魯土ノ戰爭ノミナラス何レノ戰史ヲ閱ミスルモ天然ノ補助物ノミヲ頼テ以テ防禦ノ功ヲ奏セシモノアラサルナリ必スヤ有力ノ軍隊ヲ以テ巧ニ之ヲ活用セサル可ラサルナリ
 前回述ヘシカ如ク魯將「ラデツキー」ハ土軍ノ守備セシ「バルカン」山ヲ踰ヘ以テ「アレブナ」陥落後ニ於ケル魯軍大本營ノ第一目的ヲ果セリ魯軍ノ大部分ハ己ニ「Plerna」南方ニ來着ス其總督皇太子「ニコラス」親皇モ亦「ケザン」
 リ「ク」ニ來リ魯軍一般ニ攻撃運動ヲ爲スヘキノ命令ヲ發ス
 是レヨリ先キ魯將「チンメルマンヌ」氏ハ「ガラツツ」及ヒ「ブライラ」ニ於テ「ダニユーブ」河ヲ渡リ「ドブルナヤ」ニ在リ四角要塞ノ土軍ニ對シ魯軍背後ノ連絡ヲ掩護セリ今ヤ攻進スヘキノ命ヲ受ケ「ワルナ」ニ向ヒ前進ス

「シヤントラ」河益ニ在テ「ルーチユク」及「シユームラ」ニ對シ監視セシ魯國皇太子ノ軍ハ南ニ向テ前進ヲ始ム

又皇太子ノ軍ト「ラデツキー」ノ軍隊ノ中間ニ在テ連絡ヲ保持セシ第十一軍團ハ東ニ向ヒ「シユームラ」ヨリ「コンスタンチノツブル」ニ通スル道路ニ進行ス

此軍團ハ一支隊ヲ海岸「ビユルガス」ニ差遣ス

將官「ラデツキー」ハ已ニ「シプカ」峠ヲ踰エ今ヤ「アンドリノツブル」ニ向ヒ前進ス其軍隊左ノ如シ

第四、第八軍團

騎兵師團

第三、第四狙撃旅團

擲彈軍團

將官「カルツナフ」ハ第三師團ヲ率ヒ「ラデツキー」及「グルルコ」兩將ノ中間

ニ在テ「トロシヤン」峠ヲ經テ已ニ「カルロウフ」ニ達セリ今ヤ南方「ロリツボ

ガリ」ニ向テ前進ス

已ニ「エトロポール」ヲ經テ「ソロヤ」ニ達セシ將官「グルルコ」ノ軍隊ハ「タタ

ールンザルナツク」ニ向ヒ行進ス

是ヨリ先キ土將「スレイマン」シヤ」ハ四角要塞ヨリ四乃至五万ノ兵ヲ「タタ

ールンザルナツク」ニ集合セントセリ其處置ノ當否ハ已ニ述ヘシカ如シ而シテ

此處置ハ實ニ半途ノモノト謂フヘシ何トナレハ「バルカン」山ノ諸峠ヲ悉ク守

備セシモ其兵力ハ皆ナ魯軍ニ對スルニ足ラサリシヲ以テ一モ其防禦功ヲ奏シ

タルモノナシ

魯將「グルルコ」ハ「ソロヤ」ヨリ「タタールンザルナツク」ニ進ムニ當リ更ニ一

大峠ヲ踰エサル可ラス即「イナマン」附近ノ山脈是ナリ「トラシヤンストール」

門ノ義ナリト稱ス嘗テ千六七百年前羅馬法王此地ヲ過キ此名ヲ附與セシ

魯將「グルルコ」ノ前

モノナリト云フ

將官「グールコ」以爲ラク土將「スレイマンパシヤ」ハ首力ヲ以テ「トラシヤン
 Gouko *Suleiman Pasha* Trajanshor
 ストール」ヲ守備シ我前進ヲ妨害スルナラン依テ之ヲ踰ユルハ自ラ「エトロホ
 ール」ヲ踰エシ策ト「ラデツキー」ガ「シプカ」峠ヲ踰エシ方法ヲ用ユルヲ要ス
Radezky Schipka
 蓋シ此方法タル首力ヲ土軍ノ正面ニ對セシメ支隊ヲ以テ側面ヨリ土軍ノ背後
 ナ切斷スルニアリ今ヤ魯軍ハ已ニ優勢ナリ故ニ此企謀ハ或ハ好結果ヲ得シナ
 ラン已ニ述ヘシカ如ク魯將「ラデツキー」ハ此方法ヲ以テ土軍ヲ捕虜トナスノ
Radezky
 好結果ヲ得タリ又「エトロホール」ニ於テハ土將「シヤキールパシヤ」ハ迂廻セ
Ertopol Chakir Pacha
 ラル、前其軍隊ヲ率ヒテ遁走セシヲ以テ魯軍ハ「シプカ」ニ於ルカ如キ大功ヲ
 奏スル能ワカリシモ亦此方法ヲ以テ勝利ヲ得シナリ
Schipla
 第五号圖（「ボリツボリ」及「ヒソビヤ」間ノ圖）及第六号圖（「アンドリノツプル」及「
 Gouko *Schipla*
 魯軍」グールコ」ハ前方ノ峠ヲ踰エンカ爲メ左ノ部署ヲ爲セリ

歩兵八大隊

騎兵八中隊

砲兵二中隊

以上ハ「ソビヤ」ニ留守セシム是レ「セルビ」軍ハ尚ホ西方ニ於テ土軍ト戦鬪シ
Sophia Serbie
 アレハナリ

歩兵八大隊

騎兵十二中隊

砲十四門

以上ハ一月六日「サマコウナ」ニ差遣ス此支隊ハ「ソビヤ」ヨリ「ラドミル」ヲ經
Samakovo Sophia Radomir
 テ退却スル土軍ヲシテ「タタール」バザルナツク」ニ合スル能ハサラシムルヲ任
Tatar Pazarjik
 トス又此支隊ハ「サマコウナ」ヨリ「バニア」ヲ經テ「タタール」バザルナツク」ニ
Samakovo Bania Tatar Pazarjik
 進ムヘキモノナリ

「グルルコ」ハ自ラ首カヲ將ヒ本道ヨリ「トラジャンストール」ヲ經テ前進ス其
Gourko Trajanschor
兵力左ノ如シ

歩兵三十大隊

騎兵十二中隊

砲六十八門

此隊ハ一月十二日「ウツカレル」ヨリ「イナマン」ヲ經テ前進ス「ウアカレル」ハ
Vakarel Ichiman
峠ノ西入口ニアリ

又「トラジャンストール」ニ向テハ別ニ「ペトリシエウチ」ヨリ「トボルニツア
Trajanschor Petrischero Topolniza
河ニ浴フテ一支隊ヲ進マシム其兵員左ノ如シ

歩兵六大隊

砲 八門

其他一ノ大ナル縦隊ハ一月十二日「ヲトルーキユーイ」ヨリ直ニ「タタール
Olontkoni Putar
パサルナツク」ニ前進ス此道路ニハ第二ノ峠アリ此縦隊ノ爲メニ成功ヲ望ミ

シ所ノモノハ土軍ハ多分「トラジャンストール」ヲ守備スヘキヲ以テ背後ヨリ
Putar Trajanschor
之ヲ攻襲スルニアリ其兵員左ノ如シ

歩兵二十四大隊

騎兵二十四中隊

砲五十八門

然ルニ魯軍ハ其最右翼ニ於テ土軍ノ首ナル抵抗ヲ受ケシ而已ナリシ

魯軍ノ右縦隊ハ「ラトミル」ヨリ「サマコウチ」ヲ經テ「タタールパザルナツク」
Ratomir Somakovo Putar Pazandjik
ニ退却スル土軍ニ出會セリ此土軍ハ戦闘ト談判トヲ以テ魯軍右縦隊ノ前進ヲ
一月八日ヨリ十日マテ阻滯セリ十一日ニ至リ此土軍ハ魯軍ヲ避ケテ退却ス依
テ魯軍ノ右縦隊ハ直ニ前進シ十一日ニ「サマコウチ」ニ達シ十二日「バニア」ニ
Samakovo Bania
十三日「シムシナ」ニ進ミシモ終ニ土軍ニ追及スルヲ得ス
Simaina

此間魯軍首カハ土軍ニ出會スルヲナク「トラシヤンストール」ヲ過ク而シテ其前方ニ派遣セン騎兵ハ我右縦隊ヲ避ケテ退却スル所ノ土軍ニ遭遇セリ依テ之ヲ庶繁セントセシモ成ラス唯僅ニ輜重車一輛ヲ獲シノミ

中央ニ於テ將官「グールコ」ハ一月十三日「エセツカシ」ト「ハザリ」ノ間ニ展

開ス（兩地ハ「タター」ルツザルチツク」ノ西方及ヒ西南方ニアリ

魯軍左縦隊モ亦タ土軍ト小戦ヲ爲セシノミニシテ十三日夕其先頭ハ「ドニス

ベグレイ」及ヒ「アブヂユラレ」ニ達ス此時本隊ハ「サトルキユーイ」ニ又砲兵

Beglii Abudlare Otonkieni

ハ「ストリシエウチ」ニ業者セリ

十四日「グールコ」ハ西、北及東ヨリ「タター」ルツザルチツク」ニ前進ス土軍ハ

復タ此地ヲ棄テ「マリツア」河ノ南ヲ過キ徹夜「ベリツボボリ」ニ退却ス土將

「スレイマンパシヤ」ノ如此速ニ此地ヲ去リシ所以ハ魯將「カルツチフ」ノ率ユ

ル第三師團「カルロウア」ヨリ直チニ「ベリツボボリ」ニ前進シ土軍ノ退却路ヲ

切斷セントセシニ因ルナリ

土將「スレイマンパシヤ」ハ「ベリツボボリ」ニ於テ四万三千人ヲ集合スルヲ

得タリ

十四日魯軍ハ土軍ヲ追躡シテ「ベリツボボリ」ニ前進シ其夕該市街ノ前方ニ展

開ス此ニ於テ最後ノ大戦ニ及ハントス實ニ此戦闘ハ魯土兩軍最後ノ戦闘ナリ

「ベリツボボリ」ニ於テ「スレイマンパシヤ」ノ率ユルモノ、外全國乙ニ土軍ナ

キナリ

一月十四日ノ夕魯軍「ベリツボボリ」前方ニ於ケル配布左ノ如シ

甲 右縦隊

司令官 將官「シニューウアロフ」

第一、歩兵八大隊、騎兵二中隊、砲四門ハ「マリツア」河ヲ渡リ「ア

ダキユーイ」ニ於テ河ノ西南ニ陣地ヲ占ム

魯軍「ベリツボボリ」前ノ展開及ヒ其攻撃策

第二、歩兵十二大隊、砲三十六門ハ「マリツア」河ノ左岸「ハン」ノ

南ニ陣ス

Maritza

Han

第三、歩兵十二大隊、砲二十八門ハ「コナレ」ニ駐止ス

Konare

乙 左縦隊

司令官 將官「クリエドチル」

Kridener

第一、歩兵八大隊、騎兵四中隊、砲三十六門ハ「ナヤラビマ」ニ陣

ヲ占ム

Tchalapitza

第二 歩兵六大隊、砲二十二門ハ「ナヤラビマ」ノ右翼後ニアリ

Tchalapitza

丙 騎兵師團ハ尚ホ左方ニアリテ「サリツア」及「コスレキユーイ」ヲ占ム此

Saritza

Koslekieni

地ヨリ騎兵六中隊ヲ「アリデルマン」ニマテ先行セシム

Ali Dermen

丁 右諸軍隊ノ背後ニ將官「グールコ」在リ

Gourko

又歩兵五大隊、砲五門ハ將官「シルデルシユールドチル」ノ指揮ニ屬シ

Schiltor Schouldner

テ同シク背後ニアリ

其他歩兵八大隊、騎兵七中隊、砲十二門ハ將官「ウエリアミノフ」ノ指揮

Veliminof

ニ屬シ「タター」ルバザルナツク」ニ在リ

Fatar Pazandjik

以上諸隊ノ配布ハ攻撃計畫ニ關係アルヲ以テ故ラニ此處ニ掲ケシナリ一月十

五日ニ於ケル攻撃ハ左ノ如ク施行セントス

一、騎兵ハ「マリツア」河ヲ渡リ「ピリツボ」ボリ「市街」ノ方向ニ前進ス

Maritza

Philippopoli

二、將官「クリエドチル」ハ首カヲ以テ「マリツア」河ノ左岸ヨリ「ピリツボ

Kridener

Maritza

Philippopoli

ボリ」ニ前進ス

三、將官「シルデルシユールドチル」ハ「クリエドチル」ニ續進シテ豫備ト

Schiltor Schouldner

Kridener

ナル

四、將官「シユウウアロフ」ハ「マリツア」河ノ右岸ニ浴フテ「カヂキユーイ」

Schouvalof

Maritza

Kadikieni

ニ向テ前進ス

一月十五日
ニ於ケル
「ヒリツボ
ボリ」附近
ノ戦闘

五、將官「ウエリアミノフ」ハ「タタールバザルナツク」ヨリ將官「シュエーヴ
Veliaminof Tatar Pazardjik Schouvalof
アロフ」ノ右側ニ並行シ「デルマン」ニ向テ進ム

六、司令將官「グールコ」ハ「アイランリ」ノ北方「マリツア」河ノ北ニ至ル
Gourko Aranki Maritza
十五日後將「クリンヤチル」ハ「ヒリツボボリ」市街ノ一部即チ「マリツア」河ノ
Kriukher Philippopol Maritza
北ニアル部分ヲ容易ニ畧取スルヲ得タリ土軍ハ此部分ヲ退キ「マリツア」河ノ
Maritza
橋梁ヲ破壊セリ

魯軍ノ左翼ヨリ前進セシ騎兵師團ハ「マリツア」河ノ北方ニアル土軍ヲ河岸マ
Maritza
テ壓縮セリ

將官「シュエーヴアロフ」ハ「カヂキユーイ」及ヒ「カラテイル」ニ向テ前進ス此兩
Schouvalof Kalkieni Karatir
地ハ「マリツア」河ニ朝スル支流（スタレルシエカ）ノ右岸ニアリ

此地ニ在テハ午后四時ニ至ルマテ土軍ト射撃戦闘ヲ行ヒ續テ魯軍ハ河ヲ渡リ
Sarejska
甚シキ困難ナク「カラテイル」ヲ畧取スルヲ得タリ
Karatir

將官「グールコ」ハ作戰ノ經過ニ因リ其攻撃ヲ易カラシメンカ爲メ歩兵四大隊
Gourko
砲兵二中隊ヲ「アイランリ」ヨリ「カヂキユーイ」ニ向テ展開セシム
Aranki Kalkieni

茲ニ於テ土軍ハ此地方ニ於テモ亦退却セサルヲ得ス

將官「ウエリアミノフ」ノ率ユル軍隊ハ土軍ニ出會スルヲナク「デルマン」ニ達
Veliaminof Derman
スルヲ得タリ

註 今ヤ一月中旬酷寒ノ候ナリ故ニ徒涉シ得ル河川ト雖モ軍隊ノ爲メニ危
害ヲ醸ス恐レアルヲ以テ徒涉ヲ行フヲ得ス茲ニ於テ魯軍ハ最モ奇ナル
一手段ニ因テ渡川ヲ施行セリ即チ騎兵ノ馬匹ヲ歩兵ニ貸與シテ河ヲ騎
過セシメタリ

魯軍ハ此日「ヒリツボボリ」ノ攻撃ヲ結了スル能ハス依テ其夕將官「シュエーヴ
Philippopol Schouvalof
アロフ」及ヒ「ウエリアミノフ」ノ兩軍歩兵二十三大隊ハ「アヂキユーイ」カラテ
Veliaminof Aranki Karatir
イル」及ヒ「デルマン」ニ駐止ス其右側掩護ノ爲メニハ騎兵ヲ右翼前ニ差遣セリ
Derman

將官「シルデレムニール」ヲテ「ハ此夕歩兵十大隊、騎兵若干ヲ率ヒ」マリツ
Schilder-Schuldner
Maritza

ア「河ノ右岸」マインランリ「ニ陣地ヲ占ム
Airanli

其他將官「クリエドチル」ハ「マリツア」河北方ニアル歩兵二十四大隊ヲ將テ
Krudner
Maritza

「ロリツボボリ」ノ北部及ヒ其近傍ニ陣ス
Philippopoli

又「マリツア」河岸ニ浴テ騎兵師團布陣ス
Maritza

十五日ヨリ十六日ニ至ルノ夜騎兵若干中隊ハ「アイランリ」ヨリ河岸ニ浴フ
Airanli

テ前進シ「ロリツボボリ」ニ向テ偵察ス此偵察ニ因テ已ニ市街ノ南部ニモ亦土
Philippopoli

軍在ラサルヲ知ル
Philippopoli

十六日將官「クリエドチル」ハ河ヲ渡テ「ロリツボボリ」市街ヲ全ク侵略ス此渡
Krudner
Philippopoli

河ヲ爲スヤ軍隊ノ一部ハ急造筏ヲ用ヒ一部ハ騎兵ノ馬匹ニ因テス
Philippopoli

將官「ゾール」ハ十六日午前十時報告ヲ得テ土軍ハ已ニ南方「スタニマカ」近
Gourko
Stanimaka

土將「スレ
イマンパシ
ヤ」ノ退却
及ヒ魯士戰
争ノ結末

土將「スレイマンパシヤ」ハ歩兵八十乃至百大隊及砲百四門ヲ有ス然レモ其兵
Suleiman Pacha

員ハ已ニ隊數ニ比シテ微弱ナリ即チ四万四千人ニ足ラス
Philippopoli

「ロリツボボリ」ノ南方ニハ最も困難ナル一大山脈アリ「デスポトダグ」ト稱
Despotdagh

ス此山脈ハ「バルカン」山ノ如ク高カラスト雖モ交通困難ナル不毛ノ土地ナリ
Balkan

格モ日本神戸東北ノ山ノ如シ
土將「スレイマンパシヤ」ハ實ニ此山脈ノ北ノ斜面ニ占陣セリ即チ「スタニマ
Stanimaka

カ」ヨリ「カラテイル」ニ通スル道路ニ浴フテ「カラガク」「ベラスナカ」「マル
Suleiman Pacha

ウ」及ヒ「ブルマインデン」ノ諸点ヲ占ム故ニ此陣地ハ直接ニ山脈ヲ背ニスル
Karatair
Bulmaineden

モノニシテ最も退却ニ困難ナルノ地ナリ
Dermendere

魯軍ハ此日進シテ土軍陣地ノ前方ニ占陣ス

將官「クリエドチル」ハ「パスアマハン」ニ陣ス
Krudner
Passa Mahale

又騎兵師團ハ「パプスリ」ヲ經テ前進シ土軍ト「マングリノツプル」トノ連絡ヲ
Papusli
Andinople

断絶ス

十六十七兩日ニ於テ魯軍ハ攻撃ヲ施行シ甚シキ損害ヲ蒙ラスシテ土軍ノ占メ
シ多クノ陣地ト多クノ砲煩ヲ獲タリ是レ土軍ハ已ニ大ニ疲疲セシヲ以テナ
リ

十七日ヨリ十八日ニ至ルノ夜ニ於テハ土軍ノ陣地ニ尚ホ少許ノ燎火アルヲ見
ル然レモ十八日ノ朝ニ至テハ魯軍ハ已ニ前方ニ敵ノ隻騎ヲモ見ス

土將「スレイマンパシヤ」ハ殘兵ヲ率ヒテ夜間「スタニマカ」ヨリ「ケランリク」
ニ退却セリ然レモ其一部ハ直チニ山ノ南方ニ遁走セリ

魯軍騎兵ハ已ニ「アンドリノツプル」ニ通スル土軍ノ連絡ヲ絶テリ故ニ「ス

レイマンパシヤ」ハ東方ニ退却スルヲ得ス即チ今ヤ南方海岸ニ向テ退クノ一
策アルノミ

土將「スレイマンパシヤ」ハ二万ノ殘兵ヲ率ヒ南海岸「カウアラ」(「ヒリッポハリ」
Suleiman Paşa)ノ具南海岸ニ

街ナリ)ニ至リ此處ニ於テ乗船シ僅ニ「ガリポリ」ニ遁カル、ヲ得タリ然レモ

砲ノ大部分ハ山ヲ踰エシムル能ハサリシヲ以テ之ヲ山間ニ遺棄セサルヲ得ス

故ニ土軍ノ退却ヲ追躡セシ魯國騎兵ハ僅々一中隊ヲ以テ「カラツアラ」近傍

ニ於テ四十門ノ砲ヲ獲タリ

魯將「グルルコ」ノ兵力モ亦大ニ疲勞セリ故ニ劇烈ニ「スレイマンパシヤ」ヲ

追撃スルヲ得ス依テ四日間ノ休憩ヲ爲シタル後首カヲ以テ「アンドリノツプ

ル」ニ前進ス但シ騎兵ヲ以テ南方「スレイマンパシヤ」ノ軍隊ヲ追躡セシメ以

テ其踪跡ヲ搜ラシム然レモ此騎兵海岸ニ達セシ比ハ「スレイマンパシヤ」已ニ

乗船シテ去リシ後ナリシ

「スレイマンパシヤ」ノ有スル二万ノ兵ハ真ニ擊滅ラサレノ殘兵ニシテ戰鬪力

ヲ有スルモノニ非ラス又土耳其全國已ニ他ニ兵力ナシ且ツ「アンドリノツプ

ル」ノ如キハ先キニ土軍野堡ヲ築設シ防禦ノ工作ヲ爲セシト雖モ「スレイマン

パシヤ」ノ退却スルニ及ンテ一モ守備兵ナキニ至レリ故ニ「*Constantinople*
Pacha」ニ通スルノ道路ハ己ニ魯軍ニ向テ全ク開放セシモノナリ
魯將「*Gouko*」*Kartsos*「カルツチフ」及ヒ「*Radezky*
Andrinople」ノ三軍ハ己ニ「*Andrinople*
Gouko」*Kartsos*「ラデツキー」ノ三軍ハ己ニ「*Andrinople*
Gouko」ニ會合セリ

此大ナル魯國兵團ニ對シ半島及ヒ「*Constantinople*
Constantinople」ヲ守備スヘキノ地
形ナキニ非ラス然レトモ其兵力己ニ盡滅セシヲ以テ復如何トモスル能ハス
故ニ「*Constantinople*
Constantinople」ノ前方ニ於テハ一モ戰鬪ナク土廷ハ休戰ヲ乞
フニ至レリ

茲ニ於テ魯土戰鬪全ク局ヲ結ヘリ

魯國皇太子及ヒ將官「*Zimmermann*
Zimmermann」ノ兩軍四角要塞ニ向テ爲セシ運動ハ
更ニ迷フル所アラントス此地方ニ於テモ土軍ハ又全ク敗亡セリ

亞細亞土耳其ニ於テ爲セン戰鬪ノ如キハ地圖ナキヲ以テ局部ニ涉リ研究スル

ヲ得ス大体ニ就テ評スレハ此地方ニ對シテモ魯軍ハ最初過少ノ兵力ヲ以テ侵
入ヲ試ミシカ爲メ殆ント不利ノ情況ニ陥レリ然レトモ後々魯國內地ヨリ増援
兵來着スルニ及ンテ其勢ヲ挽回シ得タリ

歐羅巴土耳其ニ於テ土將「*Oman Pacha*
Oman Pacha」ノ高名ヲ森カセシト均シク亞細亞
土耳其ニ於テハ土將「*Monkhtar Pacha*
Monkhtar Pacha」ノ名尤モ著シカリシ

前四講後ノ
補遺並ニ魯
軍結末働作
ノ批評

千八百七十七年 魯土戰史筆記第十四回 明治二十一年六月十五日

歐羅巴土耳其ニ於ケル魯土戰爭ハ「Philippopolis」ノ戰闘ヲ以テ最後ノモノト

ス

抑モ此戰闘ノ起リシハ土將「Suleiman Pacha」ノ退却路ヲ南方海岸ニ取リシ
ニ因ル

實ニ「Philippopolis」ヨリ南方海岸ニ至ルニハ困難ナル山脈ヲ踰越セサルヲ得

ス之レニ反シテ「Andrinople」ヲ經テ「Constantinople」ニ至ルニ

ハ直線ノ大道アリ故ニ「Suleiman Pacha」ハ魯軍ノ來ラサル前此道路ヲ取テ

退却セサル可ラス而シテ「Philippopolis」ニ於テ交戦ヲ爲サレハ魯軍ニ先タ

ナテ此方向ニ退却スルヲ得シナリ然レモ魯軍「Schipla」峠ヲ占領シ且ツ此地ニ

アリシ土軍ヲ囚虜ト爲スノ後ナニ至テハ已ニ此運動ハ「Suleiman Pacha」ノ

爲メニ不利トナレリ

土將「スレイマンパシヤ」ノ「ゴリツボボリ」ニ留テ魯軍ト戦ヒシモノハ亦所以
 ナキニ非ス即チ「コンスタンツブル」ニ向テ前進スル魯軍ニ對シテ側面陣
 地ヲ占メシナリ然レモ此陣地ノ南方海岸ニ達スルニハ通過困難ナル一大山脉
 アリ故ニ此處置ハ最モ危険ノモノト謂ハサル可ラス
 此處置ノ不可ナリシハ其結果ヲ見テ知ルヲ得ヘシ即チ「スレイマンパシヤ」ハ
 其率ユル軍隊ノ過半ト全砲兵ヲ失ヒ僅ニ二万ノ兵員ヲ以テ「ガリボリ」ニ免カ
 ル、ヲ得タルナリ
 之レニ反シ勝者タル魯將「ゴールコ」ハ唯一支隊ヲ以テ「スレイマンパシヤ」ヲ
 追ハシメシノミニシテ其他ノ疲勞セシ軍隊ニハ四日間ノ休息ヲ與ヘ而後直チ
 ニ「アンダーリノツブル」ニ前進スルヲ得タリ
 魯將「ラデツキー」ハ「シプカ」峙ニ於テ數月間土軍ト對峙セシモ遂ニ此峙ヲ占
 領シ且ツ土軍ヲ降シ「アンダーリノツブル」ニ向テ行進ス
 Adrianople
 Schirpa
 Suleiman Pacha
 Gallipoli
 Gourko
 Suleiman Pacha
 Adrianople

魯將「カルツチフ」ハ「トロシヤン」峙ニ於テ「バルカン」山ヲ踰エ「ゴールコ」
 ト「ラデツキー」兩將ノ中間ヲ行進シ「カルロウマ」ヨリ直チニ「ゴリツボボリ」
 ニ前進セシモ已ニ戰鬪ニ與ルヲ要セサリシヲ以テ道ヲ轉シ「ナルバン」ヲ經テ
 「アンダーリノツブル」ニ向ヒ行進ス其途次ニ於テハ僅ニ土軍ノ殘兵ニ出會セシ
 ノミ
 此時ニ當リ住民中純粹ノ土耳其人數万人ハ「コンスタンチノツブル」ニ向テ逃
 走ス作戰地近傍ノ住民ハ世人ノ知ル如ク土耳其人「ビユルガリー」人及ヒ希臘
 人ノ混合ナリ而シテ土耳其人ハ自國ノ軍隊稍氣勢ヲ張ルヲ見レハ常ニ他ノ住
 民ヲ虐待セリ然ルニ今ヤ土軍ハ敗走スルニ至リシヲ以テ土耳其人ハ他ノ住民
 ヨリ復讐セラレンヲ恐レ乃チ此ノ如ク遁逃スルモノナリ此土耳其人ノ逃走ニ
 因リ其伴フ所ノ荷物ハ殆ント諸道路ヲ填塞シ爲メニ大ニ魯軍ノ前進ヲ妨害セ
 リ
 Constantinople
 Balkan
 Philippopoli
 Bulgaria
 Greece
 Constantinople
 Philippopoli
 Tschirpa

然レモ魯將「スコムレフ」ノ率ユル前兵ハ遂ニ一月二十二日「アンドリノツプ
 ル」ニ達スルヲ得タリ又數日ナラスシテ魯將「グールコ」^{Andrinople}「ラデツキ」^{Kontko}及「カ
 ルツナフ」^{Kantsof}三軍ノ大兵團ハ此市街及ヒ其附近ニ集合セリ
 是ヨリ先キ土軍ハ「ビユルガリー」^{Bulgare}人民ヲ使役シテ此市街附近ニ臨時作業ヲ以
 テ防禦ヲ構成セリ即チ三十五個ノ堡壘及ヒ其他ノ防禦工事トス而シテ土軍ハ
 此地ヲ以テ根據トナサントスルカ故ニ多クノ重砲及ヒ輕砲ヲ備ヘントセリ然
 レモ魯軍ノ此地ニ到達セシ頃ハ未タ其砲備整頓セサリシ
 土將「スレイマンパシヤ」ハ「アンドリノツプ」ヲ守禦セスシテ尚之レヨリ
 西方ニ於テ魯將「グールコ」^{Suleiman Paeha}「エトロポールバルカン」^{Andrinople}ヨリ進出スルモノニ對
 向セリ故ニ「スレイマンパシヤ」ノ軍隊ト「アンドリノツプ」トノ交通ハ「グ
 ールコ」^{Gonko}ノ爲メニ全ク切斷セラル、ニ至レリ之レカ爲メ預メ「アンドリノツプ
 ル」ノ守禦ニ充テシ軍隊ハ魯軍該市街ニ達スルニ當テ該地ニ在ルヲ得サルノ

第七号圖參

ナラス之ニ赴クヲ得サリシナリ
 魯軍「アントリノツプ」^{Andrinople}ニ向ヒ前進スルニ當テ此市街ニハ土軍僅ニ八千人
 アリシニ
 又四角要塞ヨリ徒行シ来リシ軍隊凡ニ万五千人ハ此時「スリヴノ」^{Sivno}及「ヤンボ
 リ」^{Janboli}兩所ノ附近ニ達セリ
 然レモ土將「スレイマンパシヤ」ノ「ロリツボボリ」ニ於ケル敗報ヲ得ルヤ以上
 ノ土軍諸將ハ「キルクキリツス」^{Suleiman Paeha}ヲ經テ退却スルニ決セリ
 此退却セシ軍隊ハ「コンスタンチノツプ」^{Kirk-Kilise}ノ西方「チヤタルチヤ」^{Philippol}附近ニ延長
 ナル防禦線ヲ設ケ之レニ據テ以テ直接ニ都府ヲ掩護セリ
 以上述フルカ如キ景况ナルヲ以テ魯軍ノ「アンドリノツプ」^{Constantinople}ニ着セシ比ハ
 己ニ土軍ノ守備スルモノナシ
 一月二十二日魯軍騎兵ハ「アントリノツプ」^{Tschataldja}ヲ占領ス然ルニ此地ニ通スル鐵
 道

道バ多ク破壊ヲ施サス且ツ運行材料亦存在セリ故ニ騎兵此地ヲ占ムルヲ得ル
ヤ直ナニ瀛車ヲ用ヒテ歩兵ヲ招クヲ得タリ

二十二日魯軍ハ市街ノ南方及東方ニ其占領面ヲ擴張セリ

魯軍騎兵ハ二十五日「Bala-Eski」ヲ占ム又二十六日「Lule-Bourgas」ヲ占ム

且ツ機關車一輛及ヒ諸種ノ車輛二百ヲ獲タリ「Andrinople」ヨリ南方ニ

通スル鐵道ニ於テモ亦タ機關車五輛及ヒ諸種ノ車輛二百ヲ獲此ヲ以テ魯軍ハ
其背後ノ交通ヲ大ニ容易ナラシムルヲ得タリ

「Lule-Bourgas」ニ於テ魯軍騎兵ハ土軍凡ソ二万五千人「Constantinople」

「Schoumlou」ニ向ヒ行進スルヲ探知セリ是レ四角要塞「Schoumla」ヨリ招喚セラレシ

モノナリ

二十九日魯軍騎兵中隊ハ「Schoumlou」ニ於テ土軍騎兵百騎ニ遭遇シ之ヲ擊退

ス

魯軍近衛騎兵師團ハ「Rodos」(マルマラ海岸)ニ差遣セラル又右側ニ於テハ

「Mariza」河岸ニ左側ニ於テハ黑海々岸「Midia」ニ各一部ノ騎兵ヲ差遣ス

二十九日魯軍總督皇太子「Nicolas」親王ハ「Andrinople」ニ來リ土軍ト

休戦ノ約ヲ結ヘリ

此休戦ヲ爲スニ附テハ「Tchatalja」防禦戦ノ以西及ヒ「Boulair」防禦線

以北ノ地ハ全ク魯軍ニ委任セリ

「Boulair」防禦線ノ背後「Gallipoli」半島ニハ土將「Suleiman Paoha」砲兵

ナキ二万ノ兵員ヲ有ス以テ半島及ヒ緊要ナル「Dardanelles」海峡ヲ保守ス

「Tchatalja」防禦線内ニハ「Choumla」ヨリ來リシ軍隊ヲ合シ約三万人

アリ以テ「Constantinople」ヲ掩護ス然レモ其防禦線ハ不完全ニシテ殊

ニ砲備不十分ナリシ

魯軍ハ「Andrinople」ノ南方及ヒ東方二十万人ノ軍隊ヲ有セリ細説ス

レハ歩兵百五十四大隊、騎兵九十八中隊、砲六百門ヲ以テ戰フヲ得ルナリ故ニ

「コンスタンチノツブル」ヲ侵略スル難キニ非サルナリ
Constantinople
魯軍總督ノ休職ヲセシハ大ナル過失ト云フヘシ即チ其報酬ニハ本條約ヲ締結
スルニ當テ魯國ニ大ナル不利ヲ呈セリ

魯軍總督ノ休職ヲ許セシハ「コンスタンチノツブル」侵略ノ難キヲ顧慮セシニ
Constantinople
非ス英國ト開戦スルニ至ランヲ恐レ且ツ已ニ魯國ノ希望ハ悉ク達スルヲ得ル
ノ地位ニアリト考定セシナリ

註 是レ有名ナル「サンステファノ」ノ條約ナリ此地ハ「コンスタンチノ
Constantinople
ツブル」ノ西方海岸ニ濱スル一小市街ニシテ兩國全權大使ノ會合セシ
地ナリ
S. Stephanos

抑モ魯軍ノ「コンスタンチノツブル」ニ侵入セサリシモノハ英國ト戰フヲ厭フ
Constantinople
カ爲ナリ然レモ魯國ニシテ若シ「サンステファノ」ノ條約ヲ實行セントセハ
S. Stephanos

亦英國ト開戦セサルヲ得サルニ至ラン英國豈ニ之ヲ黙視スヘケンヤ故ニ魯國

ノ爲メニ利トナス所ノ者ハ寧ロ「コンスタンチノツブル」ヲ侵略シ然レ後談判
Constantinople
ヲ始ムヘキサリ魯軍ハ英軍ノ來ラサル前已ニ「コンスタンチノツブル」ヲ略取
Constantinople
シ得ルノ位地ニアリ之ヲ畧取スレハ若シ英國ト開戦スルニ至ルモ黑海ノ入口
Constantinople
ヲ扼守スルヲ得黑海々岸ヲ侵襲セラル、ノ恐ナシ

若シ夫レ此場合ニ於テモ尚ホ英國ト戰フヲ欲セサルカ如キ時ハ英國ト談判ノ
起ルニ當テ之ヲ放棄スヘキナリ「コンスタンチノツブル」ハ一時ノ貨物トスヘ
Constantinople
シ之ヲ讓レハ代ユルニ他ニ大ナル請求ヲ爲スヲ得ヘク隨テ魯國ハ目的ヲ有利
Constantinople
ニ果スヲ得シナラン然レモ此貨物ナカリシカ爲メ魯國ハ本條納ヲ結フニ當リ

損益相償ハサルノ果ヲ結ヘリ
故ニ曰ク魯軍ノ「コンスタンチノツブル」ニ侵入セサリシモノハ軍事上及政略
Constantinople
上共ニ大ナル過失ナリ

魯將「チンメルマン」ノ四角要塞ニ對スル運動

已ニ述フルカ如ク魯軍「バルカン」山ヲ踰ルヤ總督ハ守勢ニアリシ諸軍ニ攻勢運動ヲナスヘキヲ命ゼリ *Balkan*

魯將「チンメルマン」ノ率ユル第十四軍團ハ騎兵第四師團及格薩騎兵師團ヲ以テ増加セラル *Zimmermann*

屢々述フルカ如ク「チンメルマン」氏ハ初メ「ガラツ」及「ブライラ」ニ於テ「ダニユーブ」河ヲ渡リ「チエルナウチダ」及「コスタツア」ノ線ニ進ミ守勢ヲ取レリ是レ「バザルナツク」ワルナト「シリストリ」ノ間ニシテ「ワルナ」ノ方ニ近シ「ニアル」一萬二千ノ土軍ヲ監視シ且ツ之レニ對シテ魯軍背後ノ連絡ヲ掩護スルモノナリ *Zimmermann*

實ニ此守勢ハ千八百七十七年ニ始マリ殆ント半年ノ永キヲ經過ス而シテ此間唯騎兵ヲ以テ「シリストリ」ノ土軍ヲ危懼セシムルヲ事トセリ *Silistrie*

一月十七日ヨリ同二十日ニ至ル間ニ於テ魯將「チンメルマン」ハ其軍隊ヲ *Zimmermann*

「バザルナツク」ノ東北ニ集合ス *Pazardjik*

土軍ハ「バザルナツク」ノ背後ニ退キ其附近ニ二十三個ノ堡壘ヲ築キ防禦ヲ堅固ニス土軍ハ之レニ因テ「ワルナ」港ヲ掩護セントスルモノナリ *Pazardjik*

「チンメルマン」氏ハ「バザルナツク」ヲ攻圍セントス依テ二十六日其軍隊ノ半部ヲ「バザルナツク」ノ東方ニ集合シ以テ土軍ト「ワルナ」トノ交通ヲ絶タントセリ *Pazardjik*

此日土軍ハ「バザルナツク」ヨリ出撃ス魯軍ハ之ヲ擊退セシト雖モ是等ノ爲メ此日ノ企望ヲ果タス能ハサリシ *Pazardjik*

土軍ノ此出撃タルヤ「ワルナ」ヘ退却スル軍隊ノ運動ヲ掩護シ且ツ之ヲ秘匿セシモノナリ *Warna*

魯軍ハ二十七日ニ於テ土軍ノ退却セシヲ知ル依テ徐々ニ之ヲ追躡ス而シテ「ワルナ」ノ北方ニ於テ再ヒ土軍ニ接ス *Warna*

土軍ハ「*ワルナ*」ヨリ「*ルーナユク*」及ヒ「*シニュームラ*」ニ通スル鐵道ヲ「*ブラウ*
アビー」附近ニ於テ破壊セリ
Warna *Routschouk* *Choumla* *Pravadi*

此軍隊ハ此處ニ於テ戰ヲ停止ス

是ヨリ先キ魯國皇太子ノ軍モ又四角要塞ニ對シテ監視セリ今前進運動始ムル
ニ當テ第十二軍團ハ「*ルーナユク*」ノ攻圍ニ充テ之ヲ此處ニ駐メ第十三軍團
ヲ率ヒ進テ一月二十六日「*ラスグラー*」ヲ包圍シ二十七日「*オスマンバザール*」
ヲ占メ二十九日「*エスキナユーマ*」ヲ略シ此地ニ防禦工事ヲ施シ「*シニュームラ*」
ニ向テ前哨ヲ配布ス
Routschouk *Rasgrad* *Osmanbazar* *Esli-Djona* *Choumla*

皇太子ノ軍ハ此景況ヲ以テ休戦スルニ至レリ

「*ルーマニ*」軍ハ休戦ヲ爲スニ當リ「*ウイヂン*」ヲ圍ニリ
又「*セルビ*」軍ハ「*ニツシユ*」ノ要塞ヲ略取シ且ツ二三ノ有利ナル戰鬥ヲ爲シ以
テ此地方ニアリシ土軍ヲ南方及ヒ東南ニ退却セシメタリ然レモ土軍ノ最左翼
Roumanie *Widin* *Serbie* *Nisch* *Choumla*

諸地方軍隊
ノ景況

皇太子ノ軍
四角要塞ニ
向テスル所
ノ景況

「*ノウイバザール*」(「*アルバニ*」ノ北部)ニ於テハ土軍能ク終局マテ「*セルビ*」軍
ニ抵抗セリ
Novipazar *Albanie* *Serbie*

其他已ニ知ル如ク魯國第七第十ノ兩軍團ハ海岸ノ守備ニ任セリ此兵員ハ最初
ニ出師準備セシ魯軍ノ四分一ナリ

第七軍團ノ一部ハ「*ダニユープ*」河口ノ守備ニ任ス
Danube

其他ノ部分ハ「*哥利木*」半島其他上陸シ得ヘキ諸點ニ配布ス

土國艦隊ハ魯國海岸砲台ニ向ヒ二回砲撃ヲ施行セリ然レトモ一モ功ナク暫時
ニシテ去レリ

黒海内ニアル魯國ノ僅少ナル軍艦ハ土國甲鐵艦ニ對抗スル能ハサルヲ以テ悉
ク「*オデッサ*」及ヒ「*ニコライエフ*」ノ兩港ニ集合セリ
Odess *Nikolajef*

魯國ハ軍用ニ供シ得ル如ク艦裝セシ三個ノ商船ヲ有セリ此商船ハ却テ大功ヲ
奏セリ

此商船ハ「ダニユーブ」河口及ヒ「ラツエン」ニ於テ土國艦隊ニ對シ水雷攻撃ヲ爲セリ又「トレビズ」港ト「コンスタンチノツプル」間ヲ交通スル土國運送船及ヒ商船ヲモ之ヲ以テ妨害セリ

Danube

Razen

Trebizonde

Constantinople

魯軍ハ歐羅巴土耳其ニ使用セシ軍隊ノ外亞細亞土耳其ニモ又タ一大軍ヲ有セリ即チ戰鬪ノ初メニ在テハ十二万ナリシモ後ニ至リ尚ホ之ヲ増加セリ然レトモ真ニ攻勢ヲ取テ戰鬪セシモノハ此兵員中僅々ニ過キサリシ何トナレハ亞細亞州中自國ニ屬スル住民中ニモ不穩ノ景狀アリシニ因リ之ヲ鎮壓スル爲メ多クノ兵員ヲ要セシヲ以テナリ

魯軍ハ亞細亞土耳其ニ於テモ最初ヨリ攻勢ヲ取レリ然レトモ其希望ハ甚タ多ク且ツ大ニシテ而シテ之レニ使用スル兵員ハ歐羅巴土耳其ニ於テセシト同シク過少ナリシ故ニ七十七年ノ夏ニ於テ此地方ノ魯軍モ亦タ守勢ヲ取ルヲ要セリ加之一二回好結果ヲ得シモ竟ニ土軍ノ爲メニ大ニ敗ラレ一旦自國內ニ退却

亞細亞土耳其
其ニ於ケル
戰鬪ノ大略

セサルヲ得ザルニ至レリ

其後多クノ増援兵ヲ得冬季ニ及テ再ヒ前進セリ

亞細亞土耳其ニ於ケル第一ノ首ナル戰鬪ハ「カルス」トス此戰ニ於テ魯軍ハ勇

Kars

戰之ヲ奪ヒ大ニ榮譽ヲ輝セリ之レヲ略セシ後チハ直チニ「アルメニ」ノ首府

Armenie

「エルゼルーム」ニ進ムヲ得タリ「アルメニ」ハ當時土耳其領ナリシ

Erzeroum

Armenie

魯軍是等ノ勝戰ヲ爲セシハ魯將ノ功ニ非スシテ「バルカン」山ヲ踰越セシト同

Balkan

シク魯國軍隊カ非常ニ強大ナル行軍効程ヲ有セシニ因ル

「エルゼルーム」ニ於テモ酷寒ノ候魯軍ハ攻圍ヲ爲セリ是亦魯國軍隊能ク寒氣

Erzeroum

ニ堪ユルノ慣習アリシヲ以テ之ヲ爲スヲ得シナリ

土軍ハ「エルゼルーム」ノ攻圍セラル、ニモ係ラス大兵ヲ以テ遁レ「トレビズ

Erzeroum

Trebizonde

」ヨリ船ニ搭シテ「コンスタンチノツプル」ノ難ニ赴ケリ

Constantinople

「エルゼルーム」ノ戰未タ決セサルニ已ニ魯土ノ戰爭ハ停止トナレリ然レモ

Erzeroum

「エルゼルム」ハ終ニ魯軍ノ有トナレリ故ニ亞細亞土耳其ニ於テハ歐羅巴土
耳其ニ於ケルカ如キ判決ノ戦闘ヲ爲サスシテ終局トナレリ
亞細亞土耳其ニ於ケル戦闘モ又タ有益ナルモノ多シ然レモ地圖ナキヲ以テ之
ヲ詳スルヲ得ス

魯土戰爭ノ
結果

魯土戰爭講和ノ全ク局ヲ結シハ伯林ニ於テ魯土及歐州各國ノ會合ヲ爲セシ
ニアリ

此會合ニ於テ英國及奧國ハ魯國ノ多ク得タル成果ヲ分取セリ魯國ハ之ヲ放棄
セサルヲ得サルニ至レリ故ニ魯國ハ多クノ人命ヲ犠牲ニ供シ刻苦シテ經營セ
シモ其成果ニ至テハ慾望ヲ充タスニ足ラス唯亞細亞地方ニ於テ僅ニ境土ヲ廣
メシト「ダニユーブ」河口ニ於テ前年「哥利米」ノ役失ヒシ土地ヲ回復セシノミ
土國カ魯國ニ拂フヘキ償金ノ如キハ今日ニ至ルモ未ダ終ラズ是レ土國ニ金ナ
キカ爲メナリ而シテ魯國ニ於テモ亦大ニ財政ニ困ム現ニ戰爭前魯國ノ「ル

ブル(通貨)ハ全價ヲ有セシモ戰爭後ニ於テハ其三分ノ二ニ値スルノミ

如此景況ナルヲ以テ魯國人民一般ニ不平ヲ抱クハ又巴ヲ得サルナリ

英國奧國ノ此談判ニ關涉セシカ爲メ幾分カ土國ニ利益ヲ與ヘシヤト云フニ決
シテ否ラス土國ハ一モ利スル所ナキナリ之レニ反シ土國ニ信親ナル諸國ハ劍
ニ血ヲトスシテ大ニ各自ヲ利スルヲ得タリ即チ左ノ如シ

先キニ土國ノ藩屬タリシ「ルーマニ」及ヒ「セルビ」國ハ獨立シ「ブルガリ」ハ
新國ヲ建シ

奧國ハ「ボスニ」及ヒ「ヘルセゴウマ」ヲ占領シ英國ハ「シープル」島ヲ占領ス又

英國ハ其後ニ至リ「エヂプト」ヲモ占有セリ

佛國ハ「ナユニス」ヲ占ム

希臘國ノ如キハ一モ此事件ニ關涉セサリシモ土國ノ最南部ニ於テ「ケルキラ」

島及ヒ「テッサリ」ヲ奪略セリ

是ニ因テ此ヲ觀レハ魯國ノ勝利ハ自己ヲ利セスシテ他國ヲ益セシモノナリ實ニ勞シテ功ナキモノト謂フヘシ矣

(終リ)

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
三	四	「スラーブ」	「スラーブ」	四十四	三	ザエニコイ	ザエニコイ
三	七	之ヲ	之ヲ	四十四	十	Lamboli	Amboli
十五	七	「セルビ國內」	「セルビ國內」	四十七	三	埃大都	埃都
十七	六	「シニコウマン」	「シニコウマン」	六十四	一	Gaergevo	Giurgevo
同	八	Tusklessen	Tusklessen	九十二	二	車輪	車輪
十八	三	「シエーラ」	「シエーラ」	九十九	四	ビルガリ	ビルガリ
全	四	Sinistriei	Silistrie	百一	一	脇威	脅威
二十三	十一	哥刑米	哥利米	百十八	十二	設ス	施設
三十三	十二	工兵七中隊	工兵四十七中隊	百廿四	四	四師軍團	四師團
三十八	九	Macedanie	Macedonie	百廿七	七	偵察隊	偵察隊
全	九	Daniel: Babadagh 及ヒ Dobriidja	Danube: Babadagh 及ヒ Dobriidja	百卅七	十二	摩擊	摩擊
四十二	二	「ヨランダ」	「ヨランダ」	百四十六	二	カラニロー	カラロー
全	五	Tschernavoda	Tschernavoda	全	全	Karnilom	Karnilom
全	七	Kostantza	Kostantza	百五十一	五	短形	短形
全	八	Yvarna	Yvarna	全	八	土將「オスマン パシヤ」	土將「オスマン パシヤ」
全	全	Raschia Pacha	Raschid Pacha	百五十二	九	スレイマン	スレイマン
四十三	一	Peavadi	Plavadi	全	全	Suleiman Pacha	Suleiman Pacha

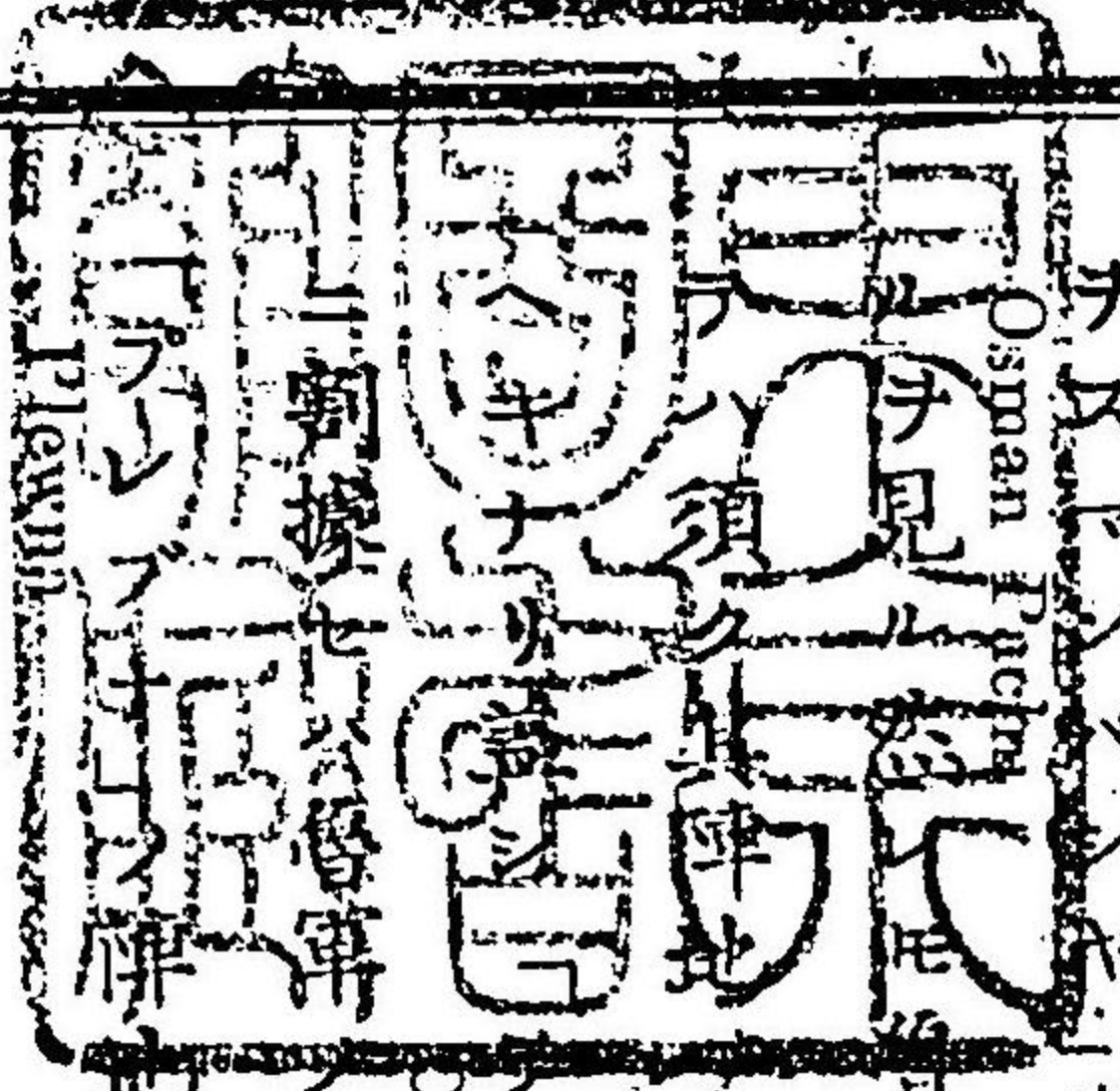
頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
百五十二	十一	帶陣	帶陣	百七十六	七	黒ハ	(黒ハ)
百五十三	二	Karoom	Karoom	全	九	「カセルシユウ」ヲ	「カセルシユウ」ヲ
全	四	「エスキヂニマ」	「エスキヂニマ」	百八十一	五	此支隊ノ	此支隊ハ
百五十四	七	セシモ果ササ	セシモ果ササ	百九十三	五	略取スルヲ	略取スルニ
百五十五	九	普魯士	普魯士	百九十五	一	系堡攻撃ス	系堡ヲ攻撃ス
百五十七	四	司令官ハハツサ	司令官ハハツサ	二〇	十一	Mehet Ali	Mehemet Ali
全	全	Prince Hassan	Prince Hassan	二〇二	十一	軍隊ノ	軍隊ヲ
百六十	八	スレイマン神	スレイマン神	二〇三	七	故ニ彼レ戦ワス云々...	リ未ノ五行一字宛下ケルコ
百六十二	十一	十四師團	十四師團	二〇六	四	トルクハ	トルクハニ
百六十三	六	此海水面	此海水面	二〇八	八	トルベン	トルベン
百六十四	三	東南面方ヨリ	東南面ヨリ	二〇九	十一	「ダールコ」	「グールコ」ハ
全	七	其地点	其地点	二〇九	三	土軍	土軍
百六十八	三	一齊ノ	一齊ニ	二〇一	三	軍隊ニ問ハレン	軍隊ニ問ハレン
全	五	魯軍勇	魯軍ノ勇	全	四	前海軍卿	(前海軍卿)
百七十二	二	駁シ重ク軍律	駁シ重ク軍律	全	九	軍隊	軍隊
全	三	ヨリ免ルヲ得	ヨリ免ルヲ得	二百十九	九	「ルチコウ」ヲ	「ルチコウ」ヲ
百七十六	四	白ハ	白ハ	二百二十	二	「ルチコウ」ヲ	「ルチコウ」ヲ

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
二百廿四	四	漸々増援兵到着	漸々到着	二百五十五	九	ナリシ滑ナル	ナリシハ滑ナル
二百廿七	十一	チエルチユカイ	チエルチユカイ	二百五十九	七	抗戦スルモナシ	抗戦スルモノナシ
二百廿九	十一	「リュスト」	「リュスト」	全	十一	行退	行進
二百三十	二	「ピルコスメチカ」	「ピルコス」メチカ	二百六十三	一	駄牛四十八頭	駄牛四乃至八
全	七	Batin	Batin	二百九十	三	中開	中間
全	十二	「ローム」河ヲ	「ローム」河ヲ	全	四	Constantinopel	Constantinople
二百三十一	五	當リ「テフカ」	當リ「テフカ」	三百一	六	放ニ	故ニ
二百三十二	六	スタノリサア	スタノリサア	三百十二	十二	得サルノナラス	得サルノミナラス
全	十一	得セリ	得タリ	三百十八	七	「ワルナ」ト	「ワルナ」ト
二百三十六	十一	魯軍第十三軍ノ	魯國第十三軍團	全	全	「ワルナ」ト	「ワルナ」ト
二百四十一	七	終ニ之レヲ	故ニ之レニ	三百廿五	八	「ハルセゴウ」	「ハルセゴウ」
二百四十七	五	「ハルガン」	「ハルガン」	全	全	Heregovina	Heregovine
二百四十七	十	開クヤ時將官	開クヤ將官				
二百五十	十	接近セシム	接近セシム				
二百五十二	六	Tehourak	Tehourak				
全	七	土軍ノ陣地	土軍陣地				
二百五十三	五	「チガジャル」チ	「チガジャ」チ				

№1802/23

西曆千八百七十七年魯土戰役中「ブレブナ」最後ノ戰鬪及降服始末

土國將官「オスマンパシヤ」ハ一大過誤ヲ作セシモノナリ彼ノ「ブレブナ」内ニ閉居シシコト則チ是ナリ
Osman Pacha Plevna



「オスマンパシヤ」ガ「ウイド」河邊ニ駐止スルハ其西方ノ交通自由ナルノ間ハ理由アリ
Osman Pacha Vid
「オスマンパシヤ」ノ「ソビヤ」街道上ニ陣地ヲ占ムルノ日ニ及ン
Osman Pacha Gornko
「オスマンパシヤ」ノ五万ノ軍隊ニシテ「エトロポールバルカン」内
Osman Pacha Orkhanie
ニ非スシテ必スヤ此隘路中ナルヘキナリ
Osman Pacha Stran Pacha
「オスマンパシヤ」ハ八月ニ於テハ「ローム」河邊ニアル自國本軍ノ自己ヲ應援スル
Osman Pacha Tom
ナラント信スルヲ得又「スレイマンパシヤ」ノ轉進ヲモ希望スルヲ得タリ然レドモ
Osman Pacha Saliman Pacha
「シプカ」峠ノ失敗及「メヘメターリ」ノ退却後ハ此等ノ希望悉ク消滅セリ
Osman Pacha Schiplia
勇猛ナル此「パシヤ」ハ陣地ヲ撤スル爲メ深く苦慮セシヤ明ナリ英國ノ數新誌ノ説ク
Osman Pacha Pacha
所ニ依レハ土廷ハ「オスマンパシヤ」ノ上申セシ請求ヲ容レヌ而シテ一軍ヲ「タルク
Osman Pacha

ハニ」ニ集中シ以テ道路ヲ守備シ交通ヲ保持スルニ足レリトナセリ然レモ此軍隊ハ
Janie
新募兵ヲ以テ編組シタリシカ故ニ實際魯軍ニ對シテ拮抗スルヲ得ス乃チ其任セラレ
タル要務ヲ果ス能ハカリシナリ

顧フニ十月廿四日ニ至ルマテハ「ナスマンバシヤ」ハ出撃ヲ爲シ得シナリ然レモ「ゴ
ルニードウブニアク」ノ戦闘開始スルニ及ンテ此等ノ企望ハ全ク絶エタリ
Gorny—Doubniak
十一月ハ戦闘ナク經過セリ

魯軍ハ土軍ノ逃亡者ニ依テ「プレブナ」内ニ於ケル土軍ノ糧食漸ク欠乏スルヲ知ル
之レニ因テ「プレブナ」陥落ノ日モ亦猶豫ノ概算スルヲ得タリ

「ナスマンバシヤ」ハ最後ノ勇猛ナル企望ヲ決行セントスルノ氣勢ヲ示セリ故ニ魯軍
Osman Paclia
ハ總テ陣地ニ野營シ市街周圍ノ堡壘ヲ日毎ニ堅固ニシ特ニ西方ニハ築城ヲ増設シ且
ツ近衛軍團ノ一部ハ道路ヲ斷絶ス茲ニ於テ魯軍ハ如何ナル勇猛ノ攻撃ヲ受クルモ失
敗ノ患ナキニ至レリ

今假リニ實際ニ反シ「ナスマンバシヤ」ハ斯ノ障碍物ヲ破壊シ且ツ之ヲ超過シ得タリ
Osman Paclia
ト想定スルモ彼決シテ速ク此地ヲ去ル能ハサルナリ何トナレハ周圍ノ魯軍ハ之ヲ尾

撃スヘク且ツ彼ハ幾クナラスシテ「ゴールコ」ノ軍隊ニ衝突スヘケレハナリ

「ナスマンバシヤ」ノ軍ハ十一旅團ニ分レタル四師團ヨリ成リ其歩兵大隊數ハ七十三

トス又其他歩兵六十四大隊ト將官「アクメートヘイチ」「セフイ」及ヒ「イツゼバシヤ」

等ノ司令スル三師團ハ完全ノ攻圍ヲ受ケサル前「ナスマンバシヤ」ニ屬セシモ其後

「メヘメータリ」及ヒ「シヤキールバシヤ」ノ部下ニ分屬セラレ且ツ數大隊ハ「ゴルニ

ードウブニアク」及「テリシユ」ニ於テ魯軍ノ爲メニ囚虜トナレリ

「プレブナ」軍ハ左ノ如ク配置セララル

第一師團 司令官「アブザルバシヤ」

各歩兵八大隊ノ三旅團「ハツサンハミ」「アナフ」及「アリバシヤ」之ヲ指

揮ス
Abdil Paclia
Hassan Hami
Atif
Ali Paclias

計歩兵二十四大隊騎兵四中隊砲二十四門

第二師團 司令官中將「ハツサンサブリバシヤ」此將官ハ俗ニ「ナエルケス

ハツサン」ト稱ス
Hassan Sabri Paclia
Tchortkessu

各歩兵八大隊ノ二旅團「ハリル」及ヒ「アクメーダアンシエリバシヤ」之ヲ指

揮ス
Hasan
Halil
Achmet
Angeri Paclia

揮ス

計歩兵二十二大隊野砲四中隊山砲四中隊及「ナエルケス」八百人

第三 第三師團 大將「ナスマンバシヤ」ノ直接指揮ニ屬シ專ラ外部ノ堡壘内ニ用

ヒラル、モノナリ

Osman Pacha

歩兵七大隊ノ一旅團「カラアリバシヤ」之ヲ指揮ス

Kara-Ali Pacha

各歩兵六大隊ノ二旅團「シユクリバシヤ」及「ナエルケスアアリバシヤ」之

Chukri Pacha

Teherkese Abri Pacha

ヲ指揮ス

計歩兵十九大隊砲兵四中隊

第四 第四師團 司令官「エミンバシヤ」

Emin Pacha

此師團ハ「ナスマンバシヤ」ノ新ニ編組セシ所ニシテ壯健ナル住民及「バシ

Osman Pacha

Baschi-

ボズーク」人ニ武器及ヒ制服ヲ附與シ強テ制規軍隊中ニ編入セシモノナリ

Bozouks

其兵員ハ歩兵十大隊砲兵二中隊ニシテ將官「ハフイツバシヤ」及大佐「シヤ

キールベイ」之ヲ指揮ス

Hafiz Pacha

Cha-

第五

豫備砲兵 司令官砲兵ノ老將官「リウアアクメバシヤ」

其砲種左ノ如シ

一 野砲兵六中隊

克留布

三門

二 要塞砲

四十八「リーヴル」

佛國ノ衡量ニシテ土地ニ因リ「リーヴル」ハ三百八十乃至五百

一門

二十四「リーヴル」

五十二「グララム」ニ相當ス

白砲八門

十二「リーヴル」

二十四門

以上ノ砲ハ總テ口裝ニシテ青銅或ハ鋼製ナリ

「ナスマンバシヤ」ハ穎敏ナル先見ヲ以テ此等ノ軍隊及材料ヲ七月中旬已ニ「ウイザ

Osman Pacha

Widin

ン」ヨリ運搬シ置ケリ故ニ「プレブナ」ノ軍隊ハ歩兵七十三大隊騎兵二十四中隊及ヒ

Plevna

「ナエルケス」人數百名ナリ

Teherkese

又砲煩ノ數ハ總計野砲百四十門攻城砲三十七門ニ及ヘリ

魯國將官「トトルベン」氏ハ「プレブナ」陷落ノ時期ニ於ケル戰況ヲ明瞭ニ開示セリ左

Totleben

Plevna

ニ之ヲ掲ク

「プレブナ」ニ襲守スル「ナスマンバシヤ」ノ軍隊ハ防禦ニ容易ナル如ク準備セル陣

Plevna

Osman Pacha

地ヲ占領セリ抑々此陣地メルヤ七月下旬ヨリノ長キ時日間地利ヲ活用シ且ツ之ニ
 對壕作業ヲ適合セシメ尚漸次強固ノ度ヲ増加セシ所ノ怖ルヘキ防禦ノ數線ヲ爲セ
 リ加之迅速射撃ニ於ケル小銃火及輻輳放火ヲ以テ此堡壘ノ抵抗力ヲ更ニ増大ナラ
 シメタリ實ニ此堡壘ノ前方ニ「ウエルスト」(魯國ノ里名「ウエルスト」ハ佛國ノ千七
 十米許ニ相當ス)ニ至ルノ
 地ハ全ク銘鏝ヲ以テ覆フヲ得其他敵ノ陣地ノ廣サ及ヒ深サハ其豫備隊ヲ我砲兵ノ
 射程外ニ位置セシムルニ足り且ツ總テノ斜面ハ「プレブナ」市街近傍ニ集中スルヲ
 以テ敵ハ脅威セラレ、陣地ノ部分ニ直ニ豫備隊ヲ遣リテ茲ニ赴接セシメ得ルノ便
 ナ有セリ陣地其レ此ノ如シ故ニ八月三十日及三十一日(「トルベン」氏ノ記スル所ハ
 九月十一日ト相當ス)ニ我軍ノ「プレブナ」ニ向テ爲セシ突撃ノ失敗セシヤ當然ナリ此情
 況ニ於テモ尚強襲ヲ以テ此陣地ヲ奪取セントスルカ如キハ固ヨリ不可ナリ是レ唯
 タ無益ニ鮮血ヲ濫スニ過キサレハナリ是ヲ以テ吾人ハ増加兵ノ來着ヲ待テ且ツ土
 軍ヲ攻圍スルニ決セシナリ

此「プレブナ」陣地ノ攻圍ハ近衛軍團ノ來着セシ後即チ十月十二日(十月廿四日)此
 軍團ノ「ユルニード」ヲ奪取セシ時初メテ完全ナルヲ得タリ「ユルニード」

ドウブニアック「ハ」ソセヤ「ニ」通スル街道上ニアルカ故ニ此時ヨリ「オスマンパシ
 Donnik Sophia Osman Pasha
 ヤ」ハ攻圍線中ニ一血路ヲ開クカ若シクハ糧食彈藥ノ耗尽スルニ及ンテ降ヲ請フ
 ノ外他ニ策ナキニ至レリ

此攻圍完全ナルノ後「プレブナ」防禦ノ日數ニ直接ノ關係ヲ有スルモノハ則チ貯蓄
 品ノ數量ナリ而シテ「オスマンパシヤ」ノ有スル貯蓄品ハ幾何ナルヤヲ測定スル甚
 タ困難ナリキ然レモ諸般ノ情報ニ因リ「プレブナ」軍ノ糧食ハ多クモ二ヶ月間ニ非
 サレハ支フル能ワスト概算スルヲ得タリ

「プレブナ」ノ土軍ヲ降服セシムル爲メ攻圍法ヲ採用セシヨリ一意唯此線ヲ強固ニ
 Plewna
 スルヲ之レ努メ毫モ攻撃手段ヲ施サ、リキ何トナレハ假令之ヲ行フモ徒ニ人馬損
 傷ノ數ヲ増加スルノミニシテ決シテ好結果ヲ得ヘカラサルヲ以テナリ故ニ此間攻
 圍線ノ圍形ヲ可及的縮小シ且ツ何レノ点ト雖モ敵ノ突撃ニ抵抗シ得ルノ處置ヲ爲
 スノ外他事ナカリキ

是故ニ陣地ニハ塹溝及射手ノ掩壕ヲ掘開シ砲臺ヲ設ケ又最モ緊要ナル点ニハ眼鏡
 堡及ヒ角面堡ヲ構築シ以テ攻圍線ヲ堅固ニス其他敵ノ築城ニハ我砲火ヲ集中スル

シ勉ム之レカ爲メ塹溝及壕ヲ敵線ニ近接セシメ以テ我砲台ヲシテ敵ノ銃火ノ害ヲ蒙ラシメサル如クス又我陣地間ニハ良道ヲ設ケ指道標ヲ建テ、以テ軍隊ノ運動ヲ容易ナラシメ敷橋梁ヲ架設シ攻圍線ノ周圍ニ電信交通ヲ設ケ加之出撃ヲ受クルニ際シ速ニ可及的衆多ノ軍隊ヲ集合シ得ル爲メ豫メ敵ノ突撃スヘキ点ヲ想定シ之レニ所要ノ處置ヲ施セリ

「ブレブナ」ノ周圍ニ七十「ウエルスト」ノ長ヲ以テ包圍セル陣地ハ此目的ノ爲メ六國區ニ分割ス而シテ各國區ニハ其幅員ト要用トニ應シテ適當ナル軍隊ヲ配當シ以テ防禦ニ任ス即左ノ如シ

第一國區 「ヌースールルー」ト「グリウイッア」ノ角面堡トノ間
Sonsorion Griviza

司令官留馬尼國軍團長將官「セルナ」
Cerna

兵員 留馬尼軍隊

第二國區 「グリウイッア」ヨリ「ガリツツ」(「ラヂシエウチ」ノ西方)ノ角面堡ニ至ル
Griviza Galiz Radichevo

司令官魯國第九軍團長中將「クリユドチル」
Krivitskiy

兵員 歩兵第三十一師團(師團砲兵)ヲ有ス

歩兵第五師團第二旅團(砲兵四中)ヲ有ス

第三國區 「ガリツツ」ノ角面堡ヨリ「トウチエニツア」ノ谷岸ニ至ル
Galiz Tutchentza

司令官魯國第四軍團長中將「ツトフ」
Zotov

兵員 歩兵第二師團、砲兵第三十旅團及獵兵第十二大隊

第四國區 「トウチエニツア」ノ谷岸ト「クルトザブ」ノ間
Tutchentza Krtozab

司令官魯國歩兵第十六師團長中將「スニコムレン」
Skobelof

兵員 歩兵第十六師團(師團砲兵)ヲ有ス

歩兵第三十師團、砲兵第二旅團

獵兵第九第十第十一大隊

格薩騎兵第九聯隊

第五國區 「ツルトザブ」ノ谷岸ヨリ「ウイド」河ノ右岸「ナール子」村ニ至ル
Krtozab Vid Tyrnen

司令官魯國近衛歩兵第三師團長中將「カタレイ」
Katalay

兵員 近衛歩兵第三師團(師團砲兵)ヲ有ス

近衛騎兵二中隊及「ドン」格薩砲兵第十中隊

第六團區 「वाई」河ノ左岸ニ沿フ但シ右岸ニアル「スースールル」ノ陣地ヲ合
有ス
Via Samsurion

有ス

司令官近衛軍團長中將「ガチツキー」
Ganetsky

兵員 撰抜兵軍團

歩兵第五師團ノ第一旅團(砲兵二中隊)
ヲ有ス

留馬尼國第四師團(師團砲兵)
ヲ有ス

「カザン」ノ龍騎兵第九聯隊
Kazan

「ブーク」ノ鎗騎兵第九聯隊
Boug

「キエウ」ノ「ユツツール」騎兵第九聯隊
Kiew

「ドン」格薩騎兵第四聯隊
Don

「カララッシニ」騎兵一聯隊
Kalarashnik

騎砲兵第七中隊
「ドン」格薩砲兵第二中隊

又「オスマンパシヤ」ノ施行シ得ヘキ出撃ノ方法ヲ想定シ且ツ脅威セラル、点ニ應

シ各軍隊ノ取ルヘキ方法ヲ規定シテ各團區司令ニ通知セリ終ニ「オスマンパシヤ」
Osman Pasha

ノ出撃スル前數日我輩ノ眼前ニ於テ「ガチツキー」及「カタレイ」兩將官ノ團區内ニ
Ganetsky Kutaley

機動演習ヲ行ワシメタリ是レ出撃軍ノ勇猛ナル攻撃ヲ受クルニ當リ軍隊ノ集中ニ
要スル時間ヲ正確ニ計算シ得シカ爲メナリ

十一月二十八日十二月十日ノ前日吾人ハ已ニ記スルカ如キノ形勢ニ在リタリ

十一月二十七日十二月九日ニ於テ攻圍線各團區ノ參謀ヨリ受領セシ報告ハ皆ナ

「オスマンパシヤ」カ吾人ノ攻圍線ヲ突貫シテ血路ヲ開カントスルノ勇猛ナル手段
Osman Pasha

ヲ取ルヲ確知セシメタリ二十六日十二月八日ヨリ敵ノ砲火ハ著シク衰微シ二十

七日十二月九日ハ全ク沈黙セリ土軍ノ逃亡人等ハ吾人ニ告クルニ已ニ乾麵麩及輕

靴ヲ軍隊ニ分配シ而シテ軍隊ノ武器ヲ檢閲セシヲ以テ又「プレブナ」市街ノ
Plavna

近傍「ソヒヤ」街道上ニ一大動アルヲ知り且ツ土軍ノ陣地内部ニ軍隊及ヒ車輛ノ大

集合ヲ爲スヲ見ル其他土軍ハ「ソバチツ」ノ強地作業ノ掩護ヲ以テ「वाई」河上ニ
Sophia Oranetz

橋梁ヲ新設セリ此等諸般ノ徵候ハ敵軍出撃ノ準備ヲ爲シ而シテ其首カノ向フ所ハ

「ガチツキー」將官ノ圍區ナルヲ証スルニ足ル
Ganetsky
以上ハ魯將「トトルベン」ガ記述スル所ノ大要ナリ

「トトルベン」氏ハ「プレブナ」防禦者ノ出撃ヲ豫察シテ十二月九日ノ夕(魯國ノ十一日)
Totleben Plevna
次ノ命令ヲ下セリ

第一 歩兵第十六師團ノ一旅團、砲兵三中隊及近衛歩兵第三師團ノ一旅團ハ中將

「スユメンフ」ノ指揮ニ從ヒ十二月十日黎明「ウイド」河ノ左岸ニ移リ且ツ次
Skobelof Vid
ノ如ク位置スヘシ

一 第十六師團ノ旅團ハ砲兵三中隊ト共ニ「ドルニードウブニアク」附近ニ
Dolny Donbnik
於テ將官「ガチツキー」ノ軍隊ヲ支援スルノ準備ヲ爲シマルヘシ

二 近衛第三師團ハ新令アルマテ「ウイド」河ノ左岸上最モ河ニ近接スル二角
Vid
面堡ノ後方ニアルヘシ是レ所要ニ應シ將官「ガチツキー」ノ軍隊或ハ將官
「カタレイ」ノ軍隊ヲ扶助シ得ンカ爲メナリ
Ganetsky

第二 歩兵第十六師團ノ他ノ旅團ハ砲兵三中隊ト共ニ其障地ニ駐止シ行進ノ準備
Katalay
ヲ爲シ在ルヘシ

第三 第四圍區守備兵ノ一部ナル機兵第三旅團ノ三大隊ハ十日早朝「グリウイツ
Griviza
」村ニ赴キ中將「クリエドチル」ノ指揮セル第二圍區ノ守備兵ヲ増加スヘ
Krudner

第四 「ミルロウツイツナ」ノ角面堡ト「トウチエニツア」谷岸トノ間ナル「プレブナ」
Mirlovitch Totchentiza Plevna
ロウソツツ」街道ノ前進セル障地ハ歩兵三十師團ノ一旅團ヲ以テ占領セシ
Lovaltz
メ其他ノ旅團ハ「ルーツス」山ノ野營ニ駐マリ且ツ行進ノ準備ヲ爲シ在ルヘ
Rausse
シ將官「シユニトニコフ」ヲ第四圍區軍隊ノ司令官ニ任ス

第五 留馬尼歩兵四大隊ハ砲兵三中隊ト共ニ十日早朝「ウエルビツア」ヨリ「デミ
Verbitza Demir
」ルキヨーヂ」ニ向テ行進スヘシ留馬尼歩兵四大隊砲兵二中隊ハ「ウエルビツ
Verbitza
」ニ於テ行進準備ヲ爲シ在ルヘシ
Kioji

中將「ガチツキー」ノ軍隊ヲ増加スヘキ此軍隊ノ區處ハ土軍ノ突撃点他ノ方向ニアル場合
Ganetsky
ニ於テ亦攻圍ノ諸圍區ニ増兵ヲ送り得ルモノナリ

十二月九日夜土軍ノ逃亡人ハ「プレブナ」街ノ「ウアツツ」街道ノ軍隊司令官ニ「スユメン
Plevna-Lovaltz
フ」ニ告クルニ土軍ハ已ニ「クリシヒン」ノ角面堡ヲ開放セルヲ以テス此ニ於テ中將
Skobelof
「クリシヒン」ノ角面堡ヲ開放セルヲ以テス此ニ於テ中將
Krischin

「スコペレフ」ハ直ニ壯兵ノ技隊ヲ送り以テ此新報ノ虚實ヲ判定セリ壯兵等ハ放棄セ
ラレタル堡壘ヲ發見セリ此報知ヲ得ルヤ歩兵第三十師團ノ軍隊ハ往テ「クリシン」ニ
在ル大小ノ角面堡及「綠山」ノ塹溝ヲ占領セリ
Krichin

十日午前九時將官「トトルメン」ハ土軍尚ホ他ノ二個ノ角面堡ヲ放棄セシテ知ル依テ
Montagnes Vertes
Tollben

直ニ「ウイド」河右岸ノ諸軍隊ニ前進スヘキコトヲ命ス又未タ「グリウイツア」村ニ
Vid
Gritviza

到達セザリシ歩兵第十六師團ノ一旅團、砲兵三中队及獵兵第九第十第十一大隊ニハ
將官「ガチツキー」ノ軍隊ヲ増加スル爲メ「ウイド」河左岸ニ赴キ中將「スコペレフ」ノ
Ganetsky
Vid
Skobelief

區處ニ從フヘキヲ命ス
Radichevo
Touhtchitzka

正午魯帝ハ「ラヂシエツチ」村ト「トウナエニツア」ノ谷岸トノ間ニアル角面堡ニ到着
Osman Pacha
Ganetsky

此日早天ヨリ土將「ナスマンパシヤ」ノ軍ト魯將「ガチツキー」ノ軍隊トノ間ニ戰鬪興
レリ
Osman Pacha
Ganetsky

此戰鬪前即チ十二月九日ノ夜間撰抜兵ハ左ノ諸隊ヲシテ陣地ヲ守備セシム
一 撰抜兵第二師團ハ「キエウ」ノ撰抜兵第五聯隊ヲ以テ

二 同第三師團ハ「シベリ」ノ撰抜兵第九聯隊ヲ以テ

此軍隊ハ防禦線ノ總テノ塹溝ヲ占領ス
Siberie

此等ノ軍隊ニ最モ近接セル援隊ハ「タウリード」ノ撰抜兵第六聯隊及「プナトリユ
Fauvide
Petite Russie

ツシ」ノ撰抜兵第十聯隊ナリ

砲兵二旅團ノ九斤砲ハ防禦ノ第一線ニ又四斤砲ハ第二線ナル「ゴルニーエトロポ
Gornii Etropol

ール」及「ドルニードウブニアク」ニ在リ
Dorny Doubniak

「ゴルニーエトロポール」村並ニ其北方ナル眼鏡堡及塹溝ハ歩兵第五師團第一旅團
Gornii Etropol

ノ「アルカンヂェル」第十七聯隊及「留馬尼砲兵」二中队ヲ以テ占領ス而シテ同師團
Arhangol

ノ「ウナログダ」第十八聯隊及砲兵二中队ハ其豫備トナル
Vologda

土軍ノ攻撃動作ハ午前七時半頃漸ク顯ル魯軍大哨ハ火箭ヲ以テ敵ノ前進ヲ信号シ退
却ス撰抜兵第三師團長將官「ダニロフ」ハ撰抜砲兵第三旅團ノ第二中队ニ發火ヲ命シ

且ツ「プナトリユツシ」ノ撰抜兵第十聯隊ニ「コンニーモギラ」ニ向テ進ムヘキヲ命ス
Danilof
Kopany Mognila

又同時ニ歩兵第二旅團及砲兵四中队ヲ「ゴルニーエトロポール」ヨリ前進セシム
Petite Russie
Gornii Etropol

「ナスマンパシヤ」ハ軍隊ヲ二部ニ等分ス而シテ二万人ハ「ウイド」河ヨリ四吉米ニア
Osman Pacha
Vid

ル魯軍陣地ニ向テ血路ヲ開クニ任シ二万人ハ戦闘開始後二時間ニ非サレハ前進スヘ
カラサルヲ命シ「ウイド」河岸ニ駐止セシム是レ魯國ト留國トノ同盟軍ヲシテ突撃隊
ヲ包圍スル能ワサラシムルカ爲メナリ

午前八時「ウイド」河橋梁ノ近傍右岸ノ高地上ニアル土軍砲兵ハ發火ヲ始ム而シテ土
軍ハ河ノ兩岸平地ノ濃霧ヲ利用シ最モ速ニ橋梁ノ前方地獄ニ浴フテ其兵力ヲ展開セ
リ顧フニ此地破ハ夜間ヨリ數多ノ土軍ヲ掩蔽セシナラン

撰抜兵第三師團ノ占領セル塹溝ニ向テスル土軍ノ攻撃ハ頗ル迅速ナリキ即チ前方ニ
厚キ散兵線ヲ行進セシメ直ニ之レニ次クニ展開正面ノ大隊ヲ以テシテ其後方ニ
豫備隊ヲ前進セシム此豫備隊ハ突撃稍功ヲ奏スルト認ムルハ直ニ其点ニ向テ攻撃
ヲ扶助スルノ準備ヲ爲ス又豫備隊ノ後方ニハ軍用材料及糧食ヲ搭載セル車輛五百ヲ
從フ砲兵ハ散兵線ニ續行ス乃チ其前進ノ疾速ナルカ爲メ時々僅ニ一彈ヲ發射スル爲
メ停止シ忽チニシテ其位置ヲ轉セリ

土軍ハ激烈ナル銃砲ノ彈丸ヲ冒シ銃鎗ヲ構ヘ歩度ヲ倍シ靜肅ニ前進セリ實ニ此突撃
ハ「チスマンバシヤ」自ラ之ヲ誘導ス凡ソ四十五分時ニシテ土軍ハ撰抜兵第三師團ノ

一部ヲ以テ占領セル魯軍ノ防禦線ニ達ス爰ニ於テ土軍ハ慣習ノ「アラール」
ナル塹溝ヲ發シ「シベリ」ノ撰抜兵第九聯隊ニ迫リ肉薄シテ之レト闘争ス而シテ土軍
ハ終ニ此守備兵ヲ盡殺シ塹溝及砲六門ヲ獲タリ

中央ノ陣地ヲ占領セシ「シベリ」撰抜兵第九聯隊第二大隊及第二第三中隊ハ將校及下
士卒ノ多分ヲ失ヒシヲ以テ午前八時半「コバニーモギラ」及左方ノ眼鏡堡ニ退却ス撰
抜砲兵第三旅團ノ第三中隊ハ尚ホ暫時駐止シテ土軍ニ對シ霰彈ヲ發射セシモ其右翼
ヲ迂迴セラルニ及ンテ終ニ其陣地ヲ撤セリ此砲兵中隊ハ挽馬ノ死傷多カリシ爲メ只
六門ヲ將テ脱出シ他ノ二門ハ土軍ノ奪フ所ニ任カセタリ

「チスマンバシヤ」ハ已ニ魯軍ノ第一防禦線ヲ貫破セリ故ニ先キニ二万ノ軍隊ヲ「ウ
Osman Pacha
Petite Russie
イ」河附近ニ殘留セシヲ悔ユ然レモ今之ヲ奈何トモスル能ワサルナリ

魯軍ニ於テハ「ブナトリ」ユツシ」ノ撰抜兵第十聯隊ハ此時戰場ニ到着シ中隊毎ニ並列
シ眼鏡堡ト「コバニーモギラ」ノ間ヨリ前進シ激烈ノ放火ヲ爲シ次テ銃鎗ヲ以テ逆撃
シ「シベリ」ノ撰抜兵第九聯隊ヲ收容ス此第九聯隊ノ左側ニ位置セシ歩兵第五師團ノ
第一旅團モ亦來リ激烈ノ放火ヲ爲シテ以テ援助ス爰ニ於テ稍土軍ノ前進ヲ支阻スル

ヲ得タリ實ニ此逆撃ハ最モ勇敢ナリシヲ以テ魯軍ノ死傷亦甚タ大ナリ「アナトリユ
ツシ」ノ第十聯隊ノ如キハ數分時ヲラサルニ三大隊長及中隊長ノ半數ヲ亡ヘリ
然レモ土軍ノ攻撃ハ尚ホ漸次ニ激烈トナレリ之レニ反シ撰抜兵第三師團第一旅團ハ
已ニ夥多ノ兵力ヲ失ヒ且ツ砲八門ハ土軍ノ爲メニ奪ハル而シテ同師團ノ第二旅團ハ
未タ來接セス

午前十時ニ至リ撰抜兵第三師團第二旅團ハ戰鬪線ニ加入ス之レト同時ニ撰抜兵第二
師團ノ「モスクー」第八聯隊及「サモヂナー」第七聯隊ハ已ニ戰鬪場ニ近邇セルヲ知ル
實ニ此等増援兵ノ來着ハ魯軍ノ戰況ヲ恢復スルノ端緒ヲ爲シ而シテ土軍ノ突貫ヲ全
ク拒止スルヲ得タリ午前十時半撰抜兵第三師團ノ第二旅團ハ土軍ノ爲メニ奪略セラ
レタル塹溝ニ向テ攻撃シ二個ノ眼鏡堡ヲ得タル後「シベリ」及「アナトリユツシ」ノ撰
抜兵聯隊ヲ支援トナシ「アストラカシ」及「コフアナゴリ」ノ兩撰抜兵聯隊(第三師團
ノ)ハ尚ホ續テ迅速ニ前進ス而シテ土軍ノ放火ノ爲メ莫大ノ死傷アルニモ關ワラス
銃鎗ヲ以テ遂ニ土軍ヲ走ラス魯軍ハ先キニ失ヒシ所ノ砲八門ヲ獲持ニ「アストラカ
シ」ノ撰抜兵聯隊ハ最モ勇敢シ土軍ノ砲七門及軍旗一流ヲ奪フ

撰抜兵第三師團第二旅團ノ攻擊間同第二師團ノ「サモヂナー」第七聯隊ハ師團長中將

「スウエナヌ」自ラ之ヲ率ヒ「ユルニー」及「ドルニー」エトロポールノ中間ヲ進出シ一
發ノ彈丸ヲモ發射スルコトヲ銃鎗ヲ以テ塹溝内ノ土軍ヲ攻撃シ遂ニ之ヲ驅逐シテ砲
三門ヲ奪フ

魯軍ハ復ヒ自己ノ第一防禦線ヲ占領シ得シヲ以テ暫時此處ニ停止ス此時恰モ十二時
ニシテ土軍ハ徐ロニ「ウイド」河上ニ退却ヲ始ムルノ時ナリ撰抜兵第三砲兵旅團ノ諸
中隊ハ前進シ歩兵ト同線ニ位置シ激烈ノ放火ヲ爲シ以テ土軍ノ退却ヲ錯亂セシム之
レカ爲メ土軍ハ「ウイド」河橋梁附近ニ於テ不整頓ノ數集團ヲ爲シ且ツ道路ノ傍ニア
リシ數多ノ車輛ト相混雜スルニ至レリ

「オスマンパシヤ」ハ此錯雜ト非常ノ死傷トニ因テ攻撃ヲ再行スルヲ得ス自己ノ軍隊
已ニ然リ況ンヤ魯軍ノ攻圍區ノ諸兵ハ悉ク前進シ殊ニ歩兵第十六師團及近衛歩兵
第三師團ハ已ニ戰場ニ近邇シアルニ於テテヤ故ニ「オスマンパシヤ」ハ到底再ヒ戰鬪
ヲ開カントスルノ妄想タモ懷クヲ得サルナリ
幾クナラスシテ魯軍ノ全線ハ攻撃ニ轉シ將官「ダニロフ」ノ師團(撰抜兵第三師團)ハ

第一ニ前進ス其左側ハ「ゴルニーエトロール」ニアル歩兵第五師團ノ第一旅團ニ依
 テ又右側ハ撰抜兵第二師團ノ第二旅團ニ據テ支援セラル撰抜兵第二師團ノ第一旅團
 ハ土軍ノ左翼ヲ迂廻ス其他「キエウ」ノ撰抜兵第五聯隊ノ第二大隊及「タウリー」ノ撰
 抜兵六聯隊ノ一大隊ハ「ウイド」右岸ノ高地ヲ占領スル爲メ徒渉点ニ向テ前進ス此撰
 抜兵ハ水深帯草ニ達スル「ウイド」河ヲ渡リ「ブラジウア」ノ高地ニ攀登シ此高地上ニ
 アリシ角面堡ヲ侵襲ス守兵ハ抵抗ヲ爲スコトナク降服セリ

將官「ガチツキー」ノ軍隊ヲ支援スル爲メ送ラレタル近衛及第三師團及鎮臺歩兵第十
 六師團ノ各一旅團ハ一モ戦ニ與ラザリキ中將「カタレイ」ノ報告ニ因テ其運動ヲ知ル
 ナ得曰ク十二月十日午前七時將官「クルルロフ」ヲ以テ指揮官トセル近衛歩兵第三師

團ノ六大隊ヲ軍橋ニ依テ「ウイド」河左岸ニ通過セシメタリ午前十時此支隊ハ將官「ガ
 ニツキー」ノ請求ニ應シ「ドルニードウブニアク」ニ向ヒテ行進ス此地ニ於テ更ニ土
 軍ノ左側ニ逼迫スル爲メ「ソビヤ」街道ヲ前進スヘキノ命ヲ受ク此支隊ハ此運動中更

ニ將官「スュムレンフ」ノ統ル所トナル而シテ同氏ハ將官「クルルロフ」ニ命スルニ其軍
 隊ノ豫備隊ノ地位ニ駐メ且ツ歩兵第十六師團ノ來着ヲ待ツヘキヲ以テス依テ將官

「クルルロフ」ハ二時間駐止セシモ將官「スュムレンフ」ノ新令ヲ得ザリシヲ以テ再ヒ
 「ソビヤ」街道ヲ前進ス而シテ其「ウイド」河石橋ニ達セシ頃ハ既ニ戦闘停止ノ時ナリ
 キ

撰抜兵第二第三師團土軍ノ攻撃ヲ撃退スルノ間攻圍線ノ諸軍隊ハ「ゾトフ」「クリエ
 ドチル」及「カタレイ」ノ三中將少將「シユニトコフ」及「留馬尼軍」ノ指揮官中將「セル
 ナ」等ノ指揮ニ從ヒ東及ヒ南ノ正面ヨリ土軍ノ築城ニ向テ前進ス然ルニ堡壘ノ多ク

ハ已ニ空虚ナリシヲ以テ諸軍隊ハ直チニ「プレブナ」市街ヲ占領ス茲ニ於テ更ニ尚ホ
 「ウイド」河ニ向テ連續前進シ土軍ノ背後ニ逼迫スヘキノ命ヲ受ク依テ諸軍隊ハ漸次
 「プレブナ」ノ西方ニ於テ「ソビヤ」街道ノ傍ナル高地上ニ集合ス

留馬尼軍隊ハ「チバチツツ」ノ角面堡ニ於テ土軍ノ抵抗ヲ受ケタリ然レモ少時間戦闘
 ノ後守兵ハ武器ヲ地ニ投シテ降ル留馬尼軍ハ砲三門及停虜二千ヲ獲タリ

中將「カタレイ」ハ近衛歩兵第三師團ノ殘部ト共ニ「ウイド」河右岸ニアリシヲ以テ土
 軍ノ河ニ向テ退却スルヲ目撃セリ依テ「ウナリニー」山ニ對スル角面堡ヲ奪ヒ以テ土
 軍ヲシテ陣地内ニ退却スルノ道路ヲ失ワシメントス午前十一時半戦ハスシテ「ルー

ツス」ノ角面堡ヲ占領ス幾クナラスシテ「マホメトタビヤ」(堡壘ノ)ノ角面堡ハ少時
 間抵抗ノ後亦降ル午後一時ニ及ンテハ小戦闘ノ後「ノワール」及ヒ「バンドシユツク
 ル」(堡壘ノ)ノ角面堡ヲ侵畧ス近衛兵ハ此等ノ角面堡ニ於テ「パシヤ」一人將校百二
 十人下士卒三千七百三十四名ヲ虜ニシ砲四門ヲ奪フ而シテ近衛兵ノ損傷ハ僅ニ戦死
 三名負傷者十五名ニ過キス

「オスマンパシヤ」ハ尚ホ「ウイド」河上ニ殘留セシニ万ノ軍隊ノ來着スルヲ待テリ然
 ルニ一彈來テ「パシヤ」ヲ傷ツクルヤ忽チニシテ部下一般ノ知ル所トナリ土軍ハ不整
 頓ヲ以テ「ウイド」河上ニ退ク

土軍ハ優勢ナル敵ノ兵力ニ窘蹙セラレ既ニ戦闘ヲ持續スルヲ得ス依テ參謀長ヲ以テ
 軍使ト爲シ之ヲシテ將官「ガチツキー」ノ許ニ趣カシメ以テ「オスマンパシヤ」ハ負傷
 シ又彼ハ降服ノ約束ヲ知ラント欲スルコトヲ告ケシム將官「ガチツキー」ハ固ク執テ
 約束ナキ降服ヲ要求ス「オスマンパシヤ」終ニ之ヲ諾ス此ニ於テ將官「ガチツキー」ハ
 自ラ往テ勇猛ナル敵將ヲ誘ヘリ
 Osman Pacha Ganetsky
 此日營軍ノ獲ル所左ノ如シ

- 一 パシヤ十人
- 二 上長官百三十人
- 三 士官二千人
- 四 歩兵及砲卒四万人
- 五 騎兵千二百騎
- 六 砲七十七門

右ノ外土軍ハ此日六千人ヲ死傷ス又病者及傷者四千人ハ「プレブナ」市街ノ家屋内ニ
 倒臥シ居レリ
 Plevna
 營軍ノ損亡左ノ如シ

- 一 撰抜兵第二第三
 師團
 戦死 上長官二 士官七 下士卒四百九人
 負傷者 將官一 上長官三 士官四十七 下士卒
 千二百六十三人
- 二 歩兵第五師團第一旅團負傷者 上長官一 下士卒四十七人

以下記スル所ノモノハ魯國官報ノ抜萃ナリ以テ「オスマンパシヤ」ガ降服ノ景況如何ヲ觀ルニ足ル

(「ウイド」河ニ近接シ來レル將官「ストルーコフ」(魯將「ガチツキー」ノ參謀長 Ganetsky)ハ赤キ頭髮及ヒ同色ノ小鬚ヲ有スル土軍ノ一將校、騎兵二騎ヲ從ヘ對岸ニ來ルヲ見ル此將校ハ赤帽

(土國軍帽)ヲ冠スルニモ關ララス其相貌土耳其種ヨリ寧ロ歐羅巴種族ニ肖似ス

(彼ハ彼ノ軍帽ニ手ヲ擧ケ禮儀アル容態ヲ爲シテ「ストルーコフ」ニ敬禮シ且ツ佛語ヲ以テ自ら名イフテ曰ク「オスマンパシヤ」ノ軍ノ參謀長少將「ラウフイクパシヤ」ナリト

(將官「ストルーコフ」モ亦タ自ら其名及ヒ官等ヲ告ケ且ツ彼ニ問フニ彼ハ「オスマンパシヤ」ノ全權ヲ有スルヤ否ヲ以テ「ラウフイクパシヤ」ハ否ト答フ

(將官「ストルーコフ」曰ク然ラハ汝ハ如何ナル目的有リテ我戰線ニ來レル乎

(「ラウフイクパシヤ」答ヘテ曰ク軍ハ降參ス而シテ「オスマンパシヤ」亦然リ

等ニ通報セリ

(「オスマンパシヤ」ハ負傷ノ爲メニ將官「ガチツキー」ノ許ニ趣クヲ得ス而レモ此緊要ナル降服ノ談判ヲ他人ニ委任スルヲ欲セス故ニ彼ハ切ニ請フ將官「ガチツキー」ノ

厚意ヲ以テ街道ノ側ナル番兵舎ニ來ランコトヲ(此番兵舎ハ此時「オスマンパシヤ」ノ在ル所ナリ)

(將官「ストルーコフ」ハ補官ヲ遣シテ此請求ヲ司令官ニ告ク「ラウフイクパシヤ」ハ變ヲ回シ疾驅シテ「オスマンパシヤ」ノ側ニ還行ス

(此談話ヲ爲ス少時前魯軍ニ發火ヲ停止スヘキノ命令下ル然ルニ土軍ハ早く已ニ射撃セカリシナリ此ニ於テ最モ危険ニシテ各人ノ最モ危懼スル一霎時ヲ生セリ何トナレハ若シ不幸ニシテ一發ノ彈丸偶然爆鳴セハ鬪爭ハ忽チ再起スヘク而シテ其鬪爭タル未曾有ノ慘憺且ツ激烈ト成ル可ケレハナリ

(將官「ガチツキー」モ亦斯ノ感情ヲ以テ苦慮スルモノ、如シ而シテ「ウイド」河橋梁ノ側ニ來リ「ストルーコフ」ニ土軍ノ番兵舎ヲ指示シテ曰ク「往ケ」

(將官「ストルーコフ」ハ直チニ其馬ニ拍車ヲ加ヘ街道上ノ坂ニ向テ挺進ス此道路ノ

側ニハ土軍ノ死傷者多ク倒臥セリ又橋梁、道路、砲臺、ノ胸墻及ヒ丘阜ノ斜面ニハ尚ホ
 武裝セル土軍ノ數集團現在ス然レモ皆憂鬱トシ且ツ靜肅ナリ此丘阜ノ斜面ニハ此時
 將官「スユベレン」ノ第十六師團「クリン」僅チ經過シ來ルヲ見ル又少シク左方將官
 「シュベレフ」ノ旅團「リナニア」及「ケクソルム」ノ聯隊來ル此旅團ハ最初ヨ
 リ「ウイデ」河ノ右岸ニ在リシナリ

(將官「ストル」コフ)ハ死屍及ヒ傷者ヲ避ケル爲メ迂曲シテ土軍群衆ノ中央ヲ通過
 シ番兵舎ニ近接セリ此家屋ノ周圍ニハ多數ノ士官「ヘイ」^{Beys}「バシヤ」赤十字徽章ヲ有
 スル醫官及ヒ「ナスマン」バシヤ^{Osman Pacla}ノ補官等群居セリ此家屋ハ結構小ニシテ瓦ノ屋蓋ヲ
 有シ一丘阜ノ斜面ニアリ橋梁防禦ノ爲メニ設ケシ僅壘ニ因テ掩護セラル「ストル」
 コフハ其馬ノ大勤ヲ傳令使ナル格薩騎兵ニ授ケ此家屋内ニ入レリ家屋ノ前面ニ三個
 ノ戸扉アリテ其一ノ半開セル室内ハ傷者ヲ以テ充滿セラル又其右室ハ土軍將校ヲ以
 テ充塞シ煙雲其頭上ニ簇ル又床板上ニハ破壊シタル銅製ノ樂器、彈藥筒、彈藥箱及屈
 撓セル武器等散在ス而シテ此群衆ハ最モ謹慎ノ体ヲ以テ低聲ニ談話シ居レリ
 (「ストル」コフ)ハ佛語ヲ以テ「ナスマン」バシヤハ何レニ在リヤト問ヘリ

最モ入口ニ接近シアリシ一將校ハ感情ナキカ如ク「ストル」コフ「テ熱視シ言語ヲ發
 スル」コナク又四肢ヲ動かカス「コナク唯幾ニ首ヲ以テ左方ノ戸扉ヲ指示セリ」^{Stronkof}
 コフハ其戸扉ニ接近シ之ヲ開キ且ツ入レリ

(「ナスマン」バシヤ)ハ狭小ニシテ鄙陋ナル室内ニ居レリ此室ノ結構タルヤ床板ニ代
 ユルニ自然地ヲ以テシ僅カニ二個ノ小窓ヨリ光線ヲ取り又入口ノ右方ニ小竈ヲ備ヘ
 此火ヲ以テ室内ヲ煖培ス「ナスマン」バシヤハ長椅子ニ坐シ其背ヲ壁ニ倚托ス此椅子
 ハ其脚ヲ地中ニ埋植セシ粗造ノモノナリ彼ハ全ク落膽セシモノ、如シ然レモ彼ノ顔
 色ノ蒼白ナルニモ關ハラズ頗ル沈着シ居レリ彼ハ負傷セル左脚ヲ鉄葉製ノ空虚ナル
 彈藥箱上ニ伸張セリ「ナスマン」バシヤノ軍醫即チ大兵ニシテ且ツ甚タ老人ナル「ハ
 ツン」ブバ「イ」ハ地ニ跪ツキ注意シテ渠ガ將官ノ傷痕ヲ檢セリ而シテ其側ニハ藥劑
 外科器械、繃帶ノ物件及盥盆等ヲ備フ

(又同室内ニ於テ「ナスマン」バシヤ)ノ傍ニ壁ニ沿フテ佇立シアルモノハ中將「アヂル
 」^{Adil}「シヤ」(前年ノ魯土戰爭ニ臨ミ人々)「テウフイ」ク「シヤ」(佛國巴里ニ於テ教育)「ア
 」^{Pacla}「シヤ」(ヒテ丈ケ高ク外見威嚴アリ)「テウフイ」ク「シヤ」(テ受ケタル人ナリ)「ア
 」^{Pacla}「シヤ」(ホウセン)「シヤ」(サヂク)「シヤ」(エテム)「シヤ」及其他ノ數人ナリ
 Atif—Pacla Houssein—Pacla Sadyk—Pacla Edhem—Pacla

皆憂愁ノ狀ヲ以テ俯向キ居レリ

〔ストルークフ〕ノ室内ニ入ルヤ「オスマンパシヤ」ハ勉メテ起立シ彼ニ土國ニ於ケル敬禮ヲ施シ且ツ其手ヲ彼ニ授ク
Stroukof *Osman Paeha*

〔ストルークフ〕ハ急ニ「オスマンパシヤ」ヲ扶ケ坐セシメ且ツ曰ク閣下ハ負傷シ居レリ願クハ再ヒ坐ニ就カンコトヲ而シテ後ヲ自己ノ姓名及官等ヲ彼ニ告ク
Stroukof *Osman Paeha*

〔オスマンパシヤ〕ハ「ストルークフ」ニモ亦タ坐センコトヲ請フ然レモ「ストルークフ」ハ陸軍禮式ニ從ヒ自國ノ首將ニ對スルカ如ク「オスマンパシヤ」ヲ恭敬シ佇立シテ尚ホ談話ヲ繼續ス此時「ストルークフ」ノ背後ニハ留馬尻軍ノ上長官數名入り來レリ是レ「オバナツツ」ノ高地ニ於ケル土軍トノ戰終リ土軍ノ砲臺ヲ占領セシ後テ道路ニ依テ平原ニ降り來レルモノナリ
Stroukof *Osman Paeha*

〔魯軍ノ軍使ト「オスマンパシヤ」トノ談判ハ佛蘭西語ヲ以テセリ是レ「オスマンパシヤ」ハ稍解シ得ルヲ以テナリ然レモ實際ハ尚ホ通辯者ヲ要セリ
Stroukof *Osman Paeha*

〔ストルークフ〕曰ク下官ハ將官「カチツキ」ノ命令ヲ以テ來レリ是レ閣下ノ誓アル攻撃ヲ祝スル爲メ且ツ並セテ將官「ガチツキ」ハ未タ一モ總督皇太子殿下ノ命令ヲ得サルヲ以テ閣下及閣下ノ軍隊ノ爲メニ約束ナキ降伏ニ非サレハ承諾シ能ハサルコトヲ閣下ニ告ケシカ爲メナリ
Stroukof *Ganatsky* *Osman Paeha*

〔オスマンパシヤ〕ハ注意シテ之ヲ聞ケリ而シテ深キ熟慮ノ中ニ沈メリ
Osman Paeha

〔良久シテ「オスマンパシヤ」ハ頭ヲ擡ケ彼ノ醫官ニ對シテ静カナル音調ヲ以テ謂フテ曰ク人生ノ禍福ハ常ナキナリ一方幸ナレハ他方ハ則チ不幸ナリト次ニ徐カニ「ストルークフ」ニ向ヒ首ヲ低レ長大息シテ曰ク予ハ全ク汝ノ首將ノ希望ニ服従スヘシト
Osman Paeha *Stroukof*

〔オスマンパシヤ〕ノ低聲ニ發言セシ此數語ハ自ラ斷腸ノ思アルコトヲ發表セリ而シテ彼面上ニハ神經ノ拘攣ヲ顯シ以テ人ヲシテ惘惘ノ情ヲ起サシメタリ
Osman Paeha

〔ストルークフ〕モ亦低聲ニ答テ曰ク万事唯タ天意ニ任スヘキノミ
Stroukof

〔オスマンパシヤ〕ハ既往四ヶ月間ノ好結果ヲ恃ミ今回モ復タ彼ノ勇氣ト巧敏ト機運トニ依テ自ラ其成功ヲ期セシナリ然ルニ勇氣ト巧敏トハ最後ノ時期マテ能ク保有スルヲ得シト雖モ獨リ機運ハ既ニ已ニ彼ヨリ去レリ「オスマンパシヤ」ハ軍事上ノ名聲ヲ博セントセシモノナリト謂フモノアレモ其證ナキナリ帝ニ其證ナキノミナラス
Osman Paeha

彼カスノ如キ利己心ヲ有セサリシヤ明カナリ實ニ彼ハ突撃ノ奏功確實ナリト信セシ
 モノナリ然ラツレハ決シテ將校ニ行李ヲ携帶スルコト並ニ軍隊ニ彈藥及「プレバナ」ノ
 住民ヲ隨行セシムルカ如キヲ命セサリシナラン又彼ハ魯國將官「グールニコ」ノ「バル
 カン」山中ニ於テ爲シ得シ成績ヲ知ラサリシナリ彼ハ未タ「ウラツア」及「エトロボ」
 ル「己」ニ魯軍ノ爲メニ侵峇セラレシコト又「ナルクハニ」ハ既ニ魯軍ノ領有タルコトヲ
 モ知ラサリシヲ以テ「ソヒヤ」及「ウイゲン」ニ通スル道路ハ魯軍攻圍線ノ背後ニ在テ
 ハ全ク自由ニ通過シ得ヘシト信シテ疑ハサリシモノナリ

(三)「ナスマンバシヤ」ハ已ニ悉ク皇太子殿下ノ意ニ從ワント明言セシヲ以テ「ストルー
 コフ」ハ直ク二人ヲ遣シテ將官「ガチツキー」ヲ索メシム此間醫官「ハツシーブベ」
 ハ「ナスマンバシヤ」ノ繙帶ヲ終ル「ナスマンバシヤ」ハ一語モ發スルコトナク黙坐ス
 終始室内ノ壁ニ沿フテ佇立セル數多ノ「バシヤ」モ亦齊シク沈黙シ居レリ

半時間ノ後將官「ガチツキー」乘着シ「ナスマンバシヤ」ノ室内ニ入り且ツ軍帽ヲ脱セ
 リ此「ウイド」軍隊ノ司令官ハ故參ノ資格ヲ以テ其手ヲ彼ノ敵將ニ投ク茲ニ於テ互ニ
 握手ヲ爲セリ將官「ガチツキー」ハ淡泊且ツ觀覽乘キ容觀ヲ以テ「ナスマンバシヤ」ニ

謂テ曰ク我ハ汝ヲ祝ス汝ノ攻撃ノ壯快ナリシニ就テ汝ヲ祝ス請フ汝ノ部下ニ武器ヲ
 解脫スヘキノ命令ヲ與ヘンコトヲ

(然ル後「ガチツキー」ハ「ナスマンバシヤ」ノ側ニ坐ス茲ニ於テ室内寂トシテ聲ナキ
 ニ至レリ兩將官ハ黙シテ相對ス而シテ側ニアル數多ノ「バシヤ」モ亦々將官「ガチツ
 キー」ノ請求セシ最後ノ命令ヲ發セントスルモノ一人モアルナシ

(「ストルーコフ」ハ時計ヲ熟視シ且ツ將官「ガチツキー」ニ向テ曰ク閣下時ハ既ニ四
 時ヲ過ク甚晚シ閣下ハ閣下ノ請求ヲ促スコトヲ欲セサルカ

(將官「ガチツキー」ハ通譯者ニ由テ再ヒ請求ヲ爲ス

此時「ナスマンバシヤ」ハ重ク腕ヲ擧ケ且ツ「アザルバシヤ」ヲ目視シ彼ニ戸扉ヲ指示
 ス「アザルバシヤ」ハ悲愴ノ情ヲ以テ恭シク「ナスマン」ニ揖シ而テ後此苦難ナル命令
 ナ與フル爲メ「ストルーコフ」ト共ニ番兵令ヲ出ツ

(然ル後「ナスマンバシヤ」ハ心ヲ勵シ暴ク其軍刀ヲ脱シ之レヲ熟視スル良久フシテ
 宛モ告別ノ辭ヲ述フルモノ、如クシ而シテ之レヲ將官「ガチツキー」ニ投ク

(此間ニ於テ「アザルバシヤ」ハ高地上ノ寺塔ニ登リ軍隊ニ向テ數語ヲ發セリ且ツ擧

シ「ブーグ」ノ魯國鎗騎兵一小隊後從ス此騎兵指揮官ハ騎兵士官「バクーニーム」トス
 將官「ストルーコフ」ハ「ナスマンパシヤ」ノ側ニ於テ馬上ニアリ又土國將官及參謀官
 等ハ之ヲ圍繞シ或ハ之レニ隨從セリ「ナスマンパシヤ」ハ「カララシユ」騎兵ノ前驅ス
 ル見届テ聲テ「ストルーコフ」ニ謂テ曰ク予ハ魯軍ニ降レルカ故ニ魯國軍隊ヲ以テ護
 送セラレンコトヲ希望スト
 「ストルーコフ」答テ曰ク此命令ハ予ノ與ル處ニ非ス然レモ閣下ハ閣下ノ背後ニ魯
 軍ノ護衛兵ヲ有セリ

「ナスマンパシヤ」ハ其背後ニ魯國鎗騎兵ノ在ルヲ視稍安堵セルモノ、如シ而シテ
 竟ニ意ヲ決シテ留馬尼軍ヲ隨行セシム
 「此一行ハ街道ヲ進ミ殆ント行進ヲ止メントスルノ頃ロ「ウイド」河上ノ方向ニ於テ
 恰モ狂スルカ如キ喝采ノ聲ヲ聞ケリ是レ蓋シ魯軍總督戰場ニ到着シ軍隊ニ向テ其勝
 利ヲ祝セシニ因ル

此時ニ於テ命令到來シ「ナスマンパシヤ」ノ馬車及護衛兵ハ皇太子ノ許ニ趣ク爲メ轡
 ナ回セリ
 Osman Pacha

十二月十二日午前魯軍總督皇太子ハ補助將官「ネボコイチスキー」ヲ從ヘ「ボラツ
 ム」ニ赴ケリ是レ魯帝ノ許ニ開設セル軍事會議ニ列席センカ爲メナリ「ナスマンパシ
 ヤ」モ此日「ボゴト」ニ着スルノ豫定ナルヲ以テ其準備ヲ爲ス頻リナリ乃チ新ニ美麗
 ノ天幕ヲ張り又第十六師團ノ「オウグリツチ」歩兵第六十三聯隊ヨリ最モ秀麗ナル兵
 卒ヲ撰拔シ一小隊ヲ編組シテ名譽衛兵ヲ設クル等其用意周到ナリ然ルニ「ナスマン
 パシヤ」ノ來着ハ途次ニ傷疾ヲ治療セルカ爲メ遅刻ス
 Pacha

「將官」ガチツキー」モ亦此時來着ス而シテ十日ノ戦闘ニ於ケル魯軍死傷表及補獲物
 ノ表ヲ齎シ來レリ即チ此表ハ直チニ其本文ヲ聖彼得爾堡ニ向ヒ電報セシモノナリ此
 表ニ依レハ「ナスマンパシヤ」降服ノ日魯軍ハ土國ノ軍旗僅ニ二流ヲ獲シノミ然レモ
 「ホウサンパシヤ」ノ言ニ因レハ土軍ハ殆ント三十流ノ軍旗ヲ有セシモ各大隊ハ或ハ
 之ヲ燃焼シ或ハ之ヲ地中ニ埋没セシコト明ナリ後チ魯軍ハ土軍ノ死屍中一軍旗ヲ得
 又其他二三ノ軍旗土中ヨリ掘掘セリ

午後五時ノ頃ニ及ンテ紅白ノ旗槍ヲ有スル「ブーグ」ノ鎗騎兵及留馬尼ノ「カララツ
 シユ」騎兵ヨリ成ル長キ行列ノ一群ヲ見ル是レ「ボゴト」ニ誘導セラル、「ナスマンパシ
 ヤ」
 Bogot Osman Pacha

シヤ」及ヒ其多數ノ將校ナリ「ハール」及「ステイン」ノ兩魯國將官ハ天幕ノ入口ニ於テ「パシヤ」ヲ迎フ而シテ名譽衛兵ハ鼓ヲ奏シテ敬禮ヲ爲ス

（六時皇太子ハ「ボラザム」ヨリ來リ「オスマンパシヤ」ヲ訪フ是レ其待遇如何ヲ見ンカ爲ナリ「オスマンパシヤ」ハ頗ル優待ヲ受ク假令ハ其天幕内ニハ鐵製暖室爐ヲ備フルカ如シ此器ノ如キハ此地方ニ於テ容易ニ得ラレサルモノナリ

（囚虜トナリシ「パシヤ」等ハ食事中本營ノ諸方ニ於テ轟然歡喜ノ喚聲起ルヲ聞ク依テ其原因ヲ知ラン「マケイエウ」及ヒ土軍ノ舊小佐ナリシ大尉「チアイユウスキー」ハ彼等ニ告ケテ曰ク「スレイマンパシヤ」ハ魯軍ヲ攻撃セシモ反テ敗退セリ今此急報到來セルヲ以テ「ボゴト」ニ在ル諸人ハ其勝戰ヲ祝シテ此喝采ヲ爲スナリト「パシヤ」等ハ「スレイマンパシヤ」ノ失敗ヲ知ルヤ皆謂テ曰ク彼未タ我輩ノ既ニ此ニ及ヘルヲ知ラサルナリ否サレハ彼ハ此無益ノ企望ヲ爲スコトナク「グールコ」ノ前進ヲ扼止スル爲メ速ニ「バルカン」山ヲ踰ヘテ退クヘキナリト

（囚虜ト魯軍將校トノ談話中軍事上有益ノ事項少カラサリキ假令ハ八月三十一日（九月十二日）土軍ハ魯將「スコベレフ」ヲ攻撃セシキ死者千五百人傷者三千五百人ナリ

シト謂カ如キ是ナリ此戰闘ニ就テ「オスマンパシヤ」ノ補官ハ語レリ曰ク此日土軍ノ輜重ハ悉ク街道上「ヴィド」河ノ橋梁附近ニ送レリ是レ先キニ將官「スコベレフ」ノ爲メニ畧取セラレタル角面堡ヲ回復シ能ハサルハ直ニ「サルクハニ」ニ向テ行進センカ爲メナリ實ニ四回行ヒシ突撃ハ皆効ヲ奏セス依テ「オスマン」ハ第五攻撃ノ爲メ最後ノ手段ヲ用ユルニ決セリ即チ使用シ得ヘキ豫備隊ヲ悉ク集合シ且ツ各角面堡及塹溝ヨリ守兵ノ半数ヲ取リ以テ「スコベレフ」ニ向ヒ突進セリ而シテ兵卒ノ勇氣及熱心ヲ獎勵スル爲メ土國將官ハ攻撃隊ノ前方ニ綠色ノ大軍旗ヲ進メ又僧徒（回々教ノ僧）ニ命シ各隊ノ前方ニ行進シ且ツ高聲ニ「コラン」ノ詩ヲ朗讀セシム（是則「アラアラーガイルアラ」ナル叫聲ニシテ銃砲交發スルノ際終始能ク魯軍ノ識別セシ所ナリ其他「オスマンパシヤ」ハ砲モ退却スルノ意ナキヲ示シ且ツ兵卒ヲシテ逃走スルノ懦心ヲ起サシメサル爲メ攻撃隊ノ背後ニ厚キ騎兵線ヲ展開シ之レニ命スルニ逃遁スルモノアレハ憐ムコトナク射撃スヘキヲ以テセリ補官等ハ猶ホ語ヲ繼テ曰ク準備實ニ此ノ如シ然レモ我輩ハ成功ヲ確信スル能ハザリシナリ而シテ「スコベレフ」氏ノ退却スルヲ見ルモ猶ホ之ヲ信セス以爲ラク是唯一ノ謀計ニシテ汝（魯軍將校ヲ指ス）ノ衆

多ナル豫備隊來テ我輩ヲ擊破スルナラント何トナレハ我輩ハ已ニ汝等ノ衆多ノ兵力
 「プレブナ」附近ニ集合セルヲ聞キ且ツ之ヲ信セシテナリ然ルニ「スユベレフ」氏
 Plevna
 ノ退却ハ確實ナリシヲ知ルヤ我輩ハ攻圍線ノ未タ甚タ強固ナラサルヲ覺リ皆安堵ノ
 思ヲ爲セリ是レ實ニ「ナスマンバシヤ」ガ「プレブナ」ニ駐マリ且ツ成ルヘク永ク魯軍
 ナ拒止セントスルニ決セシ所以ナリ若シ此最後ノ第五攻撃ニシテ我輩ノ失敗トナリ
 シナラハ「プレブナ」ハ夙ク既ニ汝等ノ領有タリシナラント
 Plevna

「バシヤ」等ノ説ク所ハ「ナスマンバシヤ」ノ「プレブナ」ニ籠閉セシテ以テ一大過誤
 ナ作セシモノナリトナス彼等曰ク若シ首將ニシテ八月三十一日(九月十二日)ノ突撃
 後猶ホ一ヶ月即チ魯軍ノ増援兵到着スルニ及ンテ之ヲ拒止スルヲ停メ且ツ「ゴルニ
 ドウブニアク」及ヒ「テリシユ」ヲ奪ハレサルニ先タテ良夜ニ乘シテ「プレブナ」ヲ
 Doubniak
 去レハ事此ニ到ラサリシナラン此時ニ方テハ「ソロヤ」街道ノ交通尚ホ未タ自由ナリ
 シヲ以テ「シエフケトバシヤ」ニ合スルヲ得而シテ「タルクハニ」或ハ「エトロポール」
 Sofia
 ニ於テ第二ノ「プレブナ」ヲ爲スヲ得可カリシナリト
 Orkhanie
 (戰爭全体ニ就テ土軍ノ作戰計畫ハ最初土軍總督「アブヂェルケリムバシヤ」ノ建テ

シモノ唯一アルノミ土軍將校等ノ曰ク此計畫ニ因レハ「スレイマンバシヤ」ハ「バル
 Kan
 カン」山ノ南方ニ於テ勉メテ永ク魯軍ヲ拒止スルニ足ルノ陣地ヲ撰ミ之レニ據リ魯
 軍ヲシテ戰ヲ爲スコトナク「バルカン」山ヲ踰エシム而シテ「アブヂェルケリム」ハ東
 Balkan
 方「ラスグラド」及ヒ「ナスマンバザール」ヨリ又「ナスマンバシヤ」ハ西方「プレブナ」
 Rasgrad
 及「ロウマツツ」ヨリ「ナルノウア」ニ向テ前進シ魯軍ヲ窘廢セントセシモノナリ然レ
 Lovatz
 凡諸般ノ情況ハ「ナスマンバシヤ」ヲシテ機ニ先タテ此計畫ヲ發露セサルヲ得サルニ
 Osman Pacha

至ラシメシテ以テ事遂ニ成ラサリシナリ
 (「ナスマンバシヤ」ノ行爲ニ就テハ囚虜等皆敬服ノ色ヲ以テ談話セリ彼等曰ク「ナス
 Osman Pacha
 マンバシヤ」ハ攻圍間毫モ屈撓ノ狀ナカリキ而シテ其參謀モ亦々各自專ラ努力セリ
 Pacha
 「ナスマンバシヤ」ハ日ニ六馬ヲ使用セリ是レ常ニ防禦線、角面堡及砲臺ヲ綿密ニ巡
 Osman Pacha
 視セシカ爲メナリ若シ夜間某角面堡ニ於テ警報アルニ會フカ如キユトアレハ彼ハ曉
 マテ其處ニ駐止シ旅舎ニ代ユルニ土製ノ騎舎ヲ以テシ臥床ニ換フルニ束葉ヲ以テス
 而シテ一モ厭フ所ナカリシト

(十二月十三日魯軍總督皇太子ハ「ナスマンバシヤ」ヲ彼ノ天幕内ニ訪問シ長時間ノ

談話ヲ爲セリ談僞土將「ムークタールバシヤ」及「カルス」市街(亞細亞土耳其古ニ於テム北セル)ノ陥落ニ及フヤ「オスマンバシヤ」ハ聲ヲ勵シテ曰ク平原ノ戰ニ於テ彼ノ敗地ナリ)ノ敗
セシハ我其所以アルヲ知ル然レモ「カルス」ノ如キ城塞ニ據テ而シテ少時間ニ其陣地ヲ失ヒシハ我ノ斷シテ了解シ能ハサル所ナリト

「プレブナ」出撃ノ失敗ニ就テハ「オスマンバシヤ」自ラ讖悔シテ曰ク我ハ歩兵二万人ヲ市街ノ傍ニ止メ而シテ之レニ命スルニ戰鬪開始後二時間ニ非サレハ前進ス可ラサルヲ以テセリ若シ此日尚ホ一時間早ク行進スヘキヲ命セシナラハ此軍隊ハ適當ノ時ニ我ヲ支援シ得シナルヘク魯軍ノ攻圍線ヲ貫通スルモ亦稍爲シ得可カリシナリ而シテ將官「ガネツキー」我出撃ノ目的ハ「ソヒヤ」街道上ニアリト信スルニ及ンテ我ハ忽然「ウイヂン」街道ヲ突進スヘシ此ノ如クセハ我ノ企謀ハ或ハ此ノ不幸ナル結末ヲ爲サ、リシナラン

「將官」スコベレフ「モ亦此日」オスマンバシヤ」ヲ訪ヘリ而シテ談話ハ「シプカ」及ヒ「アリシニ」ニ於テ土軍ノ犯セシ慘酷ノ行爲ニ及ヘリ「オスマンバシヤ」ハ此非難ニ對シテ辨解セリ曰ク何人モ此件ニ關シテ予及予ノ兵卒ヲ誹謗スルヲ得サルナリ予ハ

「バシ」ボズク「人ノ此ノ如キ事ヲ爲スヲ知ル依テ大ニ之レカ注意ヲ致セリ予ハ彼ノ人種中不頼粗暴ノ徒ヲ「プレブナ」ヨリ放逐シ而シテ殘余ノモノハ制規大隊中ニ編入シ且ツ塹溝内ニ於テノミ戰ハシメタリ而シテ搶掠ヲ爲セシ五人ヲ死刑ニ處セシヨリ搶掠ハ一時全ク止ムニ至レリ予カ行爲中唯一ノ譴責ヲ受クヘキモノハ予ノ撰兵ニ命シ汝ノ軍ノ死者或ハ重傷者ヲ救護セシメザリシニアリ然レモ之ヲ奈何シテ可ナランカ其死傷者ハ壘壁ニ近ク倒臥セルモノナリ而シテ其位置タルヤ多ク汝等ハ弱點ト認メ再ヒ攻撃ヲ實行セントスルノ點ナリ加之此死屍ヨリ生スル惡臭ハ大ニ我軍ヲ苦マシム實ニ汝ノ兵ニシテ我壘壁ニ達シテ倒ル、モノハ皆拔群ノ義勇アル者ノミ愛悼スヘシト雖モ如何トモスル能ハカリシナリ然レモ予ハ斷然同僚ヲシテ非難ヲ受クヘキ行爲ヲ廢セシメント欲ス請フ予カ爲ス處ヲ見ヨト「オスマンバシヤ」ハ直チニ筆紙ヲ取リ「レウフバシヤ」ニ與フヘキ左ノ文書ヲ草セリ

「師團長」スコベレフ「將官」ハ予ニ告クルニ吾曹ノ軍隊ハ魯軍ノ傷者ニ對シ殘酷ノ行爲アルヲ以テス予ハ汝ニ注意セサルヲ得ス此ノ如キ行爲ハ人情ニ違ヒ万国公法ニ背キ而シテ歐洲各國ト共ニ吾曹ノ加入セシ日納府條約ニ戾ルコトヲ故ニ予ハ汝ニ勸告

ス速ニ諸般ノ殘酷ナル行爲ヲ全廢スル爲メ急ニ之レカ處置ヲ作サンヲ
此書翰ハ單ニ上ニ書スル如クニシテ東國風ノ懇懇ナル定式ニ依ルヲナク又一ノ冗語
ヲモ有セザリキ「オスマンパシヤ」ハ署名ニ代エテ封上ニ小印ヲ捺シ以テ之ヲ「スエ
デン」ニ與ヘ且ツ曰ク
Osman Pacha
Shobe.

（此書翰ヲ「レウフパシヤ」ニ與フルノ時期ヲ求メヨ予ハ之レニ依テ殘酷ナル行爲ノ
全ク廢マレンコトヲ信スルナリト
Leouf Pacha

（「オスマンパシヤ」ハ「ボゴト」ヲ去テ魯士亞ニ趣クニ先ナ土耳其首相ノ秘書官ニ左
ノ公文ヲ送送セリ
Osman Pacha Bogot

（汝ハ知ルヲ要ス我輩ハ六週間攻圍ノ中ニアリシコトヲ予ハ外部ノ救援ヲ得ザリシヲ
以テ出撃ヲ試ムルニ決セリ予ハ全兵力ヲ用ヒシト雖モ功ヲ奏セス而シテ今ヤ「プレ
ブナ」ノ守兵悉皆ト共ニ囚虜トナレリ魯國皇帝及皇弟ハ予ノ軍隊ノ義勇ヲ鑑識シ頗
ル仁慈ヲ以テ予ヲ過ス予ハ輕傷ヲ蒙リシト雖モ一モ健康ヲ害セス予ハ魯國ニ於テ何
レノ地ニ着スヘキヤヲ未タ確知セス然レモ一定ノ地ニ到着スルニ至レハ予ハ汝ニ行
細ノ書翰ヲ送ルナラン）

十二月十六日午前「オスマンパシヤ」ハ赤十字社ニ屬スル行李車ト共ニ魯國ニ送ラ
ル

「オスマンパシヤ」ノ創傷ハ日ニ輕快ニ趣ケリ十二月二十八日彼ノ醫官ハ「ダリシエ
Osman Pacha Dail-Cho-
ー」ニ於ケル衛生部會長ニ左ノ報告ヲ爲セリ

「カヂオスマンパシヤ」ハ馬上ニアリテ左膝ニ一彈ヲ受ク此彈丸ハ外方ヨリ内方ニ
貫キ其余力ヲ以テ馬腹ニ侵入セリ傷痕漸ク愈一ヶ月ノ後ハ痕跡ヲ留ルコトナク全治
スルナラン
Ghari Osman Pacha

近衛軍醫長

醫學士 「ハツミーブ」
Hasib.

十二月十八日土將「シヤキールパシヤ」ノ發セシ報告中「オスマンパシヤ」最后ノ突撃
ノ景況ヲ証明スルニ足ルモノアリ乃チ左ノ如シ
Chakir Pacha Osman Pacha

（軍曹「アリナヤウ」ハ「プレブナ」ヨリ免レ來レリ其申供ニ曰ク「プレブナ」没
落ノ前日ニハ己ニ兵隊ノ口糧及砲兵ノ彈藥ヲ陣地内ニ有セス此日開設セシ軍事
會議ハ敵線ヲ突貫シテ「ラホヴァ」ノ方向ニ血路ヲ開カントスルニ決セリ此決
Rahova

定ニ依テ我輩ノ軍隊ハ夜半行進ノ途ニ就キ諸種ノ材料ヲ以テ急造セル「ウイド」
河ノ橋梁ヲ經過シ敵ノ堡壘線マテ前進ス而シテ此處ニ於テ敵ノ陣地及砲門ヲ
奪ヒタル後「エトロポール」ノ高地ニ達スルヲ得タリ

此第一ノ目的ヲ果セシ「オスマンパシヤ」ノ軍ハ一時敵線ヲ突貫シ得ヘキノ望ヲ
有セリ然レモ魯軍第二線ヨリ激烈ナル砲撃ヲ蒙リ我輩ノ第一線退却スルニ及ン
テ「オスマンパシヤ」亦負傷セリ我輩ノ軍隊ハ已ニ疲勞セシヲ以テ「ウイド」河橋
梁ノ附近ニ集合セリ此間「プレブナ」ノ築城ハ已ニ魯軍ノ占領スル所トナリ而シ
テ軍ハ降參セサルヲ得サリシナリト

「ロウアツツ」ノ方向ヨリ遁レ來レル三個ノ住民ノ謂フ所モ亦「アリチヤウーク」
ノ言ヲ確證スルニ過ギサリシナリ

魯國皇太子ハ「プレブナ」略取ノ翌日ヨリ令ヲ以テ軍隊ニ左ノ告示ヲ爲セリ

魯士亞及留馬尼ノ勇猛ナル汝等軍人ヨ

敵ノ最後ノ抵抗ハ撰抜兵軍團ノ銃鎗ヲ以テ挫折セリ而シテ「プレブナ」略取ト
「オスマンパシヤ」及其全軍ヲ囚虜トナセシトハ已ニ全國ノ知ル所トナレリ

捕虜四万人細別セハ「パシヤ」十人上長官百廿八人士官二千七十七門武器及

軍旗〇此等ハ實ニ汝等ノ比類ナキ勇氣ノ證徴ナリ

汝等ノ勇氣ト勞動ヲ常ニ鑑識スル所ノ證人ニシテ且ツ吾人カ國君ト崇敬スル魯
國第一ノ軍人(單ニ魯帝ト云)予ニ授クルニ第一等「ザンヂエナルシユ」ノ勳章ヲ
以テス

是レ併シナカラ予一人ノ力ニ依テ得タルニ非スシテ予ハ之ヲ汝等ノ勞力ニ依テ
得タルナリ故ニ此勳賞ハ則チ汝等カ勇猛中最モ勇猛ナリシヲ證明スベキモノナ
リ

汝等勇士ヨ予ハ汝等カ今日マテノ行爲ヲ謝ス尚ホ連續努力セヨ敵ハ恐怖スヘキ
汝等ノ「ウーラ」(喚聲)ヲ決シテ忘ル、ナカラン

此日令ハ各步兵中隊騎兵中隊「ソトニアス」(隊名)及砲兵中隊毎ニ誦讀スヘシ

署 名

又留馬尼候ハ十二月廿日留馬尼軍ニ左ノ日令ヲ稟告セリ

汝等兵卒ヨ

汝等ノ剛厲ナル努力汝等カ耐忍セシ困苦汝等カ流セル鮮血此等ハ總テ武功ヲ以テ償フヲ得タリ日即チ「ブレブナ」ノ恐ルヘキ城塞カ汝等ノ勇氣ニ依テ陥落セシ日又上帝ノ最良ナル軍隊及著名ニシテ且勇猛ナル將官「サスマン」ガ戰敗レ汝等及汝等ノ榮譽ノ伴侶タル魯帝ノ兵卒ノ前ニ武器ヲ解脫セシ所ノ日ニ於テ

汝等ハ既往ノ聲價アル功績ニ尚ホ之レヨリ大ナル武勳ヲ更ニ附加セリ歴史ハ汝等ノ姓名ノ傍ニ此等ノ偉績ヲ消滅セサル如ク記入スルナラン

又カラスシテ汝等ハ本國ノ爲メニ忠誠ナリ且ツ勇猛ナリシ證トシテ「ダニユーブル」川通過ノ從軍記章及留馬尼國獨立保護ノ勳章ヲ胸襟ニ懸ケ汝等ノ住處ニ還ルナラン

然ルルハ汝等生産セシ所ノ市街、村落或僻陬ニ於テ汝等ノ親族ノ中央ニ坐シ且ツ父母兄弟及知友ニ汝等カ國ノ爲メニ爲セシ所ノモノヲ談スルナラン

老者ハ祖先ヨリ聞キ得タル所ノ留馬尼國民ノ盛時ヲ談シツ、且ツ汝等ノ談話ヲ聽クナラン

壯年者ハ汝等ニ就テ彼等カ後來服スヘキ所ノ義務ヲ見解スルナラン而シテ留馬

尼國ハ實ニ汝等ニ依テ勢威ヲ耀スヲ得タルナリ

留馬尼國ニシテ國ヲ愛スル「汝等」如キ精心國ヲ保護スル爲ニハ亦タ汝等ノ如キ勇者ヲ有スル間ハ其獨立確實ナルヲ得

汝等ノ君主ナル最上司令官ハ國ニ代リ深キ親愛ヲ以テ勇猛ナル汝等ニ謝ス

土軍ノ頑固ナル抵抗ハ「ブレブナ」ノ陥落ニ因テ其終リヲ示セリ

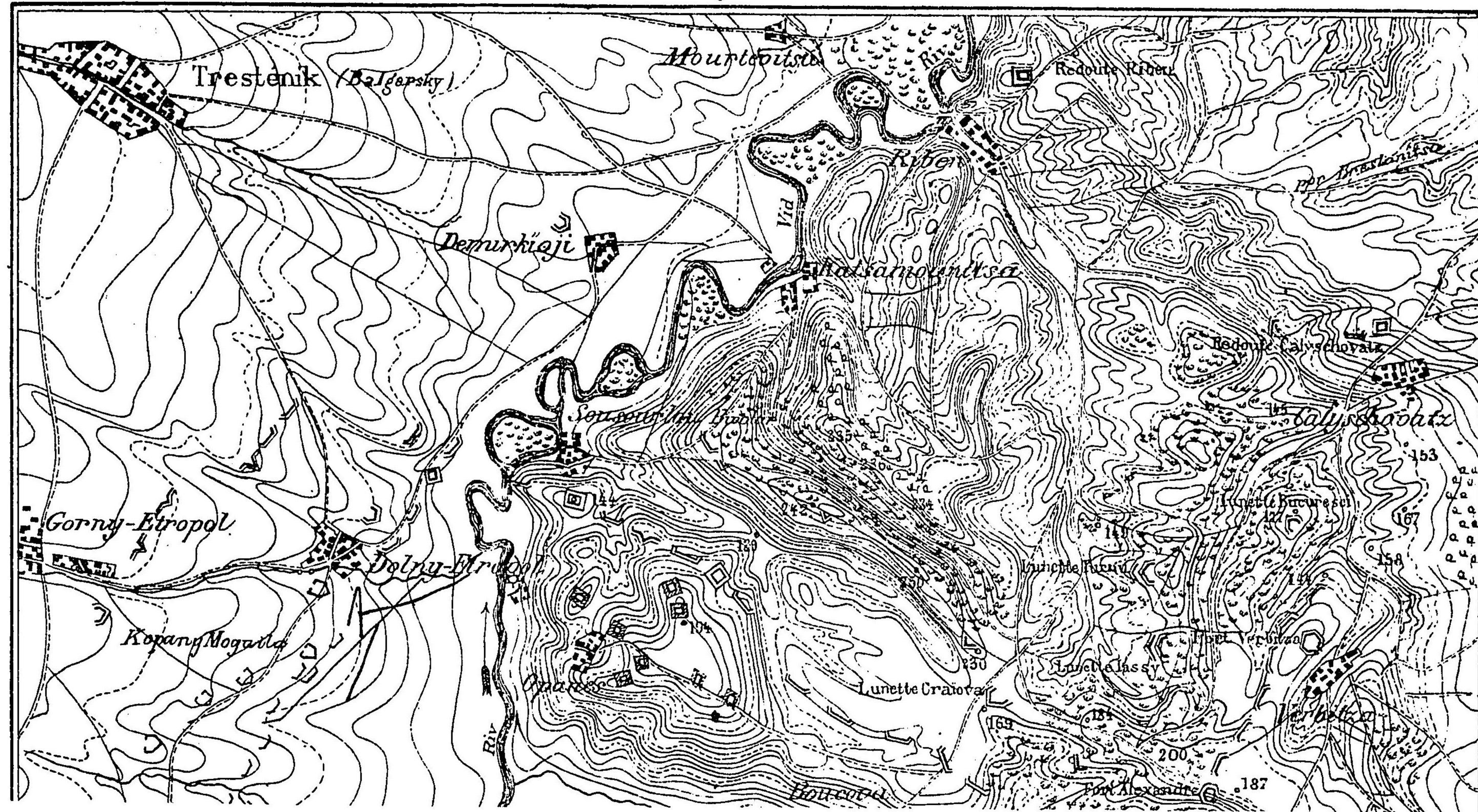
Plevna

頁	行	誤	正
一	七	OsmanPacha	OsmanPacha
一	五	得シカ爲	得シカ爲
一	六	十二月十日	(十二月十日)
一	七	十二月九日	(十二月九日)
一	九	十二月八日	(十二月八日)
一	十	十二月九日	(十二月九日)
一	十二	大勅	大運動
十七	七	セラルニ	セラルニ
二十	十一	ガコツキ	ガ子ツキ
二十	十四	軍隊ノ	軍隊ヲ
二十一	五	シュニトコフ	シュニトニコフ
二十一	八	通迫	逼迫
二十二	十三	勝ヘリ	訪ヘリ
二十四	五	(土國軍帽)	(土國軍帽)
二十六	三	左方將官	左方ニ將官
二十八	八	留馬尻	留馬尻

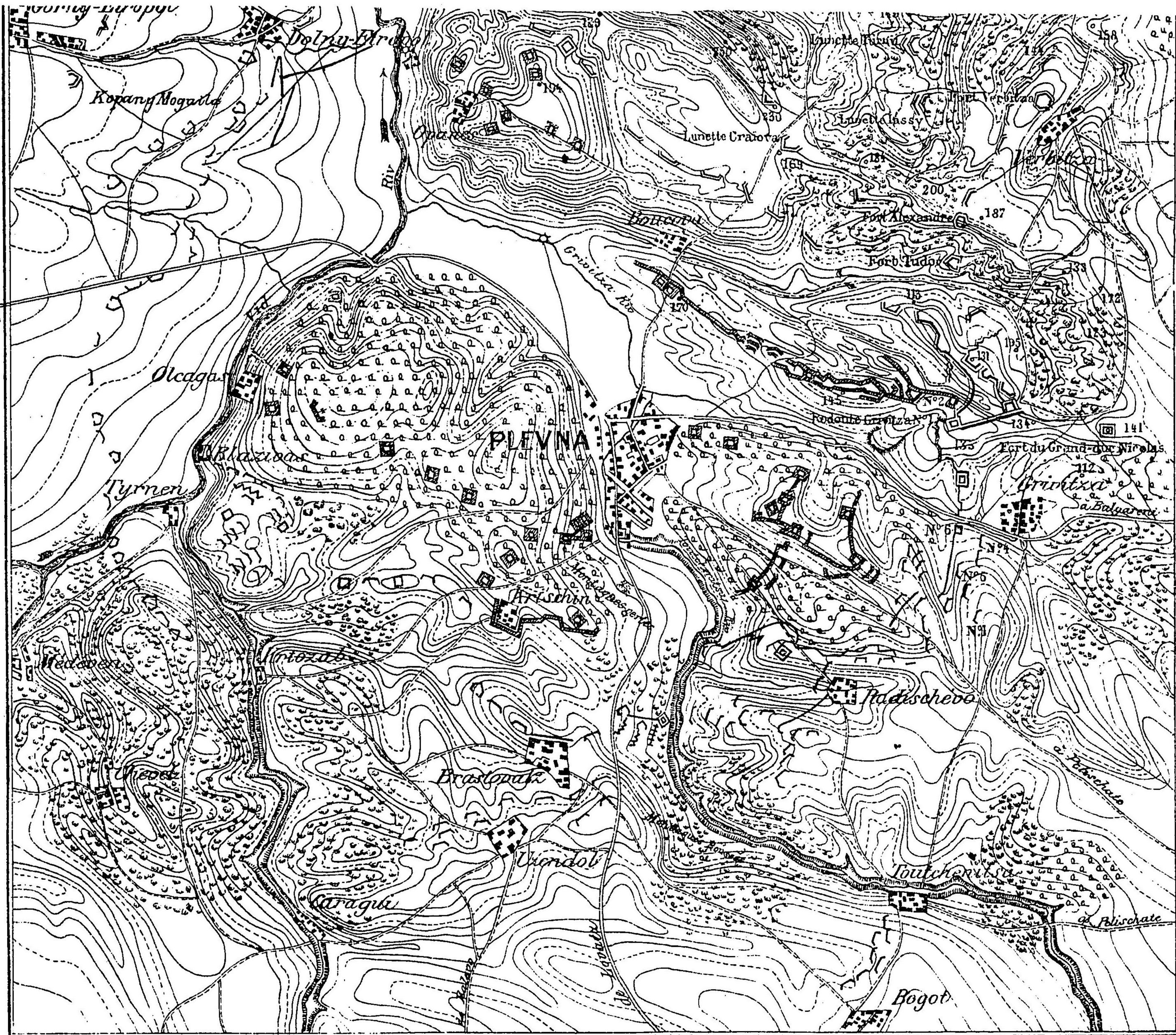
頁	行	誤	正
二十八	九	ラバナツツ	オパ子ツツ
全	全	Opantz	Opantz
三十三	十	擊	擊
三十三	十	擊	擊
三十五	十二	軍旗土中	軍旗ヲ土中
四十一	四	撰兵	撤兵
四十三	十二	軍曹	軍曹
四十五	四	軍人(……)予	軍人(……)ハ予
四十五	十一	ソトニアス	ソトニアス
四十六	十	汝等生	汝等ハ生
四十七	二	精心	精神
四十七	四	汝等ニ謝ス	汝等ニ謝ス
四十七	五	土軍ノ頑固ナル云々ノ一行ハ二	字上ル

PLEVNA

d'Après le plan de l'Etat Major Général de l'Armée Roumaine.



Dolny Douibriak
de Sophia par Orhanie



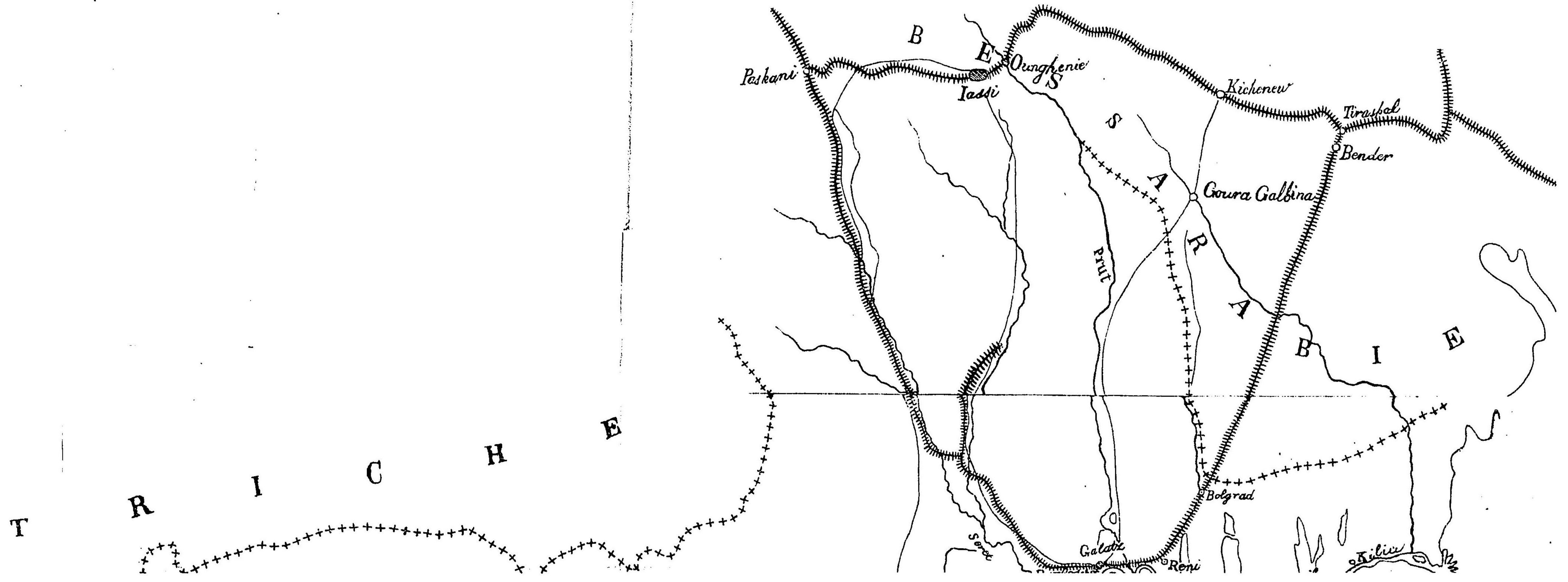
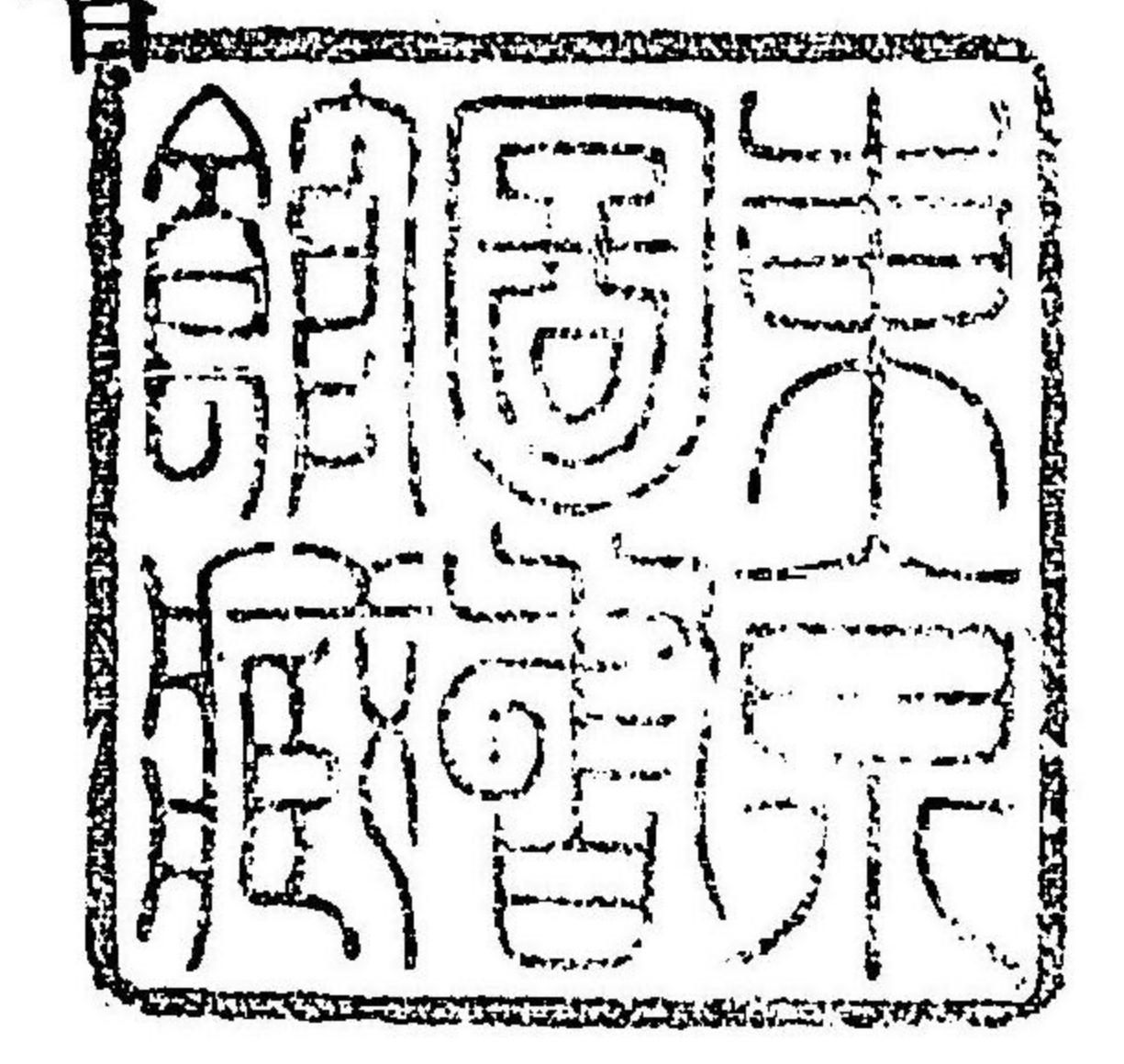
==== Chaussée principale 首級街道
 ===== Chemin ordinaire 普通道路
 - - - - - Sentier 小路

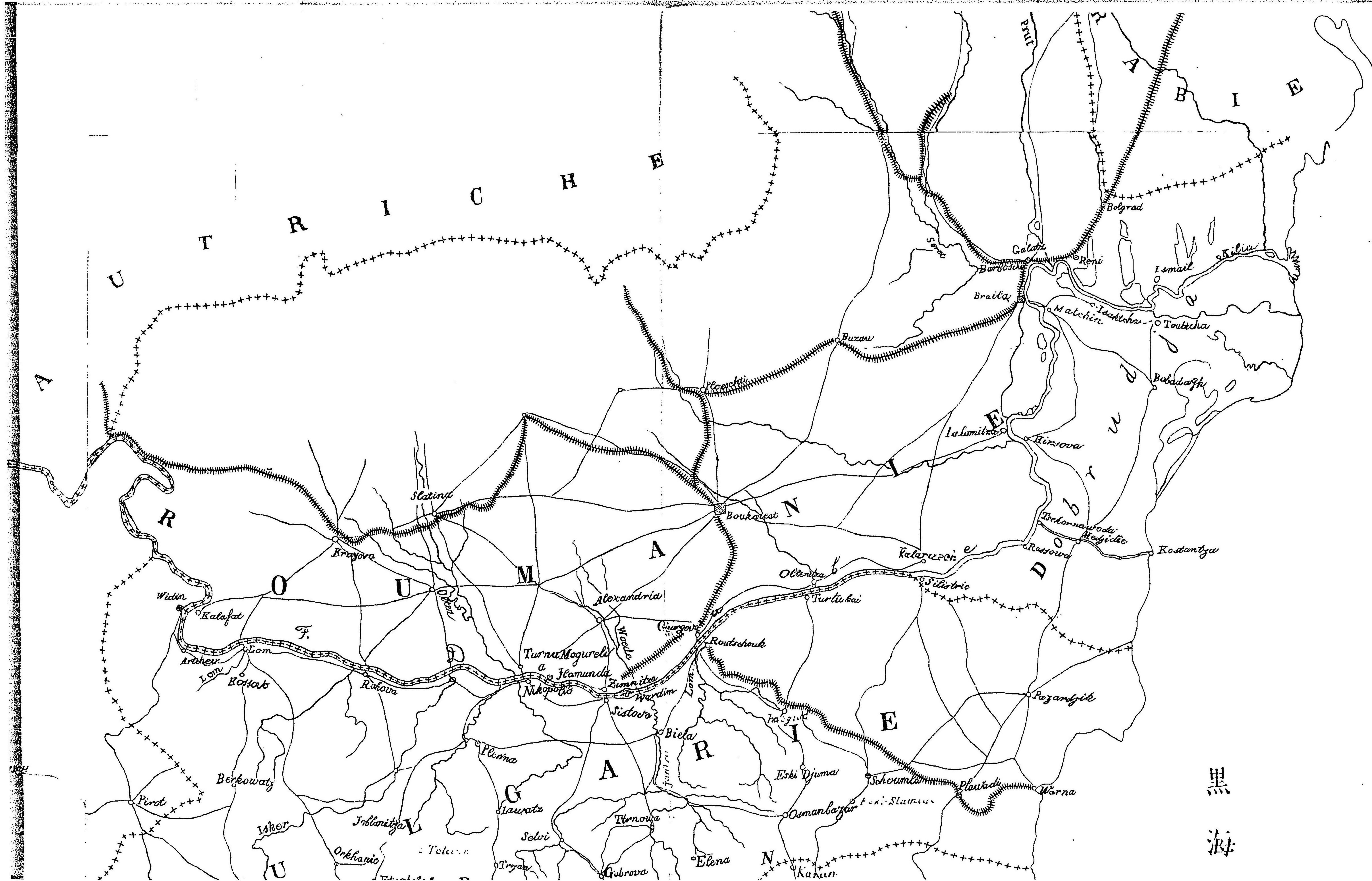
Echelle : 80.000.

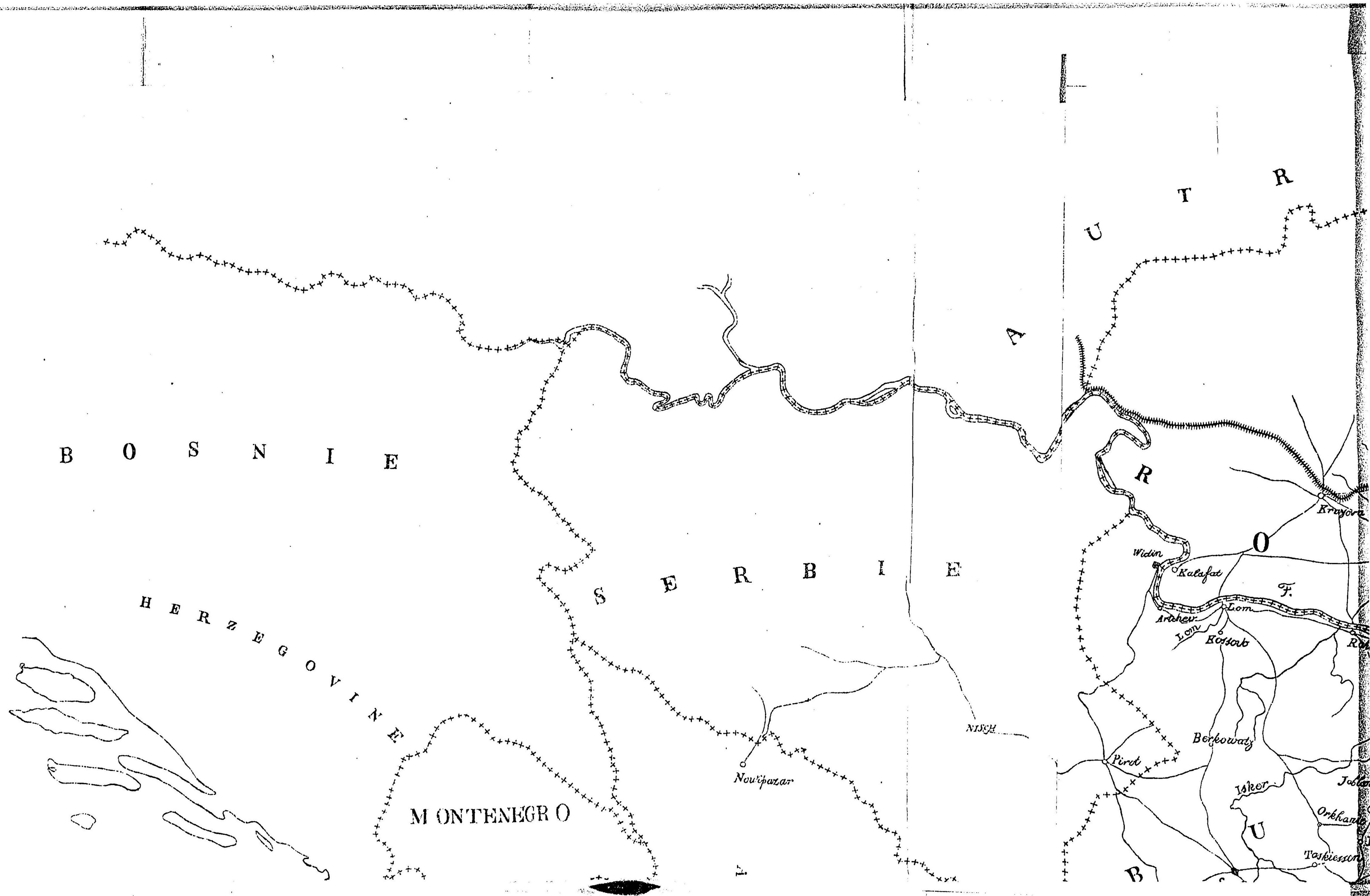
— Positions fortifiées des Roumaine 羅馬尼亞(陸軍) 砲台
 — Positions fortifiées des Russes 露士(陸軍) 砲台
 — Positions fortifiées des Turcs 土耳其(陸軍) 砲台

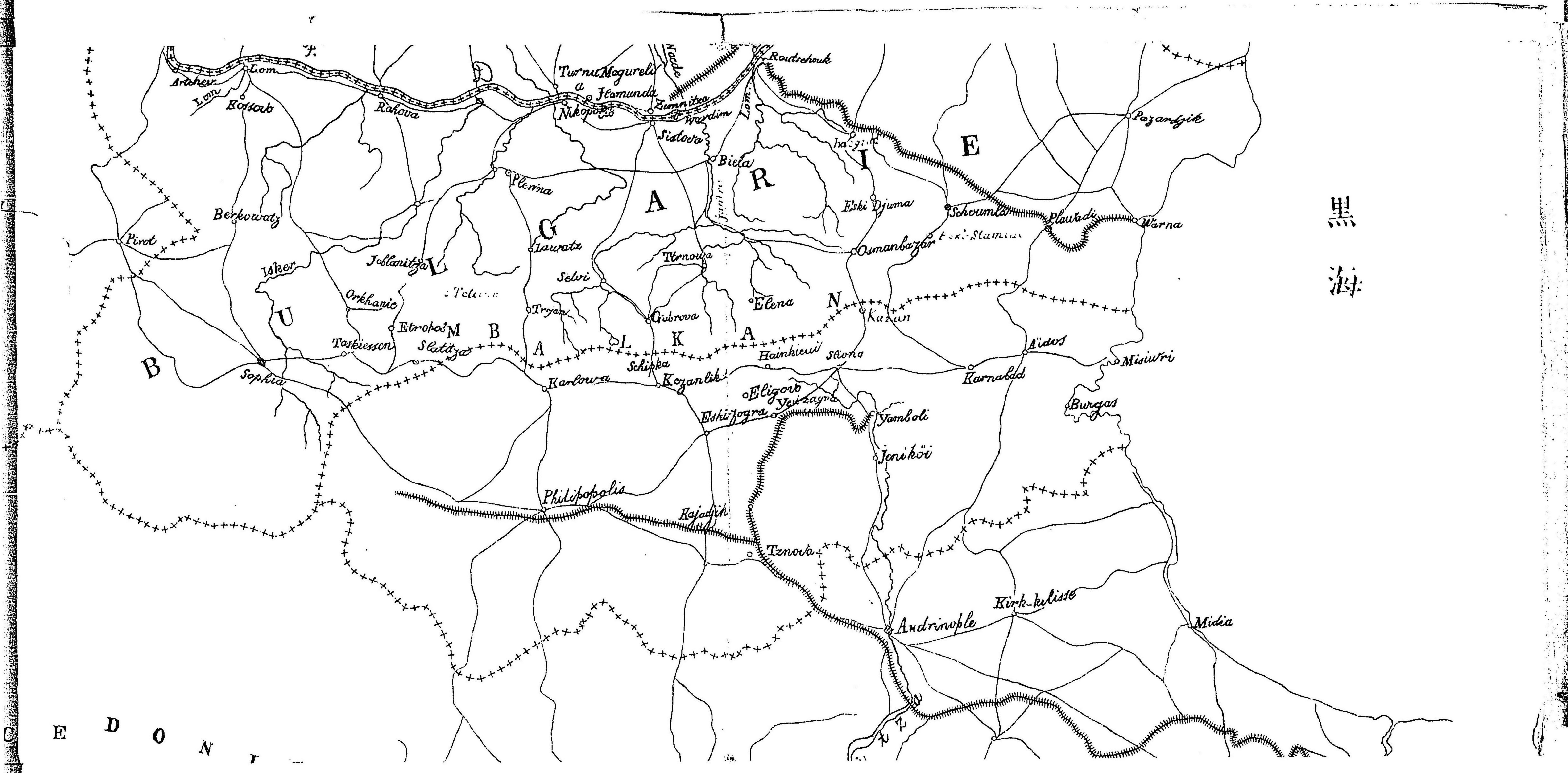
魯 土 戰 史 一 般 圖

梯 尺 百 五 十 萬 分 一



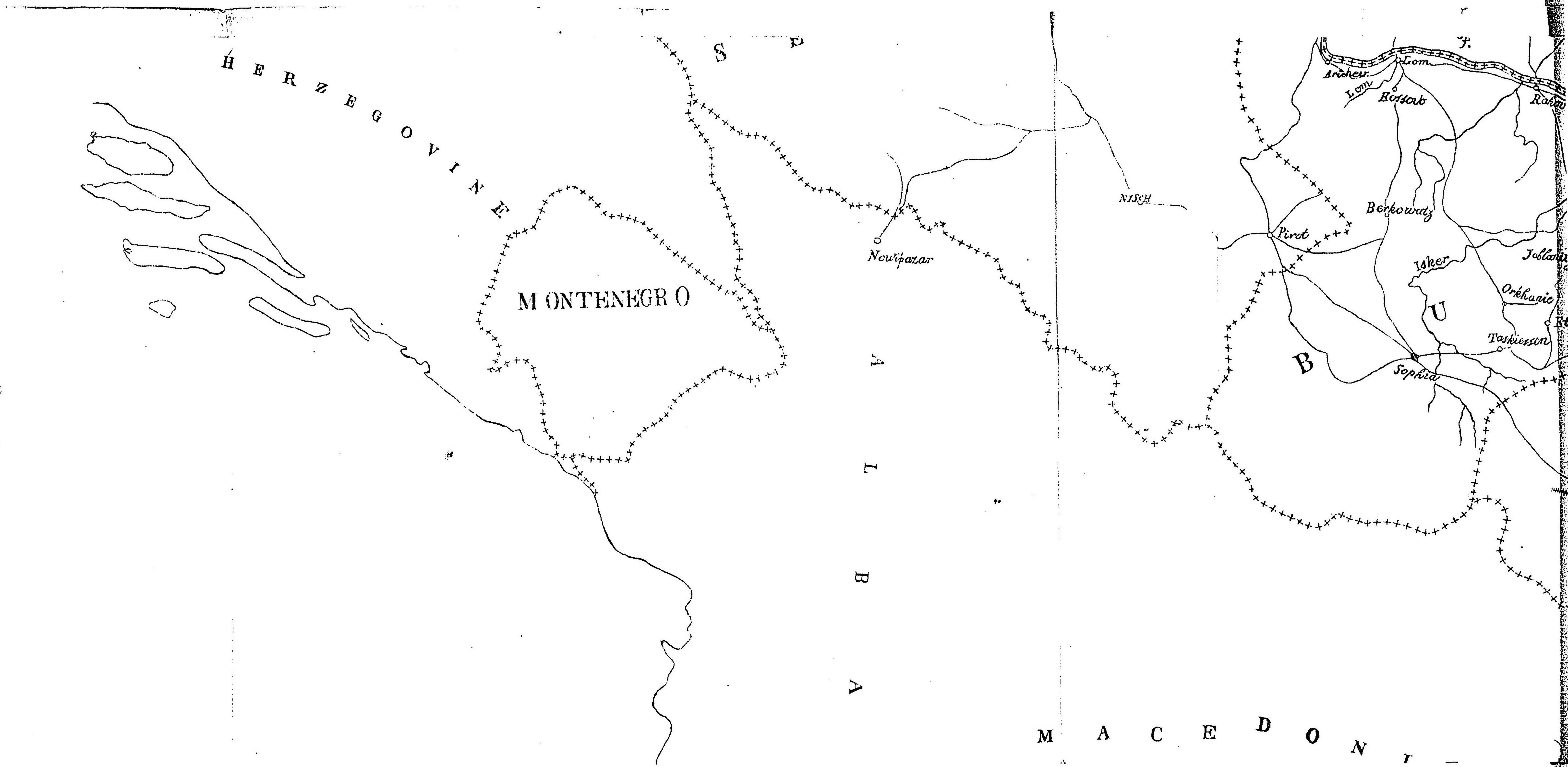






黑海

E D O N I



A C E D O N I E

H E S S A L I E

Kawala

Pinos

Rodaso

Constantinople

海刺麻爾麻

多島海

